

第 2 章

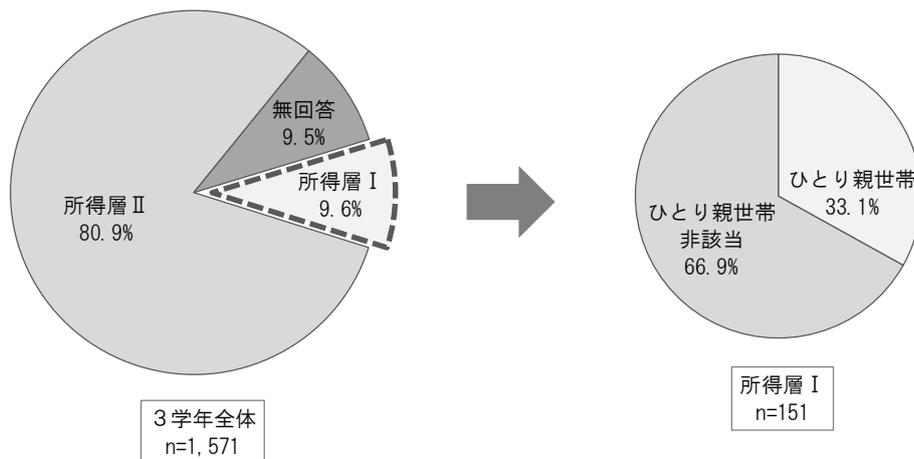
保護者調査の結果

第2章 保護者調査の結果

1 貧困世帯基準への該当状況

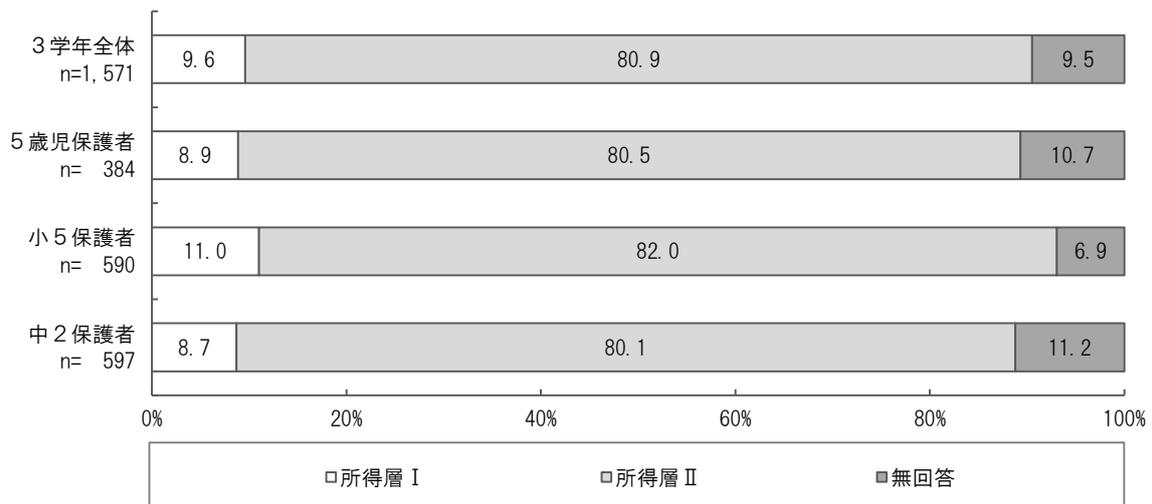
○5歳児・小学5年生・中学2年生の保護者回答者のうち、「所得層Ⅰ」の該当世帯は9.6%となっています。また、該当世帯の33.1%が「ひとり親世帯」となっています。

■ 貧困世帯基準該当の状況

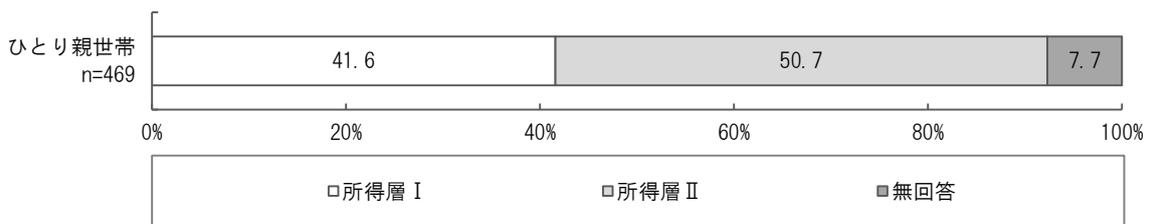


※3学年全体…①、②、③、④、⑤、⑥(P5参照)の調査票に回答した方を合計しています。

■ 貧困世帯基準該当の状況 (学年別)

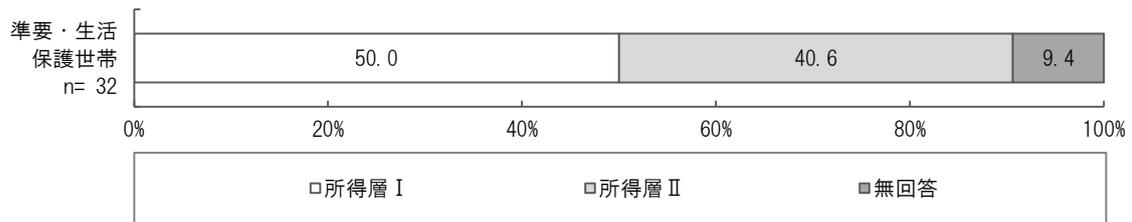


■ 貧困世帯基準該当の状況（ひとり親世帯）

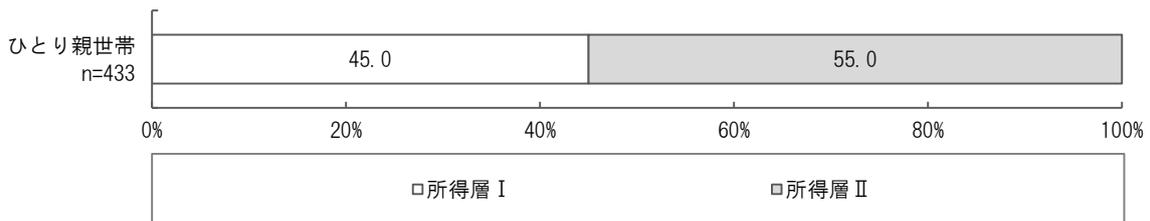


※ひとり親世帯…②、④、⑥、⑧(P5参照)の調査票に回答した方を合計しています。

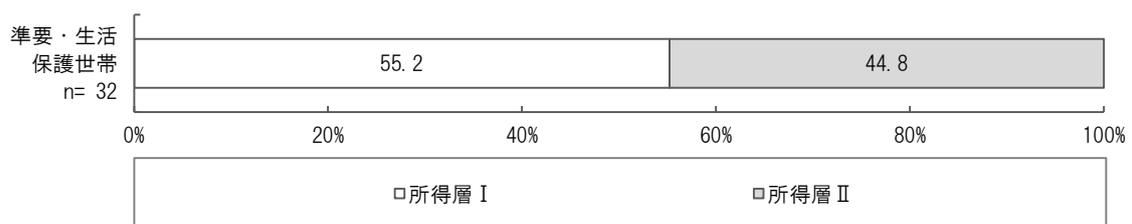
■ 貧困世帯基準該当の状況（準要保護・生活保護世帯）



■ 貧困世帯基準該当の状況（ひとり親世帯、除く無回答者）



■ 貧困世帯基準該当の状況（準要保護・生活保護世帯、除く無回答者）

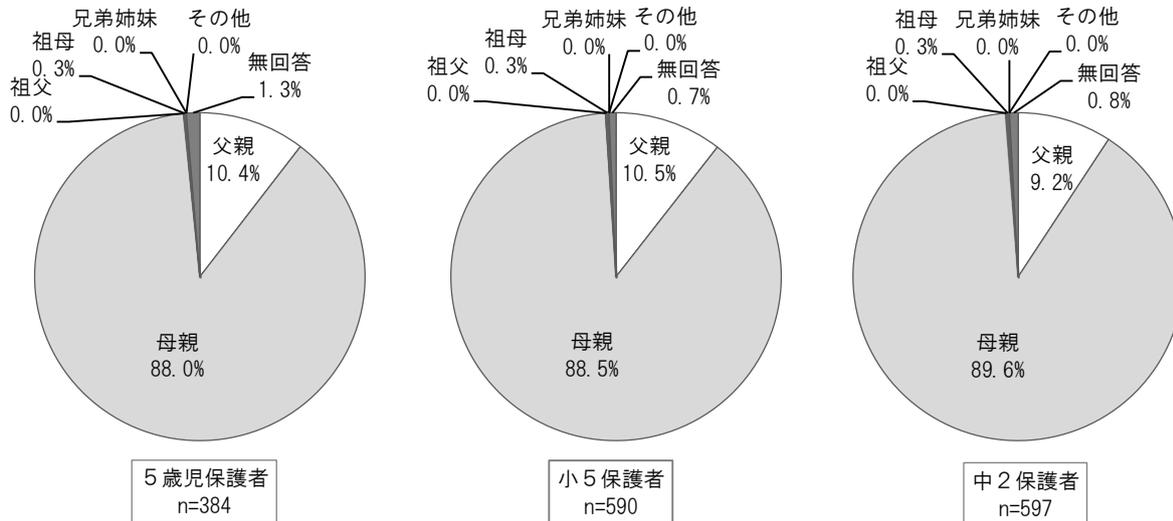


2 5歳児・小学5年生・中学2年生の保護者の調査結果

(1) 回答者の基本情報等

○本調査への回答者は、いずれの学年も「母親」が88.0～89.6%と大多数を占め、次いで「父親」が9.2～10.5%となっています。

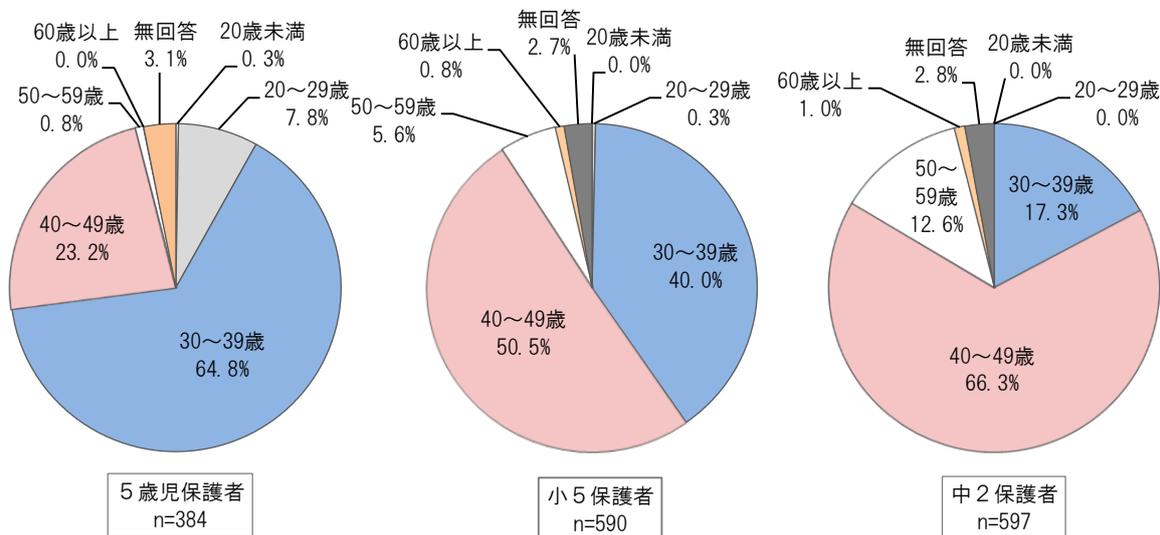
問1 調査への回答者（子どもから見た属性）



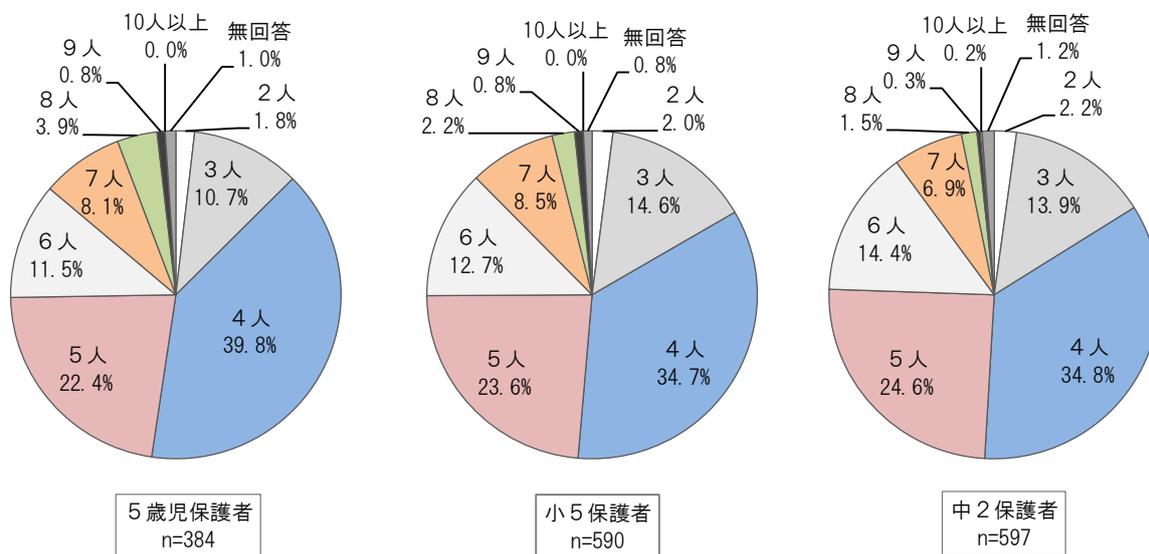
○回答者の年齢は、5歳児保護者では「30～39歳」が64.8%、小5保護者・中2保護者では「40～49歳」が50.5%・66.3%で最も高くなっています。

○同居している家族の人数をみると、いずれの学年も「4人」が3割台と最も高く、次いで「5人」が2割台となっています。

問2 回答者の年齢



問5 同居している家族の人数

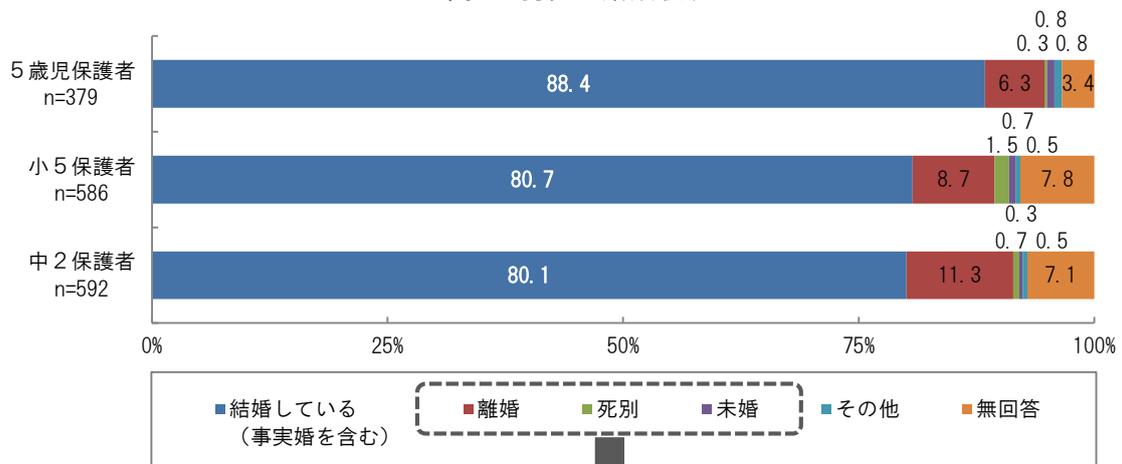


○現在の婚姻状況は、いずれの学年も「結婚している（事実婚を含む）」が8割台となっています。離婚・死別・未婚と回答している方はいずれの学年も1割前後となっています。

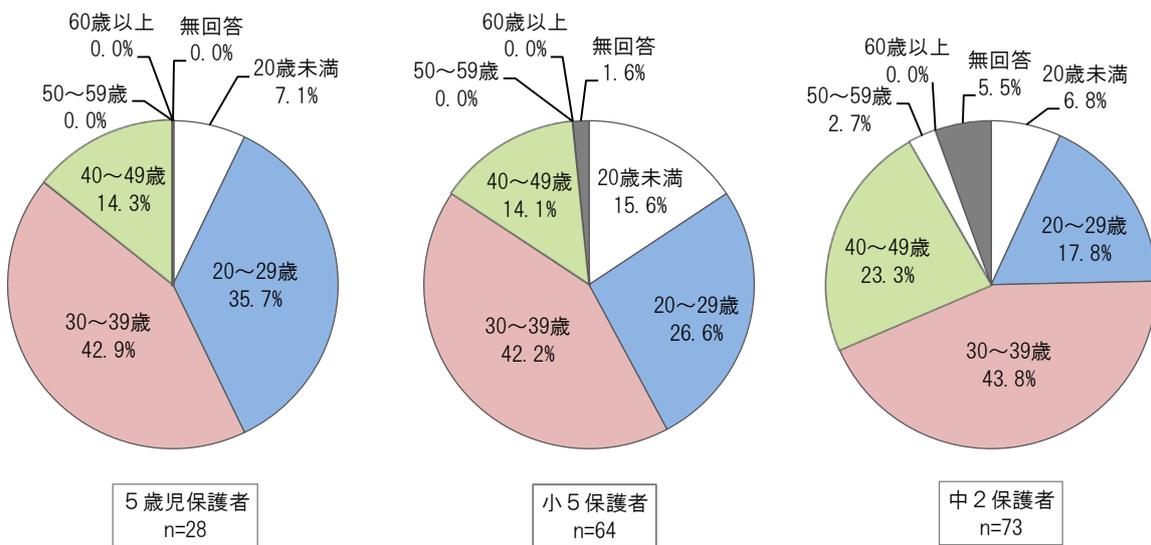
○ひとり親家庭になった年齢をみると、いずれの学年も「30～39歳」が4割台と最も高く、次いで「20～29歳」となっており、子育てと就労の負担が大きい世代の割合が高くなっています。

問1で「1. 父親」「2. 母親」「3. 祖父」「4. 祖母」と回答した方

問4 現在の婚姻状況



【ひとり親家庭になった年齢】

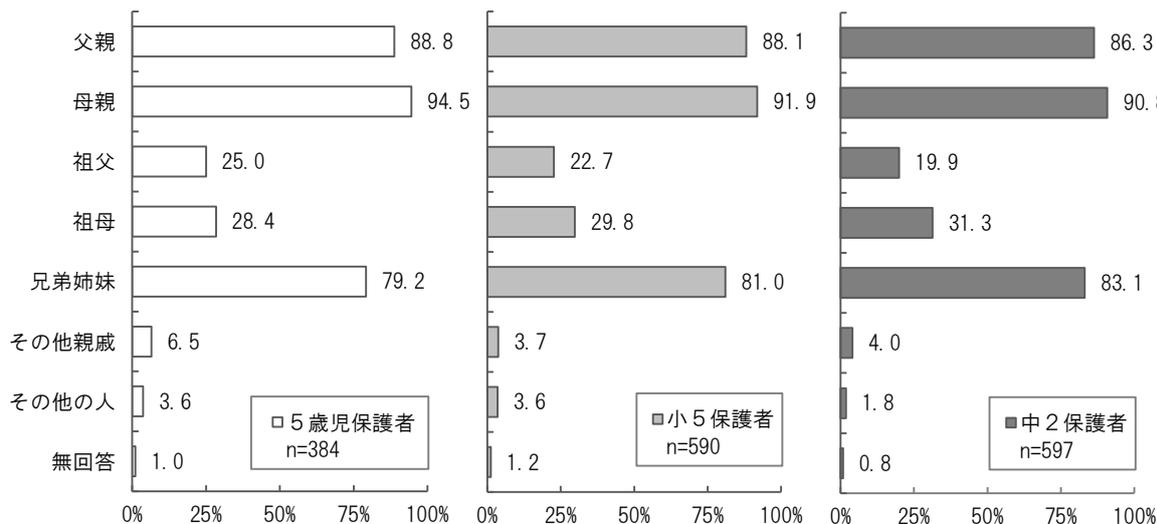


○同居している家族は、いずれの学年も「母親」「父親」が約9割、「兄弟姉妹」約8割
 となっています。

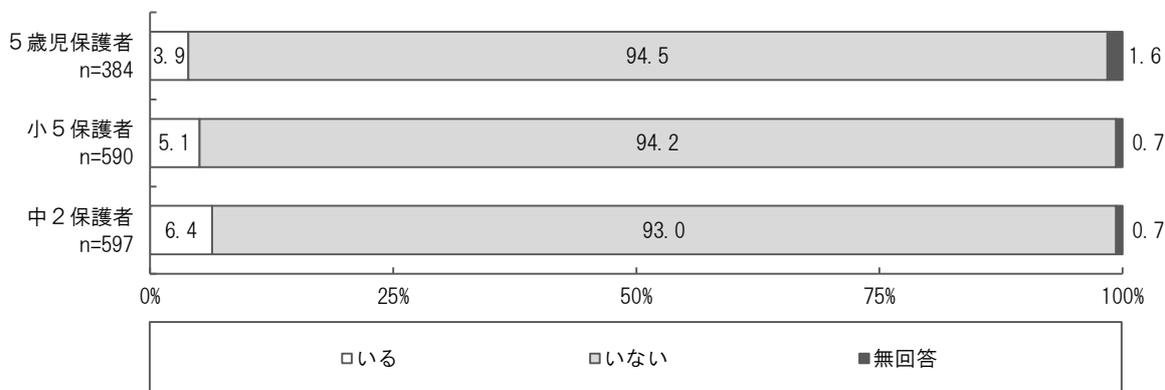
○同居家族のうち介護が必要な方の有無をみると、学年が上がるにつれ「いる」割合が
 3.9~6.4%と高くなっています。

○世帯が受けている公的支援をみると、「就学援助費」の支援を受けている割合が2.6
 ~8.0%と高くなっており、学年が上がるにつれ負担が大きくなっています。

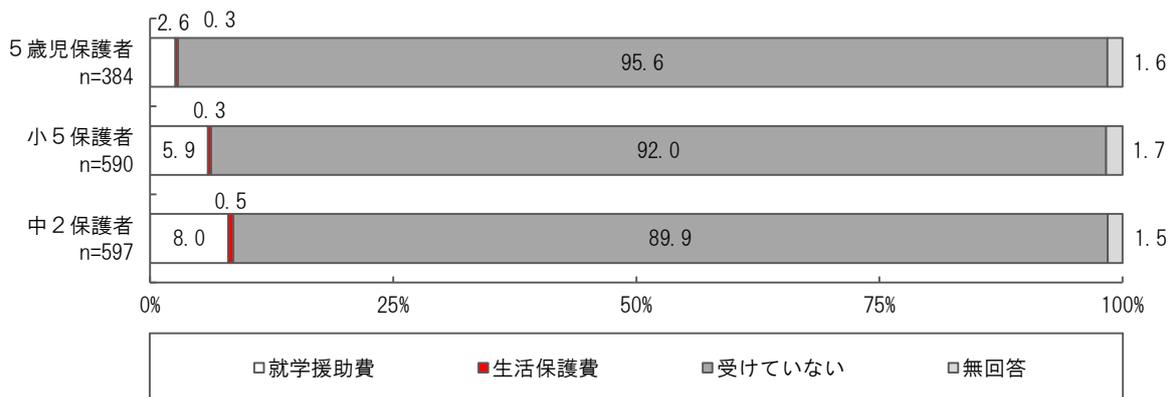
問6 同居している家族



問8 同居家族のうち介護が必要な方の有無



問9 世帯が受けている公的支援



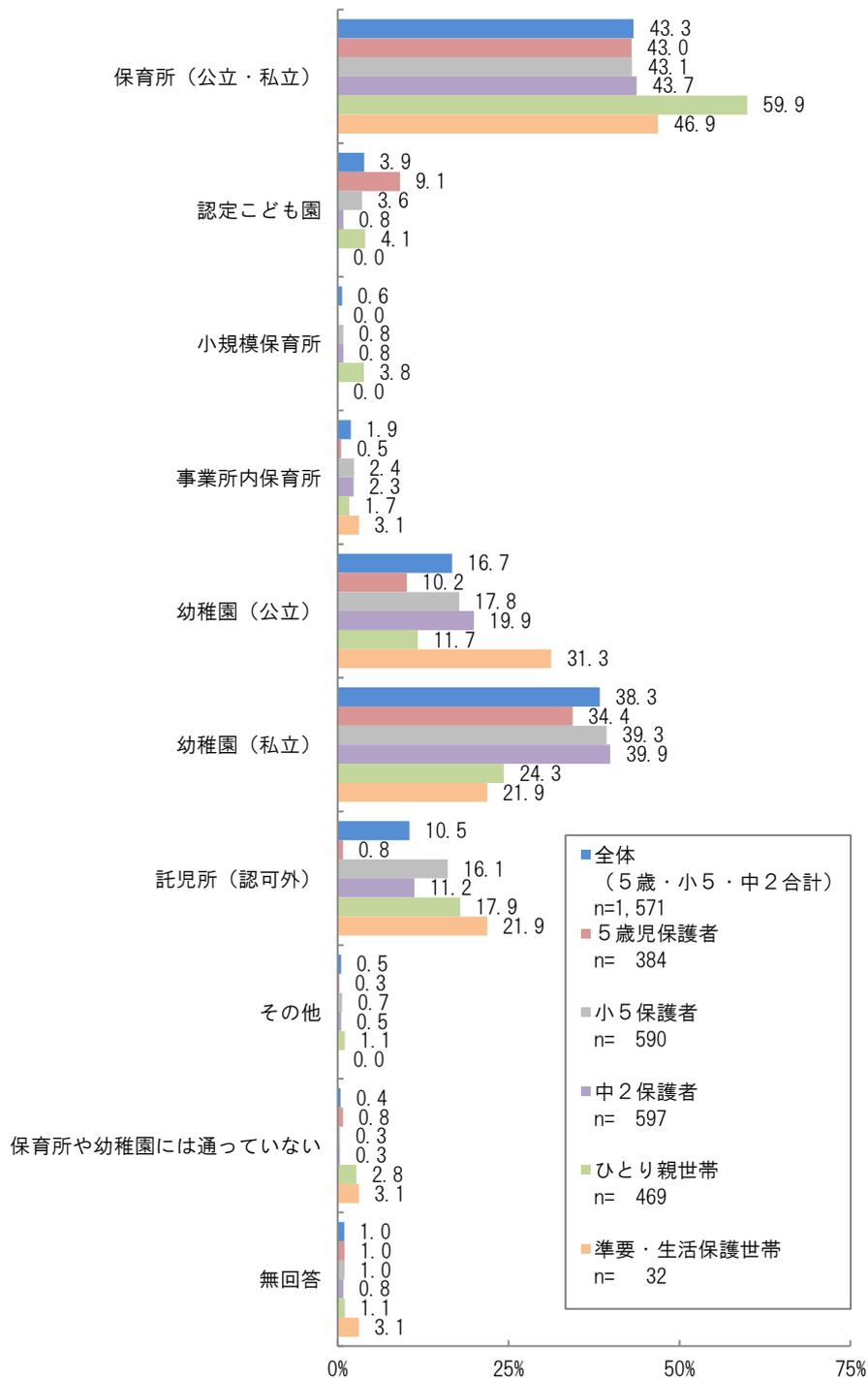
3 子どものことに関する調査結果

(1) 就学前の保育・教育の状況について

○通っている・通っていた保育所や幼稚園をみると、5歳・小5・中2では「保育所（公立・私立）」と「幼稚園（私立）」の利用割合の差は大きくないですが、ひとり親世帯では「保育所（公立・私立）」の割合が突出して高く、一方「幼稚園」の利用は公立・私立ともに低いことから、保育所のニーズが高い状況です。

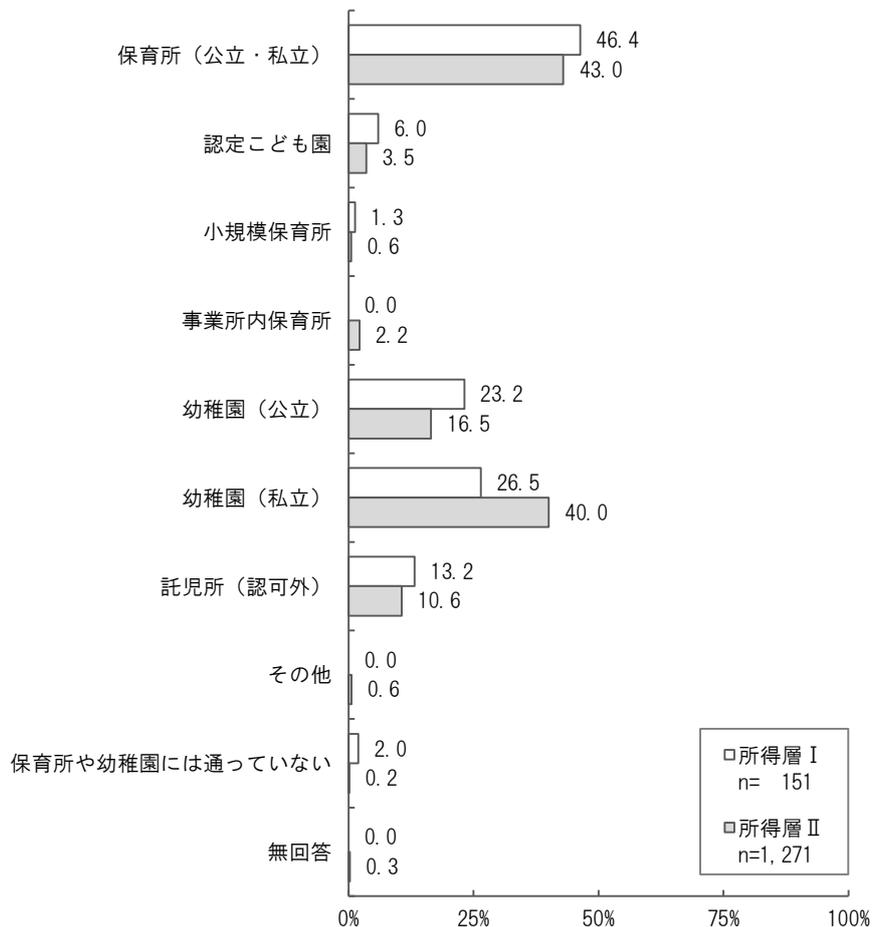
○また、準要保護・生活保護世帯では「幼稚園（公立）」の利用割合が、他の調査対象者より高くなっています。

問10 通っている・通っていた保育所や幼稚園（調査対象者別）



○通っている・通っていた保育所や幼稚園を所得層別にみると、所得層Ⅱに対し、所得層Ⅰでは「幼稚園（私立）」に通っている割合が所得層Ⅱよりも低く、ニーズに差が生じています。

問10 現在通っている保育所や幼稚園（3学年全体の所得層別）



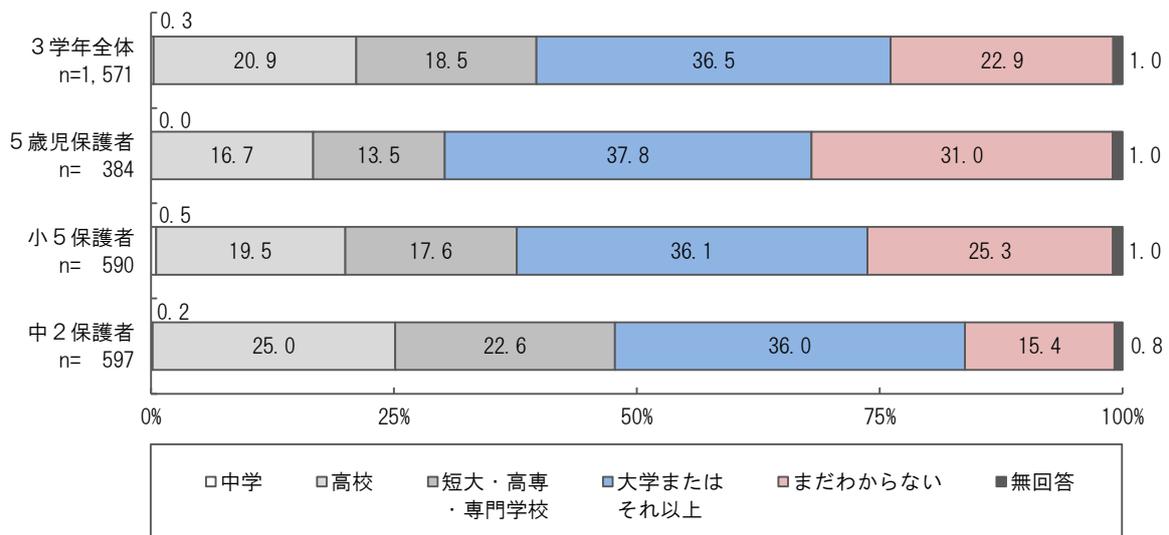
(2) 子どもの将来について

○希望する子どもの最終学歴は、いずれの学年も「大学またはそれ以上」が3割台と最も高くなっています。また、学年が上がるにつれ「高校」の割合が16.7～25.0%、「短大・高専・専門学校」の割合が13.5～22.6%と高くなり、「まだわからない」の割合は低くなっています。

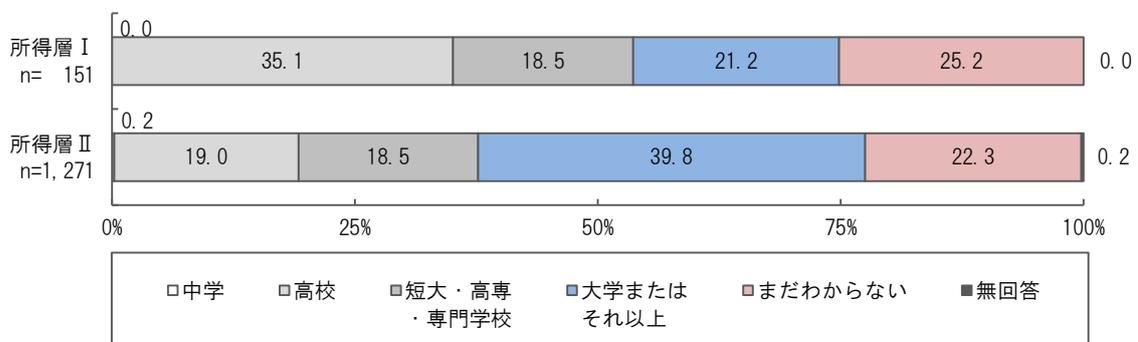
○所得層別にみると、所得層Ⅰでは「高校」(35.1%)、所得層Ⅱでは「大学またはそれ以上」(39.8%)と回答した割合が最も高くなっています。また、「高校」と「大学またはそれ以上」について所得層ⅠとⅡの差をみると、「高校」は(所得層Ⅰ：35.1%、所得層Ⅱ：19.0%) 16.1ポイント差、「大学またはそれ以上」は(所得層Ⅰ：21.2%、所得層Ⅱ：39.8%) 18.6ポイントであり差が大きくなっています。

◎所得層Ⅰの世帯では、所得層Ⅱの世帯に比べて、経済的理由から進学をあきらめている世帯も一定数いると推察されます。

問11 希望する子どもの最終学歴（学年別）



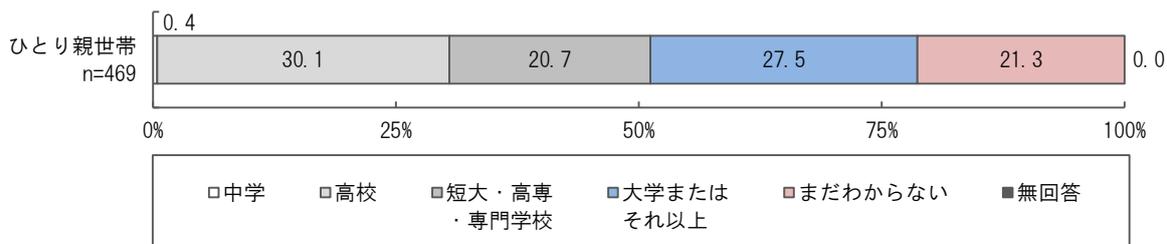
問11 希望する子どもの最終学歴（3学年全体の所得層別）



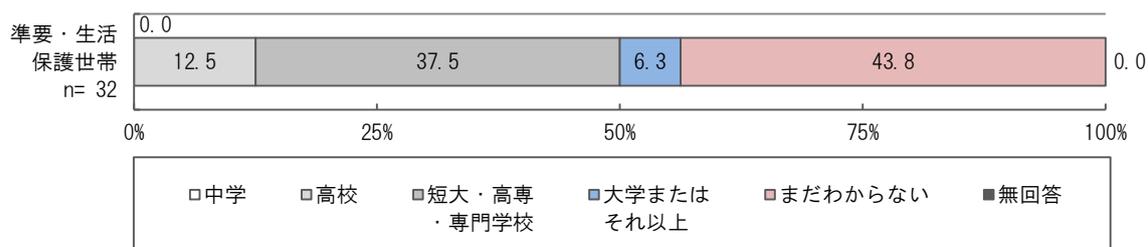
○ひとり親世帯の希望する子どもの最終学歴は、「高校」(30.1%)が最も高く、「大学またはそれ以上」(27.5%)については3学年全体に対し9.0ポイント低く、「まだわからない」(21.3%)となっています。

○また、準要保護・生活保護世帯では、「まだわからない」(43.8%)が最も高く、次いで「短大・高専・専門学校」(37.5%)、「高校」(12.5%)となっており、「大学またはそれ以上」については、3学年全体に対し30.2ポイント低くなっています。

問11 希望する子どもの最終学歴（ひとり親世帯）

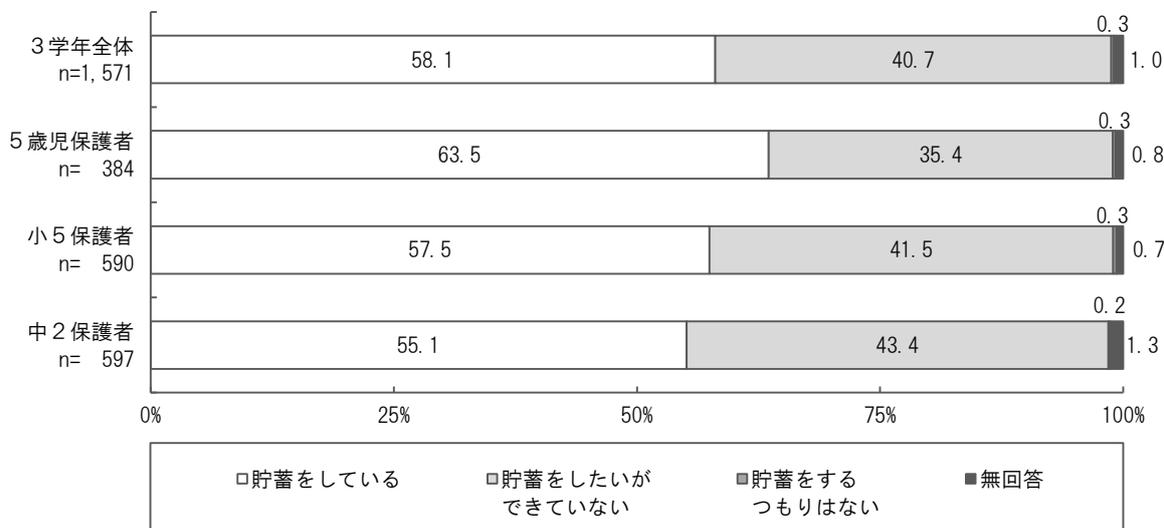


問11 希望する子どもの最終学歴（準要保護・生活保護世帯）



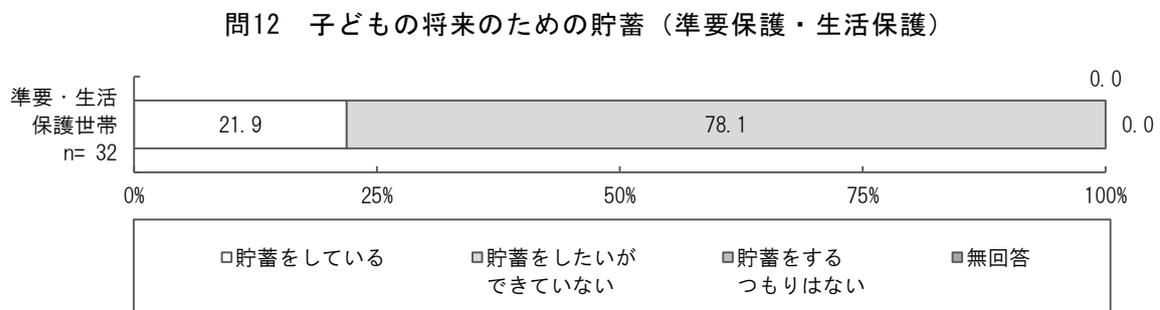
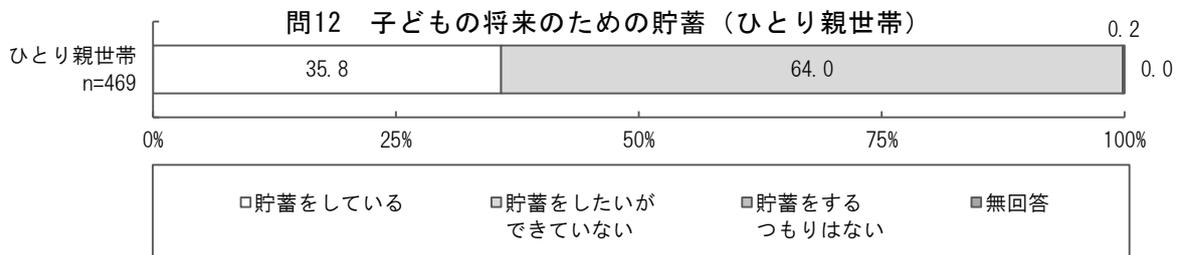
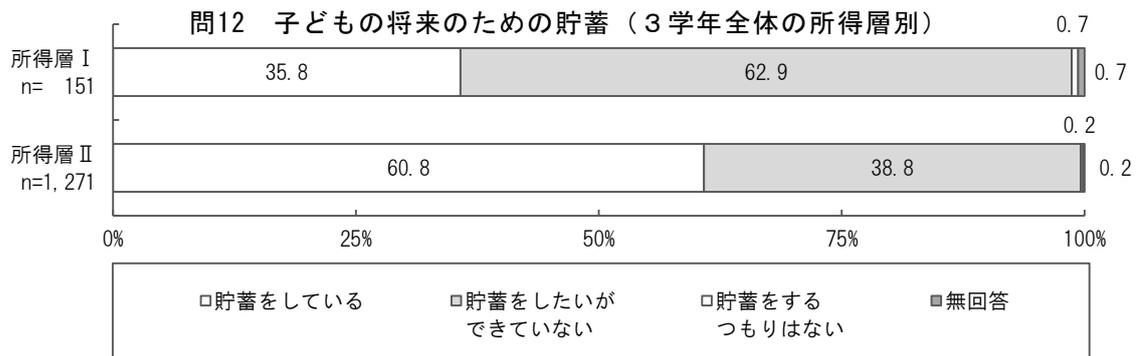
○子どもの将来のための貯蓄をみると、いずれの学年も「貯蓄をしている」(55.1～63.5%)が最も高くなっています。また、学年が上がるにつれ「貯蓄をしたいができていない」(35.4～43.4%)の割合が高くなっています。

問12 子どもの将来のための貯蓄



○子どもの将来のための貯蓄を所得層別にみると、所得層Ⅰでは「貯蓄をしたいができていない」(62.9%)、所得層Ⅱでは「貯蓄をしている」(60.8%)と回答した割合が最も高くなっています。また、「貯蓄をしている」と「貯蓄をしたいができていない」について所得層ⅠとⅡの差をみると、「貯蓄をしている」は(所得層Ⅰ：35.8%、所得層Ⅱ：60.8%)25.0^{ポイント}差、「貯蓄をしたいができていない」は(所得層Ⅰ：62.9%、所得層Ⅱ：38.8%)24.1^{ポイント}差と乖離が大きくなっています。

○また、ひとり親世帯・準要保護・生活保護世帯ともに、「貯蓄をしたいができていない」(64.0%・78.1%)が最も高く、次いで「貯蓄をしている」(35.8%・21.9%)となっています。

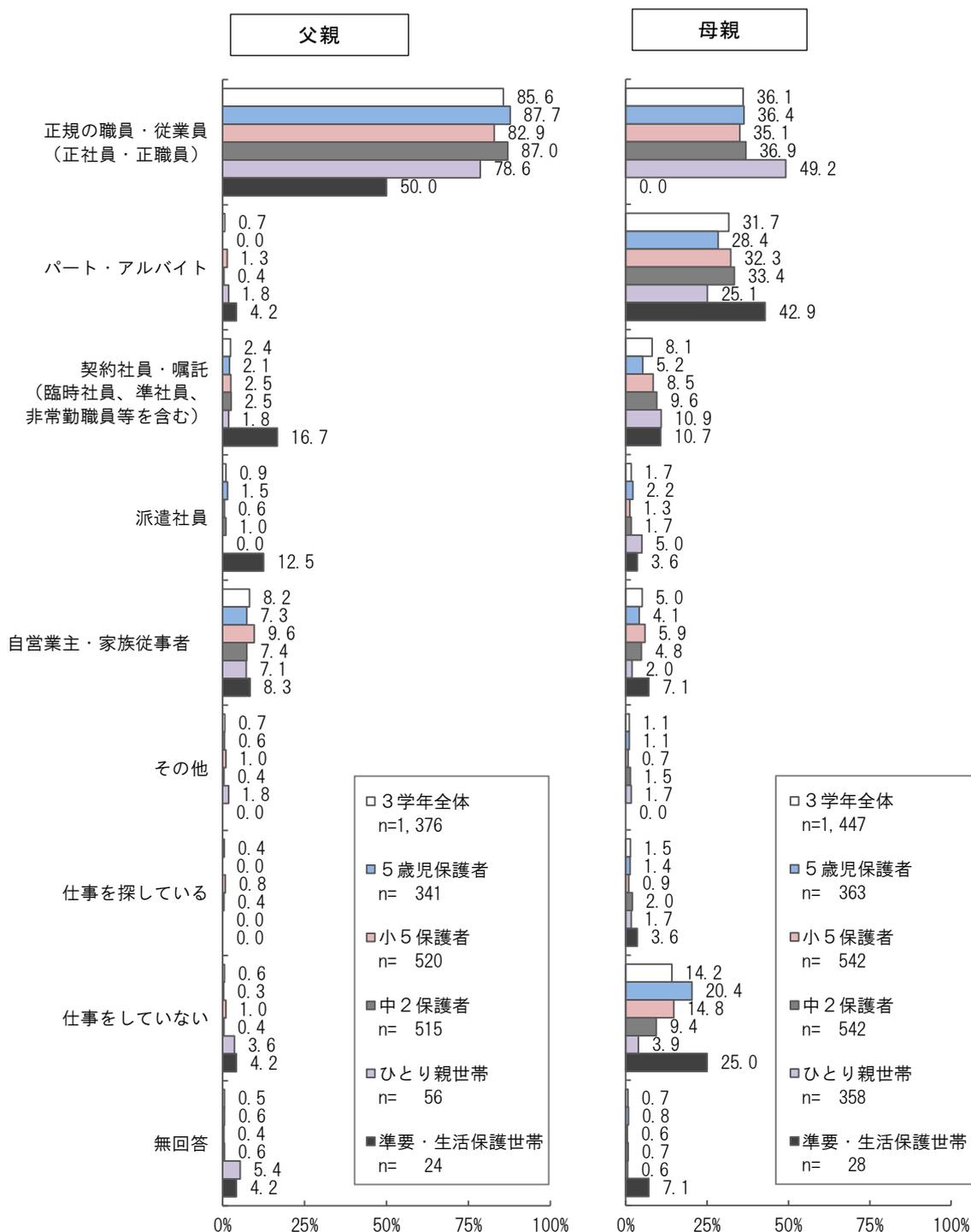


4 保護者の現在の就業状況について

○父親の現在の就業状況をみると、いずれの回答者区分も「正規の職員・従業員（正社員・正職員）」（50.0～87.7%）が最も高くなっています。

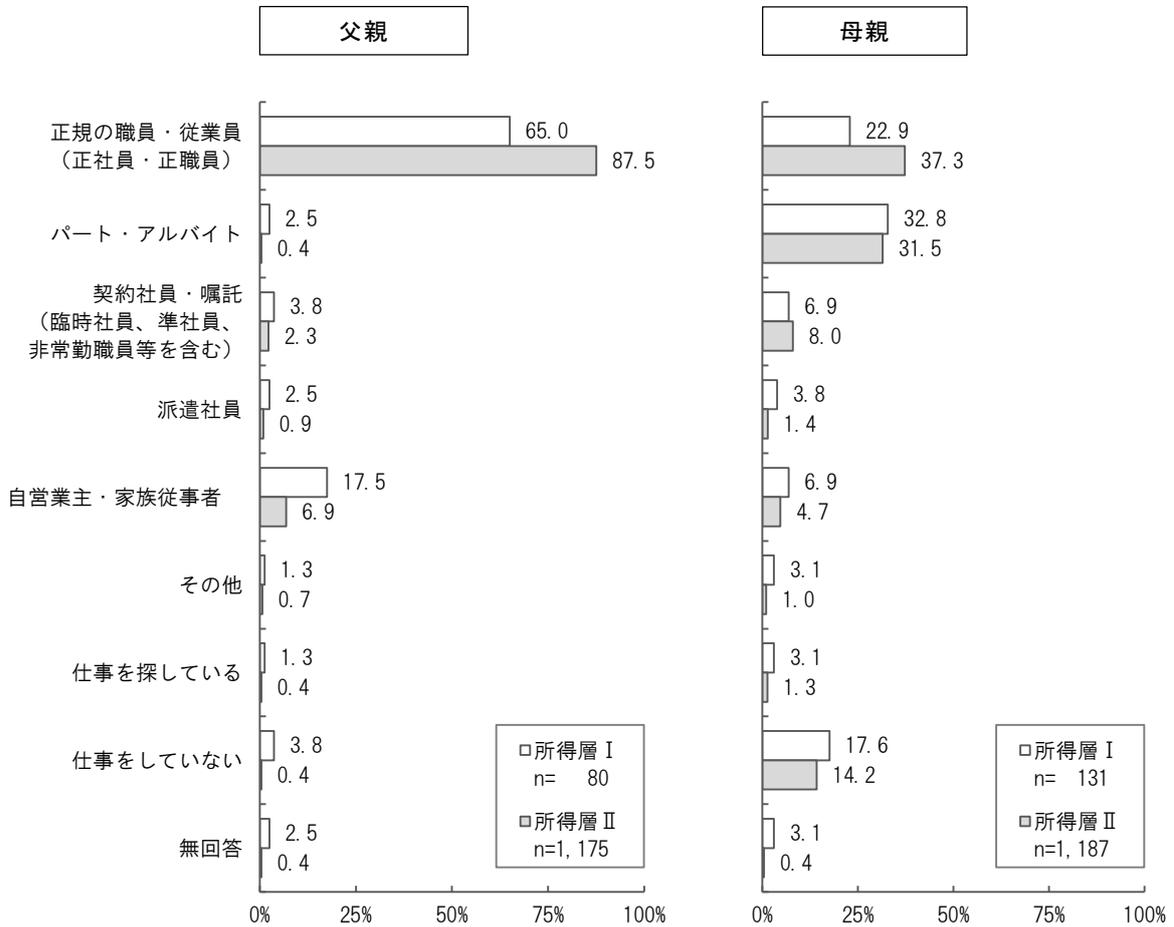
○母親の現在の就業状況をみると、ひとり親世帯では「正規の職員・従業員（正社員・正職員）」（49.2%）が他の回答者区分より高くなっています。

問13(1) 現在の就業状況（調査対象者別）



○所得層別にみると、「正規の職員・従業員（正社員・正職員）」の割合は、父親・母親ともに所得層Ⅱは所得層Ⅰよりも高くなっています。

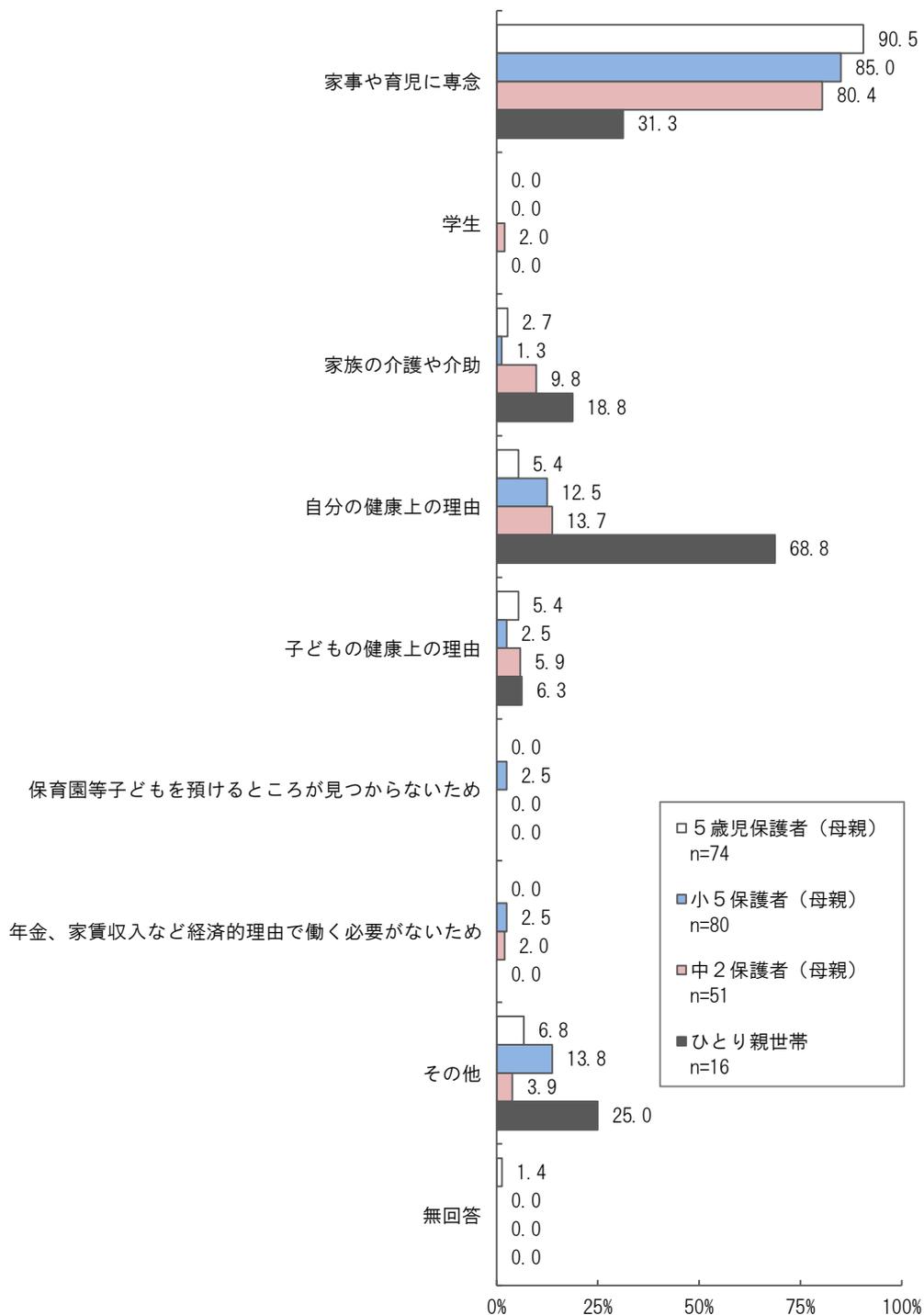
問13(1) 現在の就業状況（3学年全体の所得層別）



○母親の仕事をしていない理由は、いずれの学年も「家事や育児に専念」(80.4~90.5%)が最も高くなっています。

○また、ひとり親世帯では、「自分の健康上の理由」(68.8%)が最も高く、次いで「家事や育児に専念」(31.3%)となっています。

問13(2) 現在仕事をしていない理由 (学年別母親・ひとり親世帯) (複数回答)



○母親とひとり親世帯の勤務時間帯をみると、いずれも「平日の日中（午前8時～午後8時）」が9割前後と最も高くなっています。

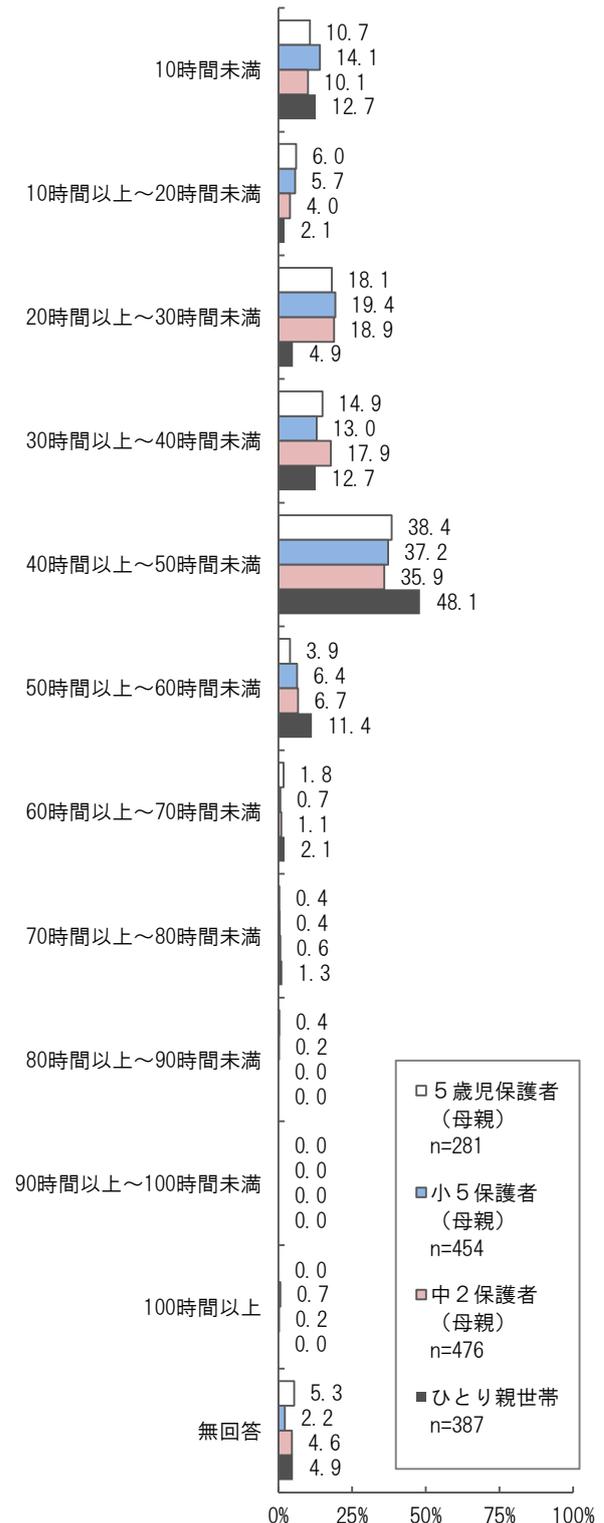
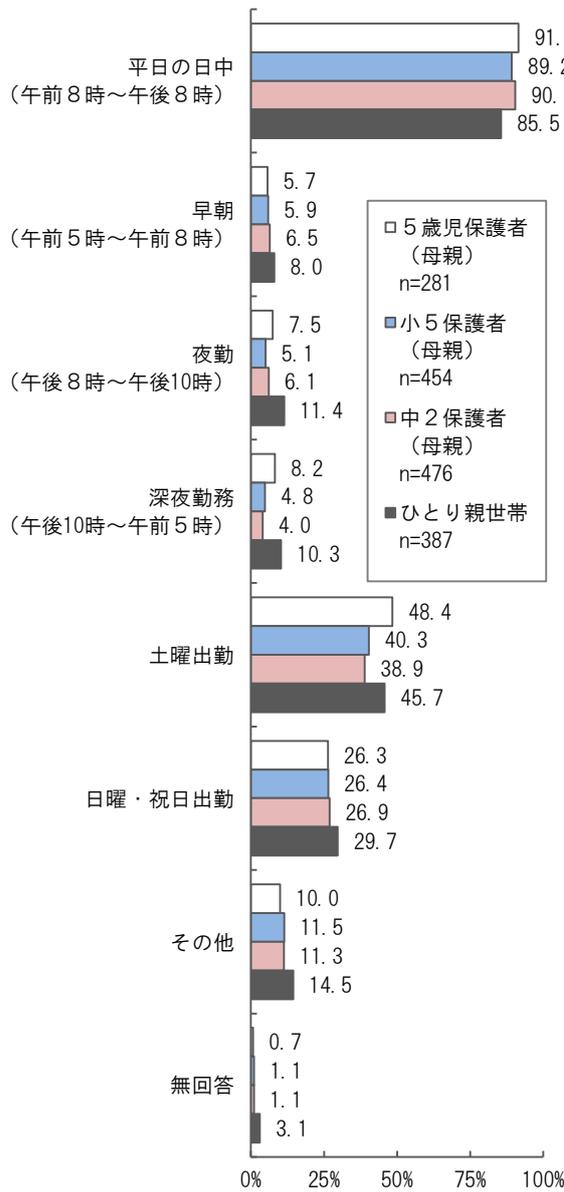
○1週あたりの労働時間は、「40時間以上～50時間未満」（48.1～35.9%）と回答した割合が最も高くなっています。

※ひとり親・保護世帯結果はP118 参照

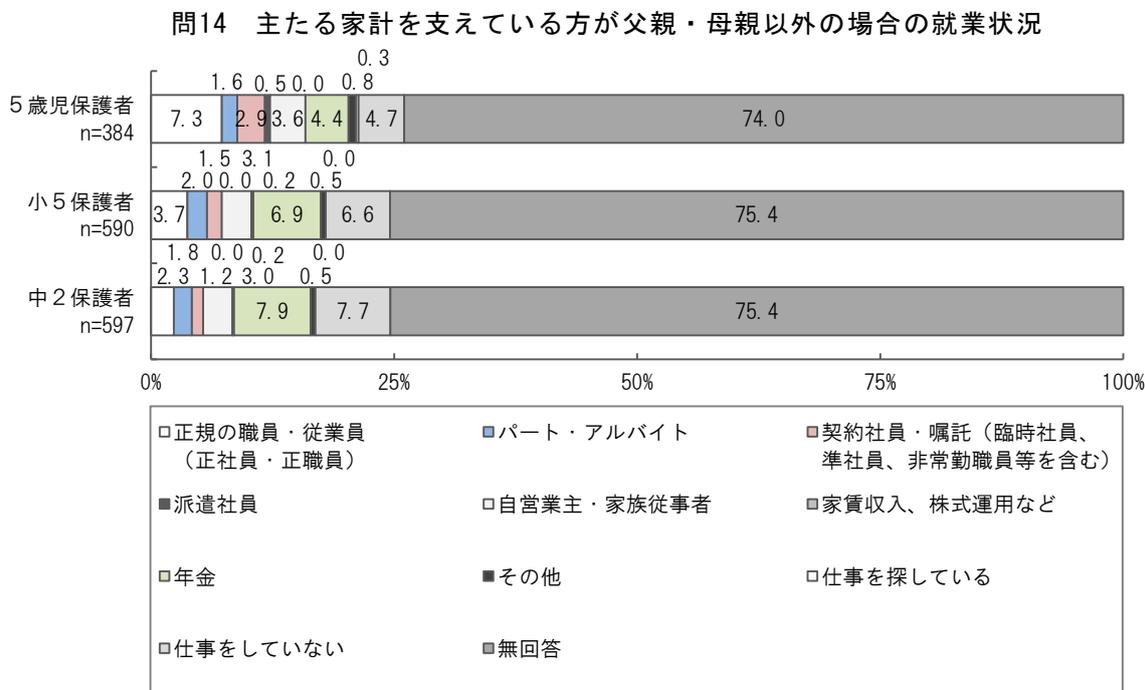
問13(3) 勤務時間帯

問13(4) 労働時間

(学年別母親・ひとり親世帯)

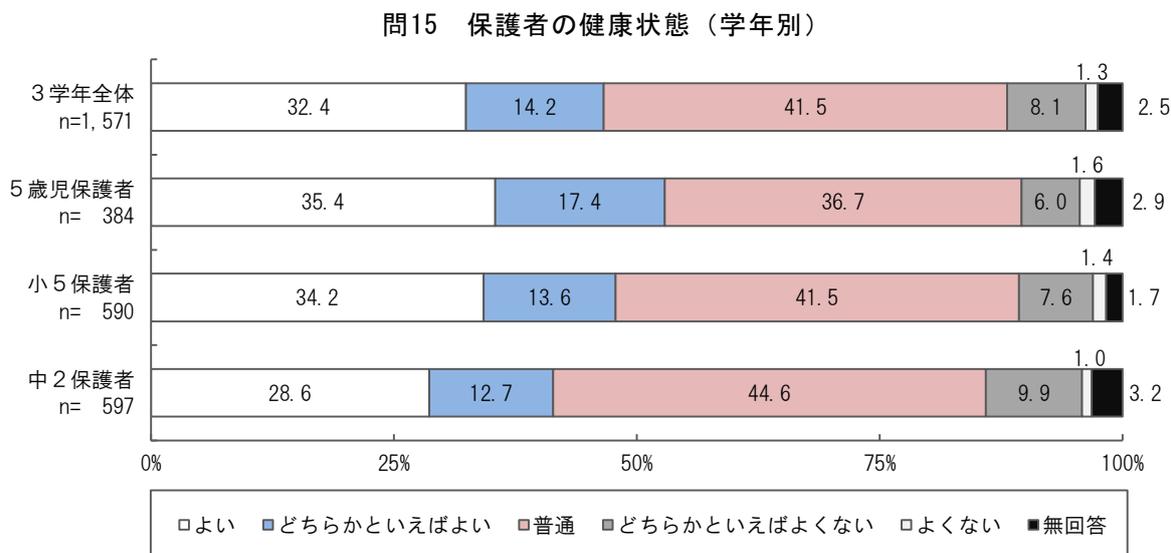


○父親・母親以外の方の就業状況を見ると、「正規の職員・従業員（正社員・正職員）」と回答した方は7.3～2.3%と学年が上がるにつれ低くなっています。一方「年金」は4.4～7.9%、「仕事を探している」は4.7～7.7%と回答した方は学年が上がるにつれ高くなっています。



5 保護者（回答者）の健康状態について

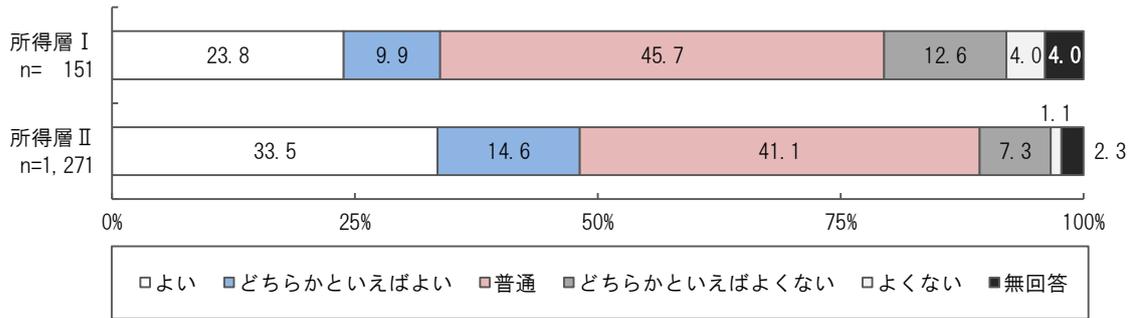
○保護者の健康状態をみると、「よい」と「どちらかといえばよい」を合わせた割合は41.3～52.8%と学年が上がるにつれ低くなっています。



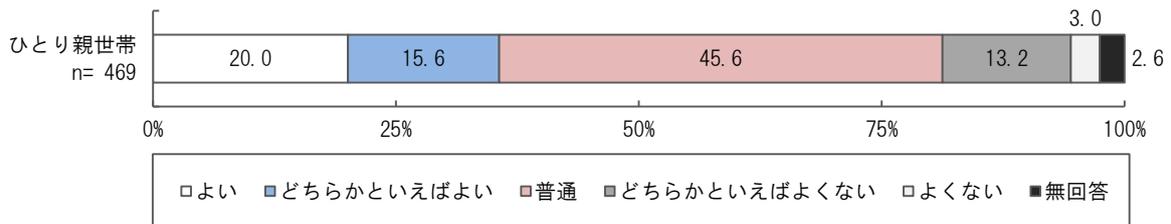
○所得層別にみる保護者の健康状態は、「どちらかといえばよくない」と「よくない」を合わせた割合が所得層Ⅰで16.6%、所得層Ⅱで8.4%となっており、所得層Ⅰは所得層Ⅱよりも健康状態がよくない傾向が見られます。

○また、ひとり親世帯では、「どちらかといえばよくない」と「よくない」を合わせた割合が16.2%、準要保護・生活保護世帯では18.8%となっており、3学年全体に対して高くなっています。

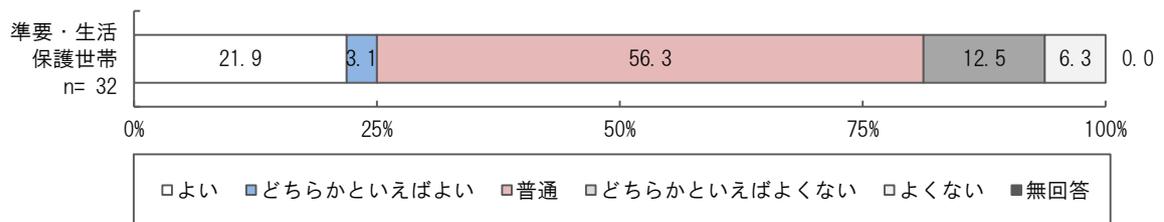
問15 保護者の健康状態（3学年全体の所得層別）



問15 保護者の健康状態（ひとり親世帯）

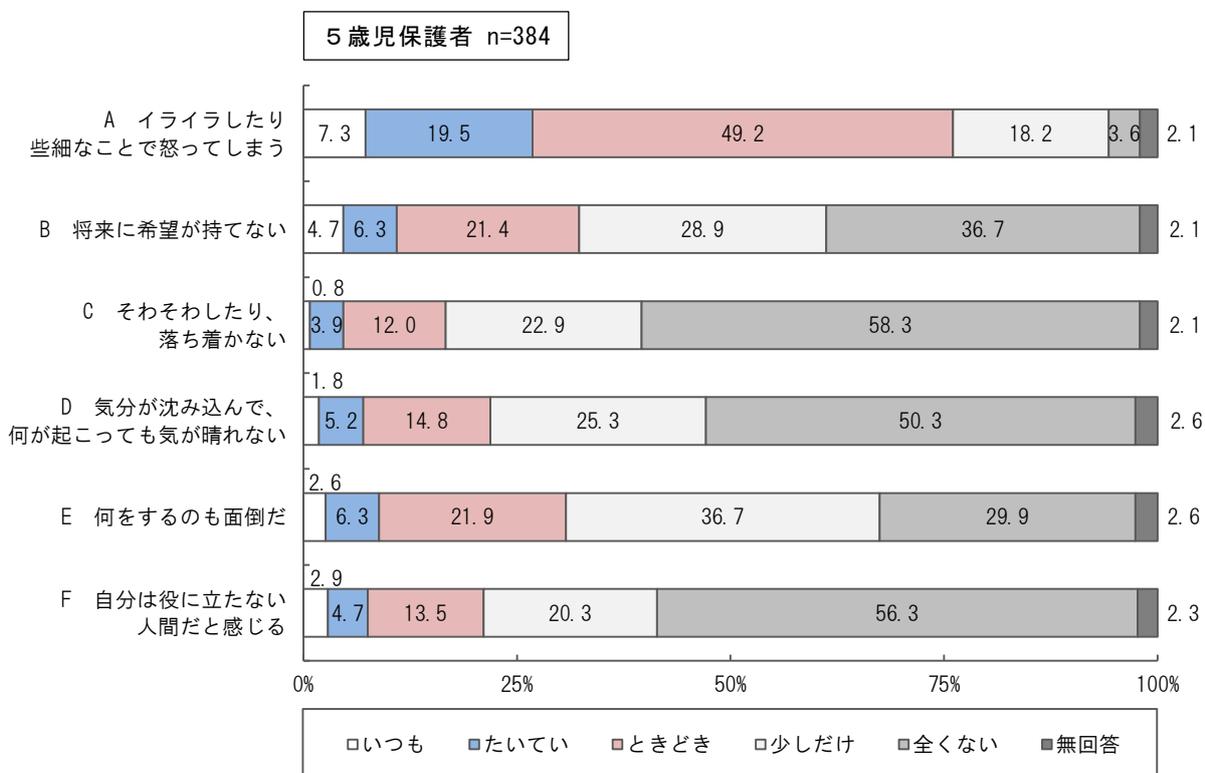
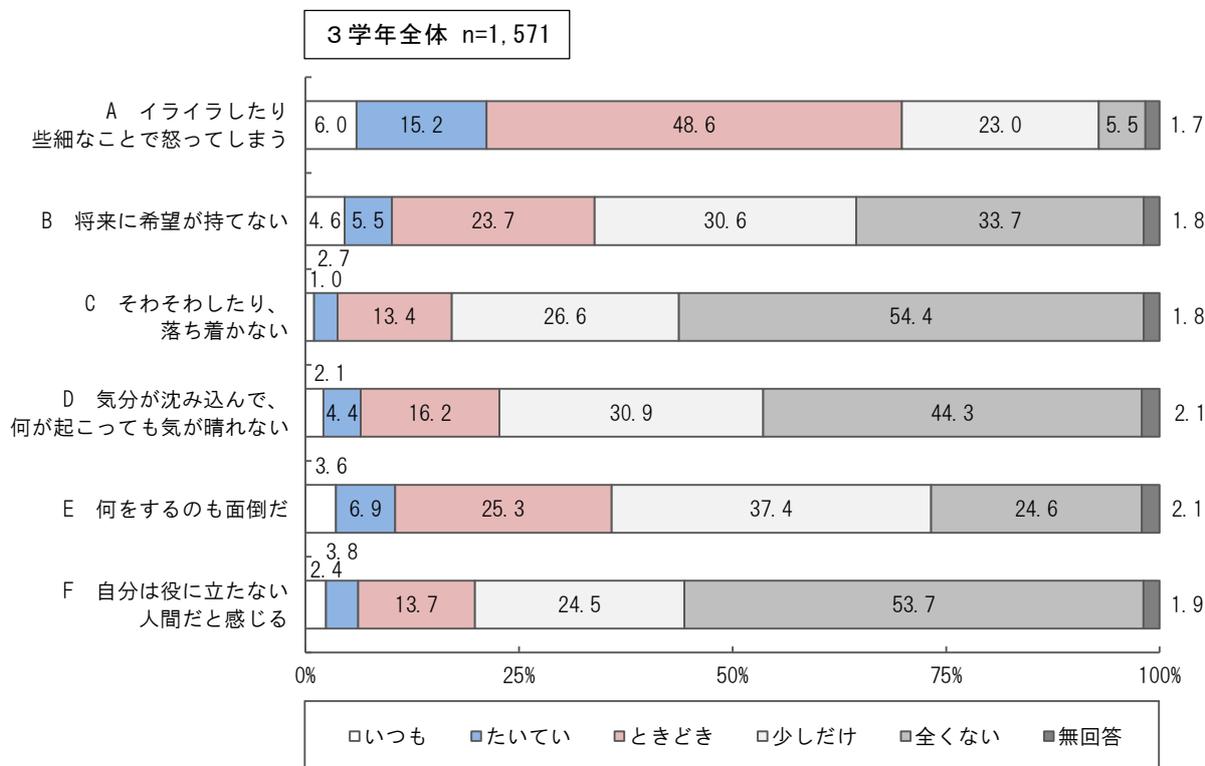


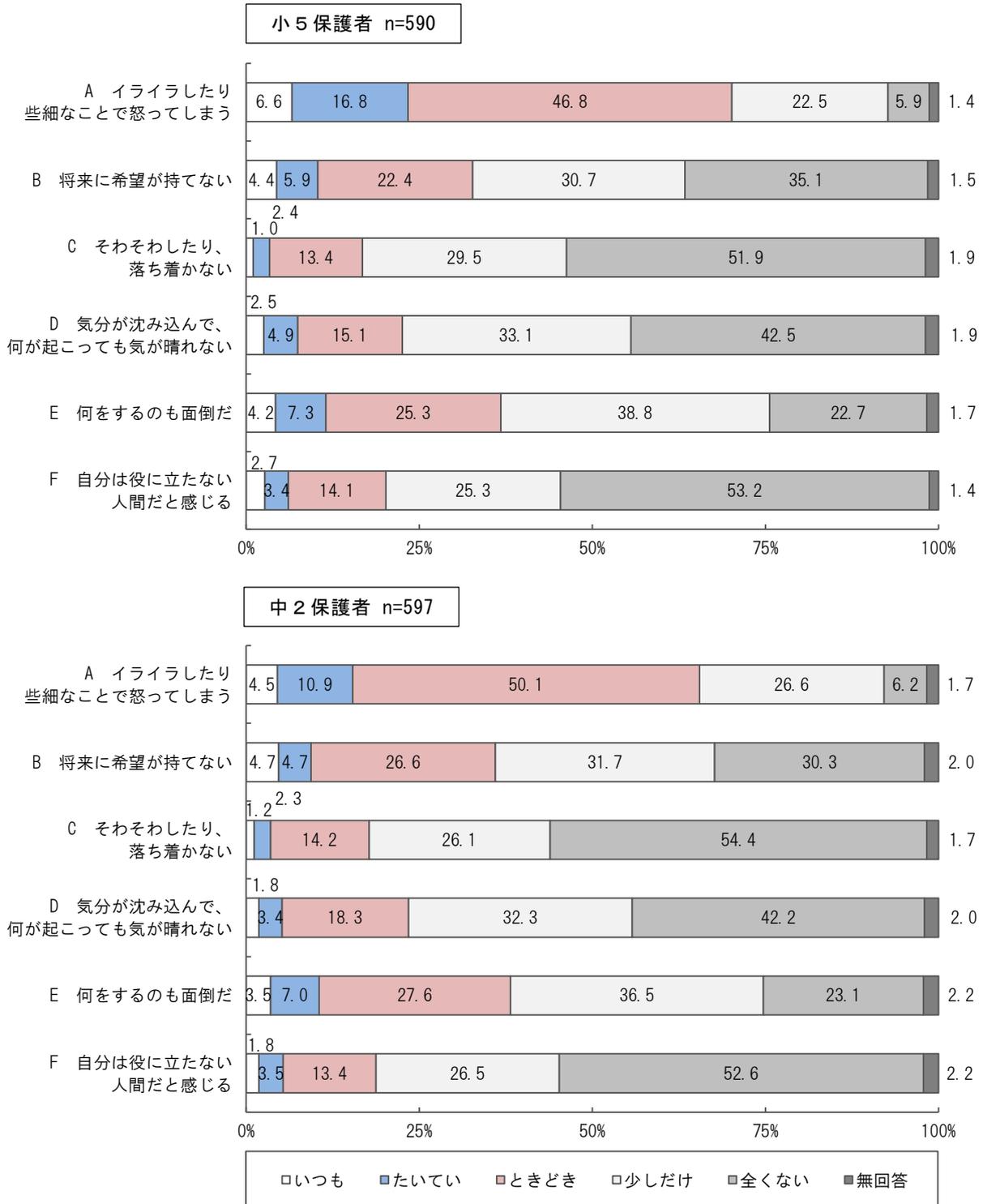
問15 保護者の健康状態（準要保護・生活保護世帯）



○保護者の過去1か月の心の状態は以下のとおりです。いずれの学年も各項目で大きな差はない状況となっています。

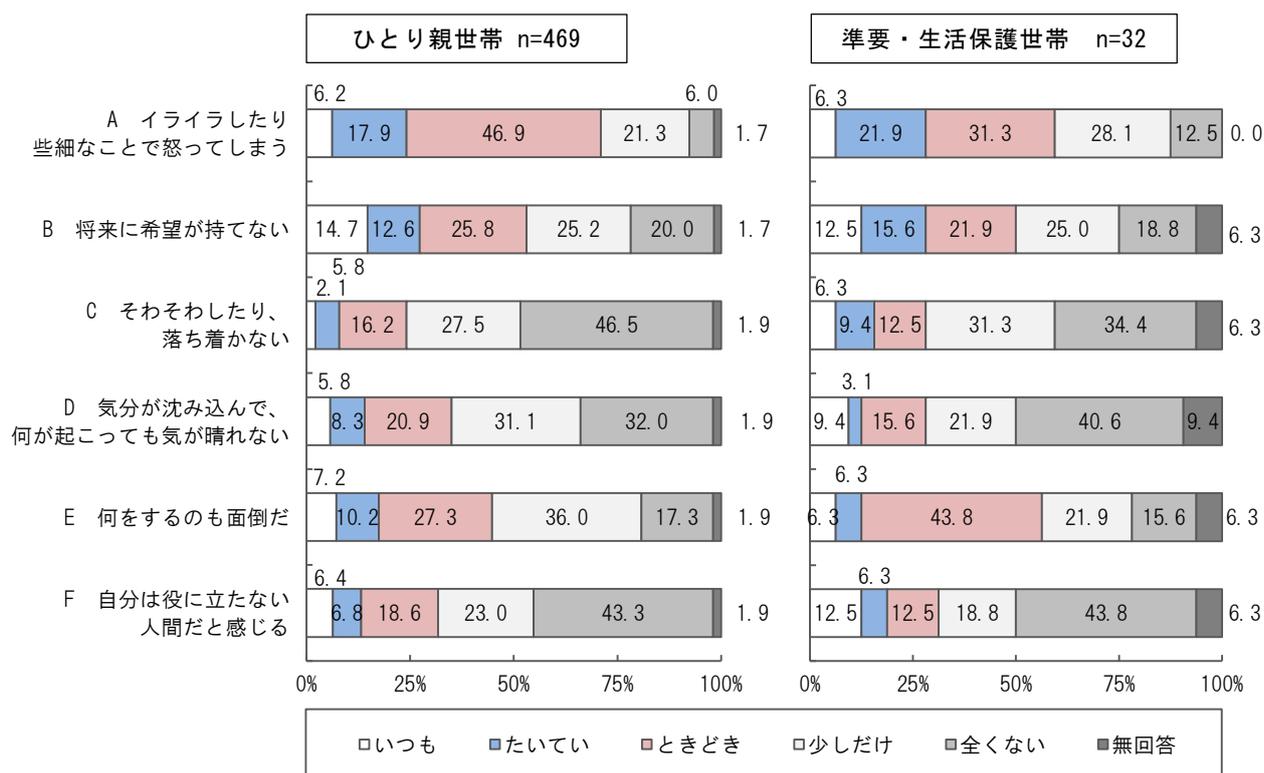
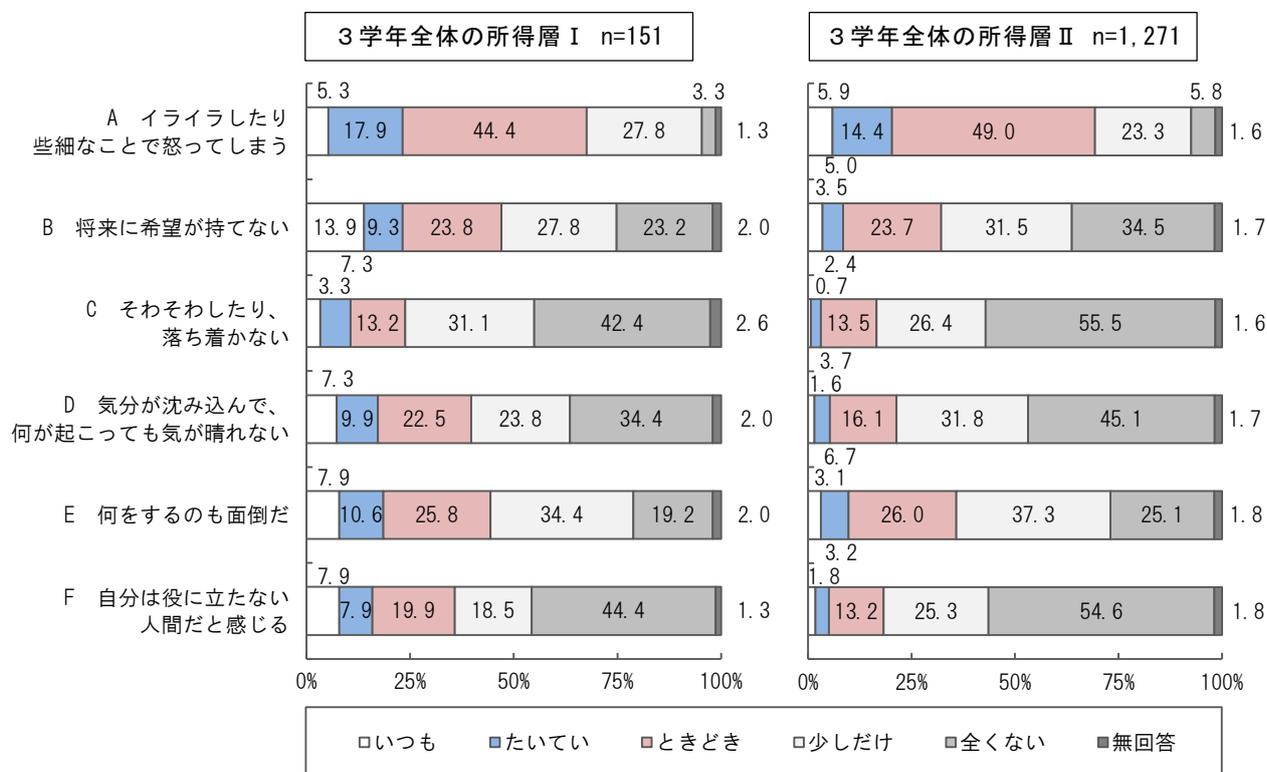
問16 過去1ヶ月の心の状態





○所得層別に保護者の過去1ヶ月の心の状態をみると、所得層Ⅰが所得層Ⅱよりも「いつも」と「たいてい」を合わせた割合が高くなっています。

○また、ひとり親世帯・準要保護・生活保護世帯ともに「将来に希望が持てない」と感じている割合が高くなっています。



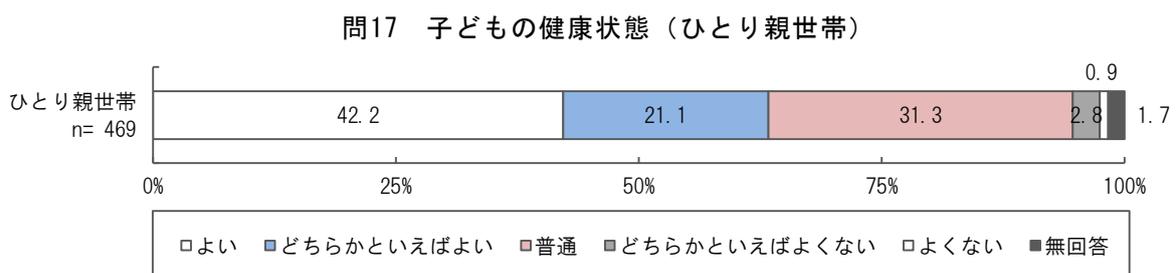
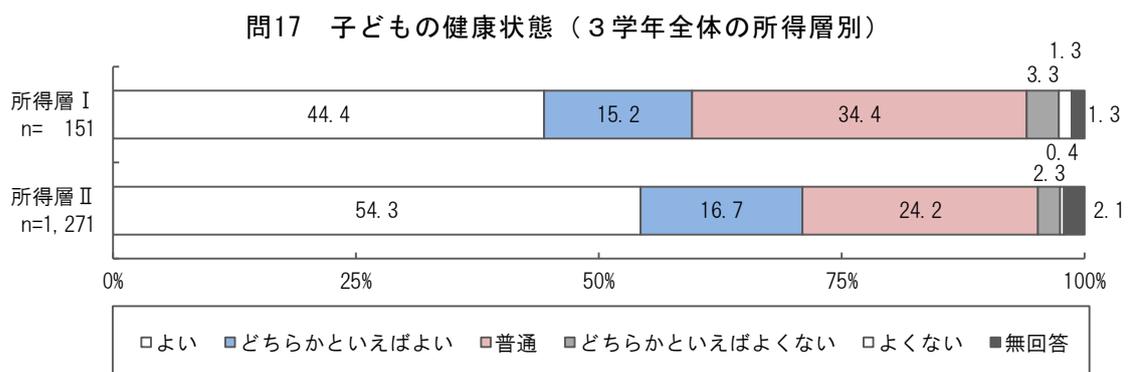
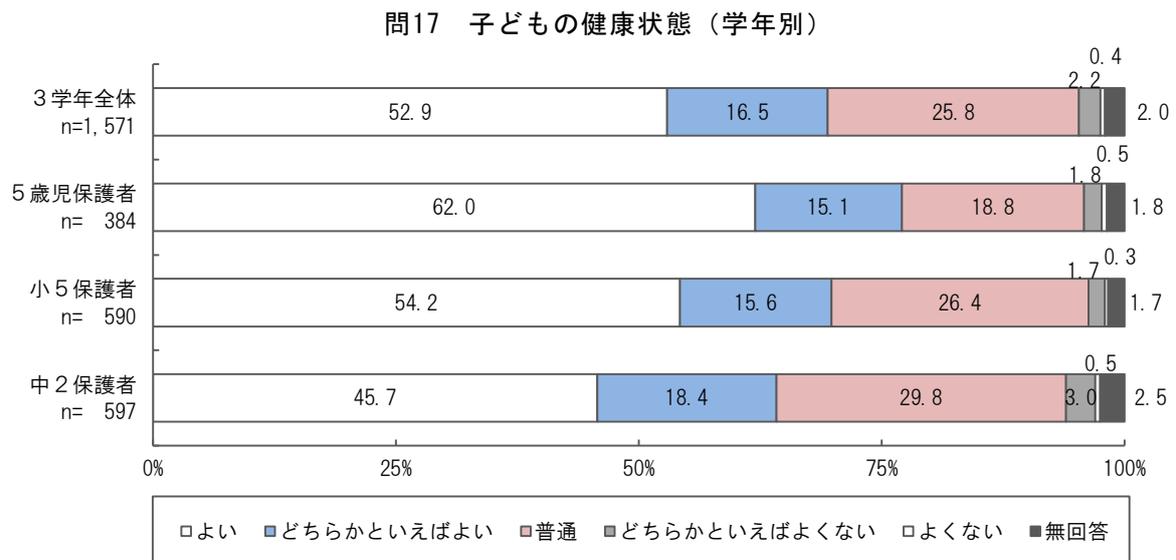
6 子どもの健康状態等について

(1) 回答者からみた子どもの健康状態

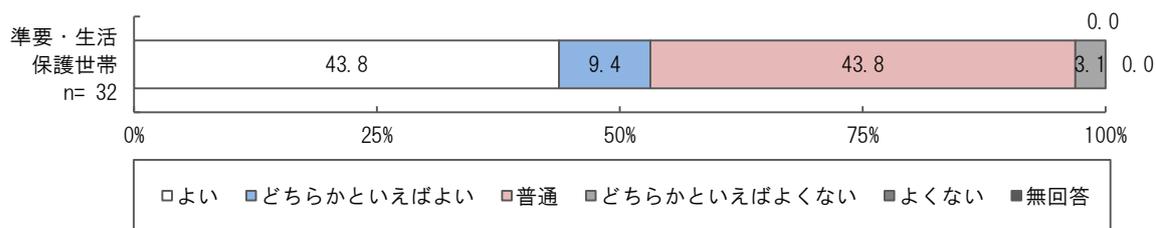
○子どもの健康状態についてみると、「よい」と「どちらかといえばよい」を合わせた割合は77.1～64.1%と学年が上がるにつれ低くなっています。

○所得層別にみる保護者の健康状態は、所得層Ⅱが所得層Ⅰよりも「よい」と「どちらかといえばよい」を合わせた割合が高くなっています。

○ひとり親世帯・準要保護・生活保護世帯ともに、「よい」と回答した割合は4割台となっています。



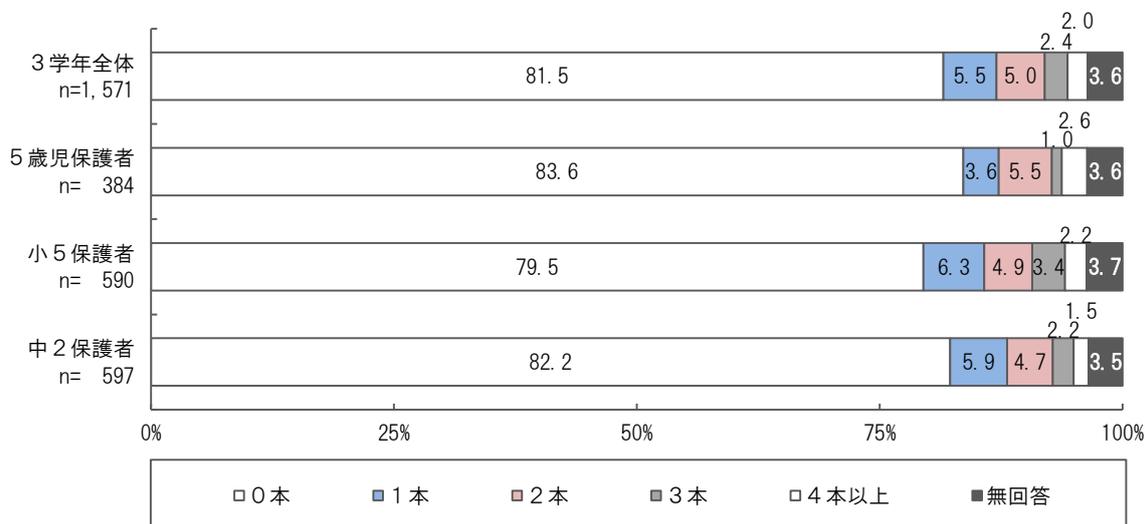
問17 子どもの健康状態（準要保護・生活保護世帯）



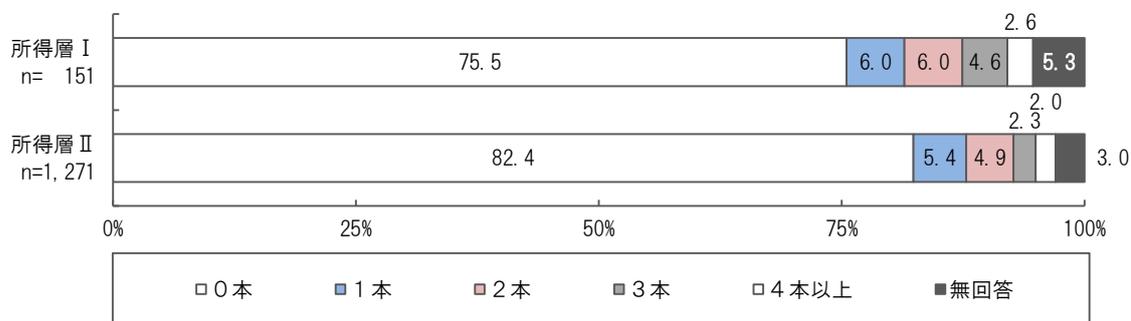
○子どもの虫歯の本数は、いずれの学年も「0本」（79.5～83.6%）が最も高くなっています。

○所得層別に見る子どもの虫歯の本数は、所得層Ⅰでは「1～4本以上」と回答した割合が所得層Ⅱよりも高くなっています。

問18 子どもの虫歯の本数（学年別）



問18 子どもの虫歯の本数（3学年全体の所得層別）

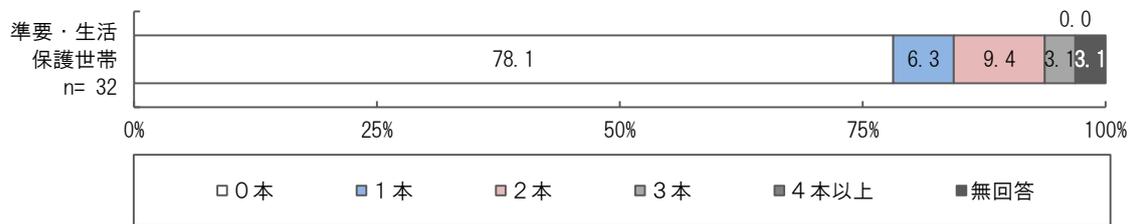


○ひとり親世帯の子どもの虫歯状況をみると、「1本」以上と回答した方の割合が23.0%と3学年全体の14.4%を大きく上回っています。

問18 子どもの虫歯の本数（ひとり親世帯）



問18 子どもの虫歯の本数（準要保護・生活保護世帯）

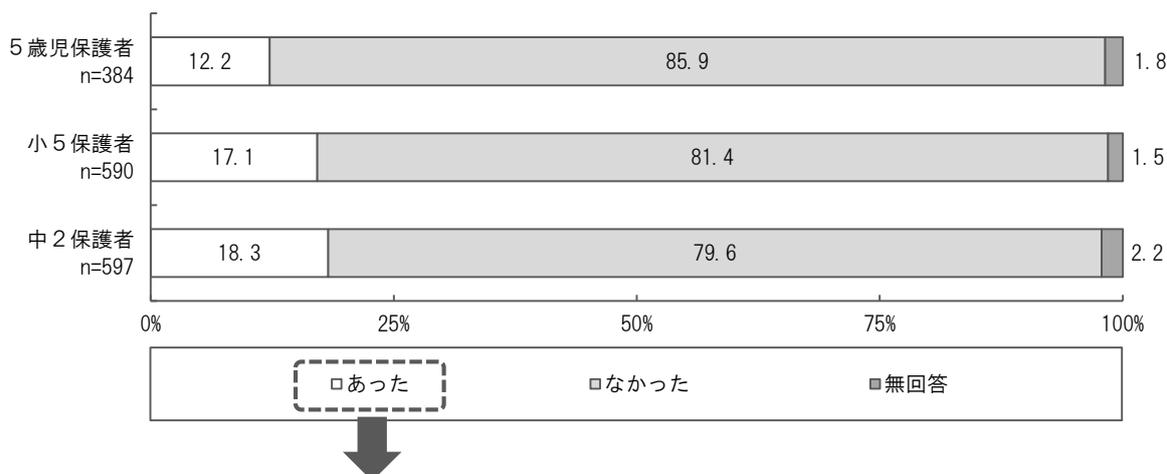


(2) 医療機関の受診状況について

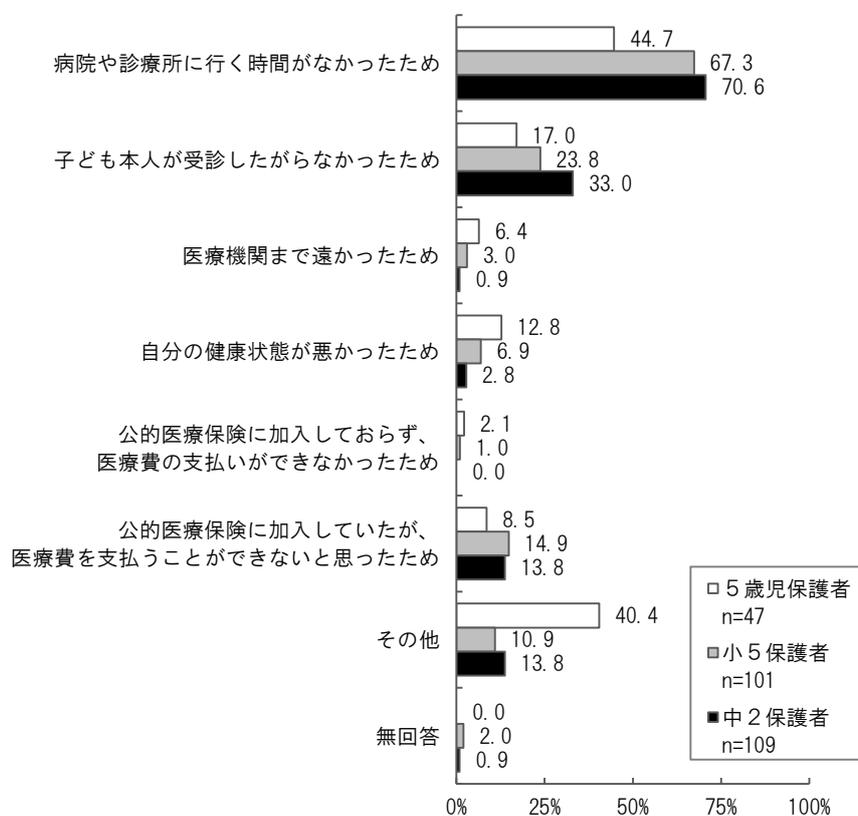
○子どもに医療機関の受診をさせなかったことがあるかをみると、いずれの学年も「ない」が8割前後を占めています。一方、「ある」は1割を超えています。

○医療機関を受診させなかった理由は、いずれの学年も「病院や診療所に行く時間がなかったため」(44.7~70.6%)が最も高く、次いで「子ども本人が受診しなかったため」(17.0~33.0%)、「公的医療保険に加入していたが、医療費を支払うことができないと思ったため」(8.5~14.9%)となっています。

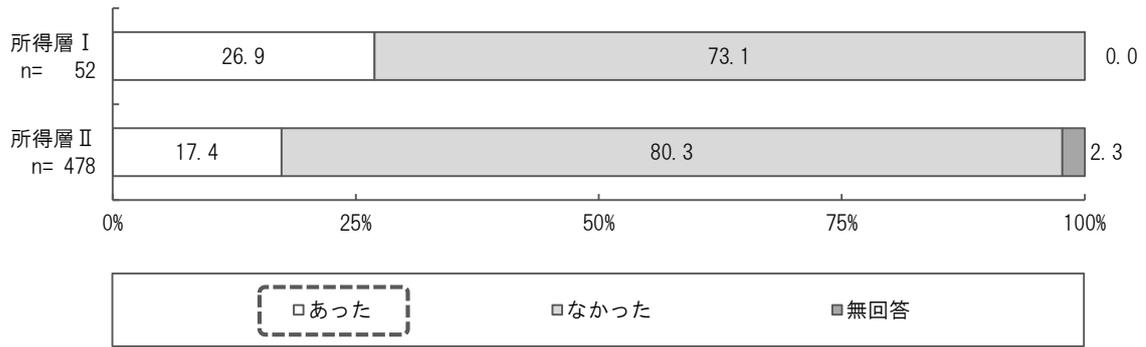
問19(1) 子どもに医療機関を受診させなかった経験の有無



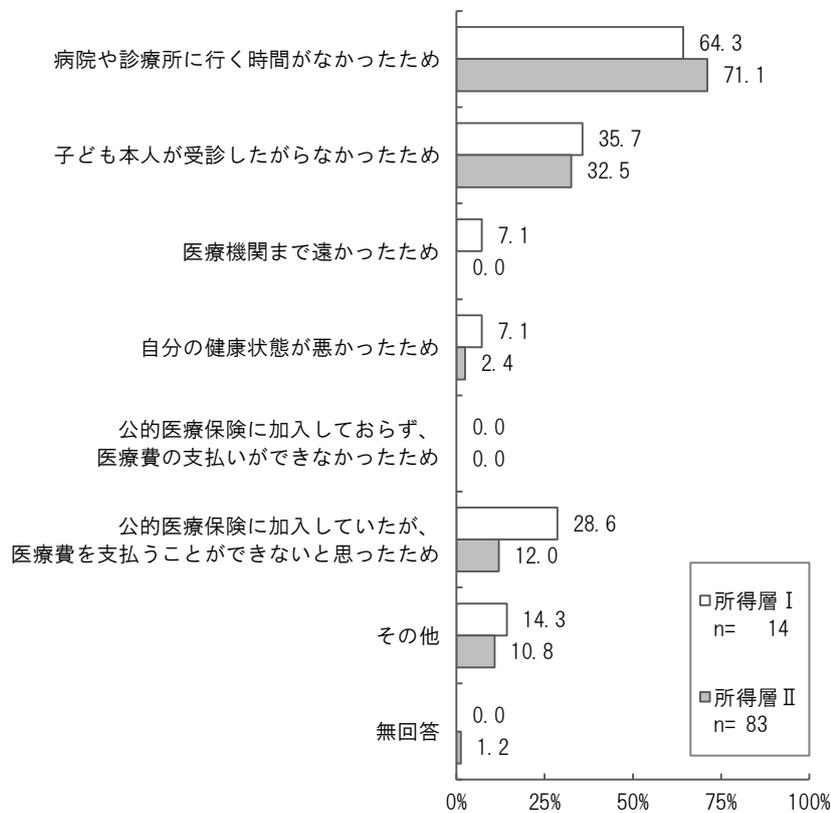
問19(2) 医療機関を受診させなかった理由



問19(1) 子どもに医療機関を受診させなかった経験の有無（3学年全体の所得層別）



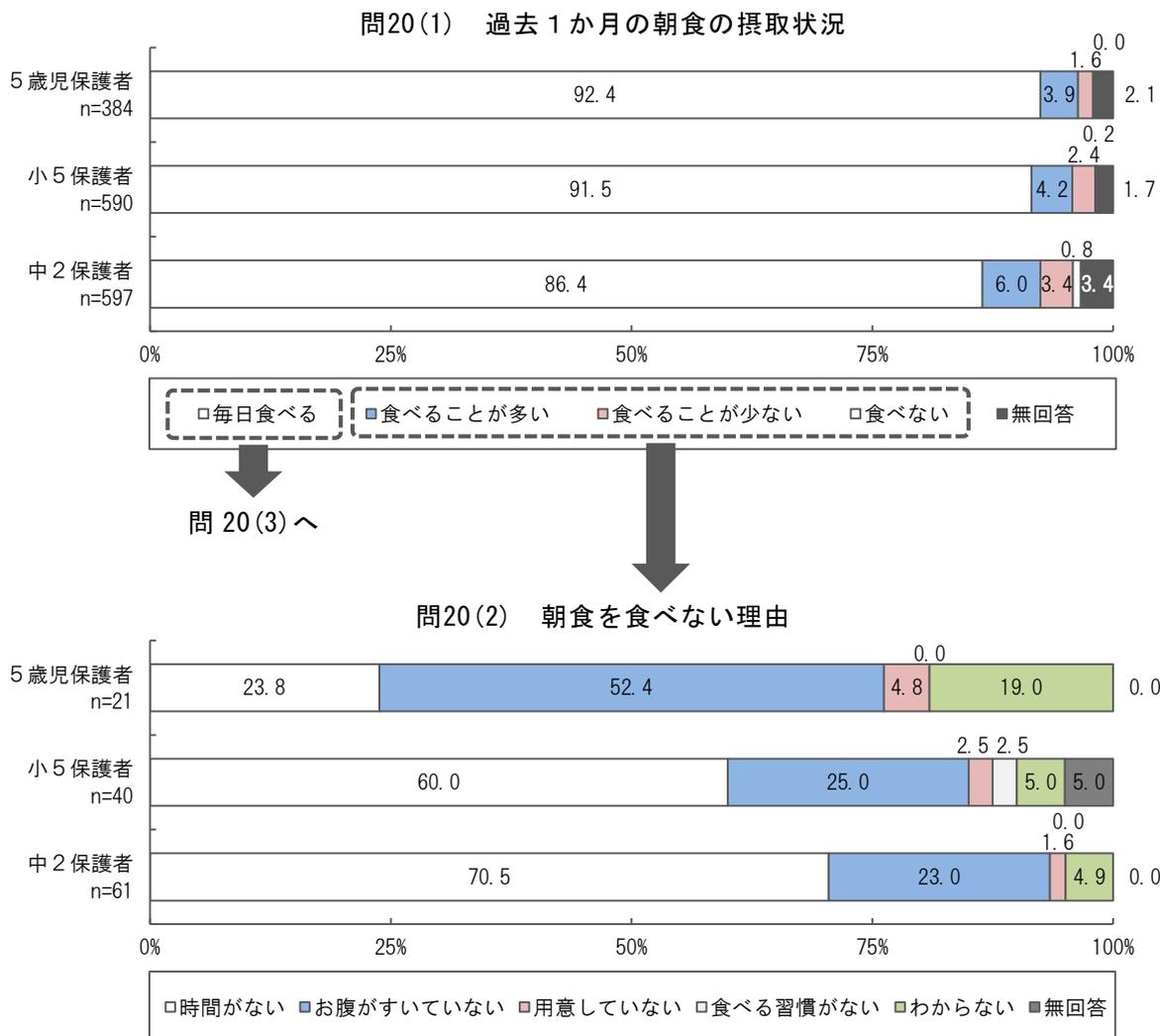
問19(2) 医療機関を受診させなかった理由（3学年全体の所得層別）



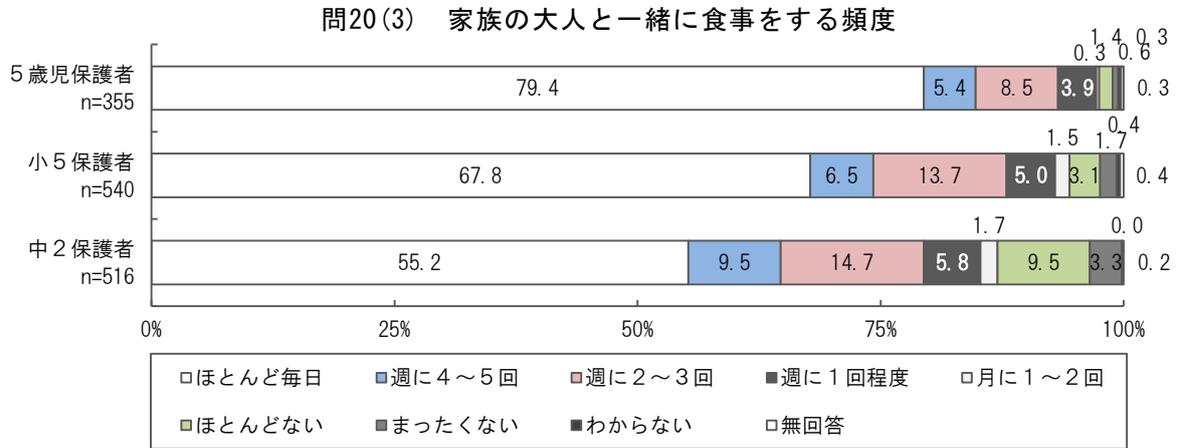
(3) 食事について

○子どもの朝食の摂取状況についてみると、いずれの学年も「毎日食べる」が8～9割と最も高くなっています。また「朝食を食べないことがある」と回答した方の割合は中2保護者で約1割となっています。

○朝食を食べない理由については、5歳児保護者で「お腹がすいていない」(52.4%)、小5保護者・中2保護者で「時間がない」(60.0%・70.5%)が最も高くなっています。



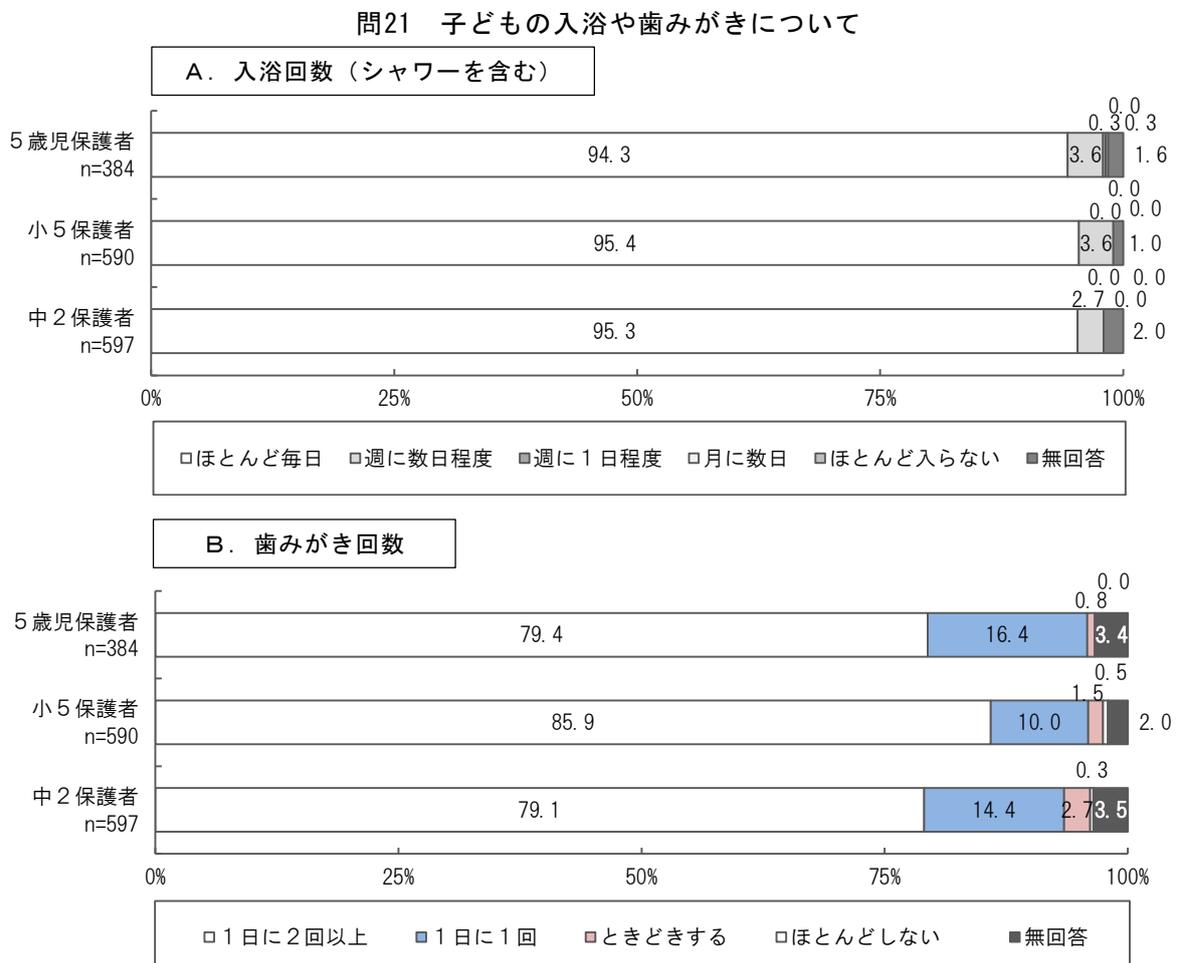
○子どもが家族と一緒に食事をする頻度は、いずれの学年も「ほとんど毎日」（55.2～79.4%）が最も高くなっています。一方、「ほとんどない」と「まったくない」を合わせた割合は中2保護者で約1割となっており、学年が進むほど一緒に食事する割合が低くなっています。



(4) 入浴や歯磨きについて

○入浴回数をみると、いずれの学年も「ほとんど毎日」が9割台となっています。

○歯みがき回数をみると、いずれの学年も「1日に2回以上」が8割前後と最も高く、次いで「1日に1回」が1割台となっています。

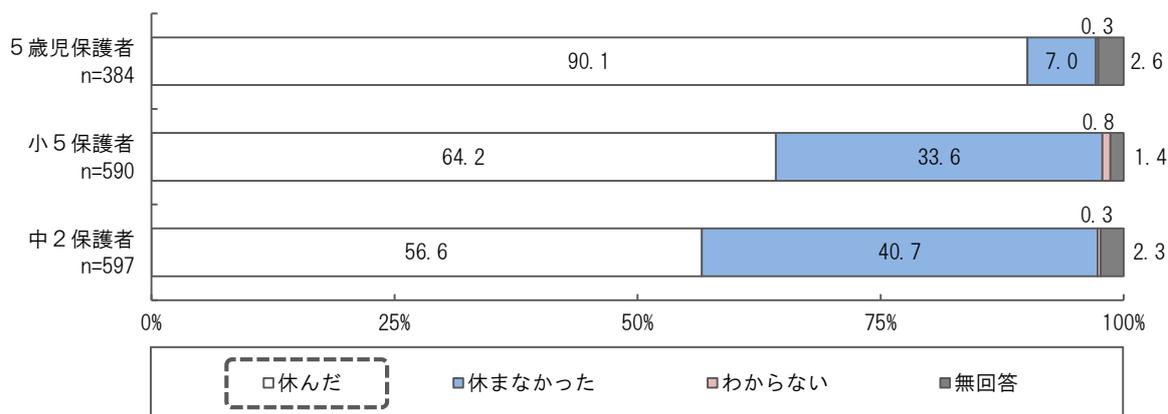


(5) 学校・保育園・幼稚園を休んだことについて

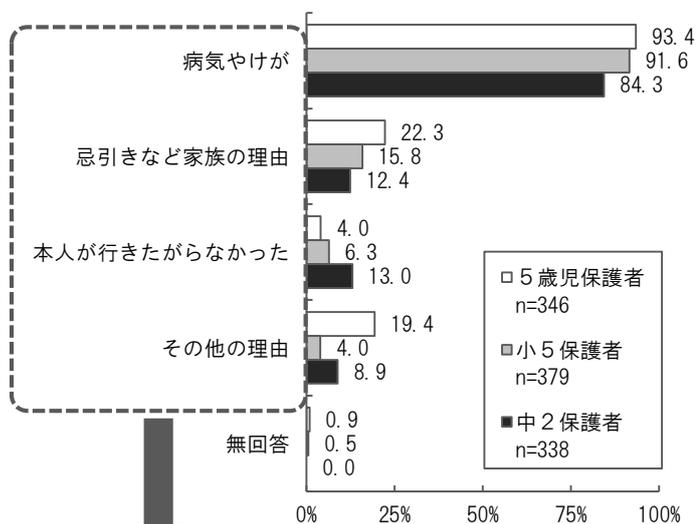
○4月から現在まで、学校・保育園・幼稚園をお休みした状況を見ると、いずれの学年も「休んだ」(56.6~90.1%)が最も高くなっていますが、学年が上がるにつれ割合は低くなっています。

○学校・保育園・幼稚園を休んだ理由は、いずれの学年も「病気やけが」(84.3~93.4%)が最も高く、次いで5歳児保護者・小5保護者で「忌引きなどの家族の理由」(22.3%・15.8%)、中2保護者で「本人が行きたがらなかった」(13.0%)となっています。

問22(1) 学校・保育園・幼稚園をお休みした状況



問22(2) 休んだ理由

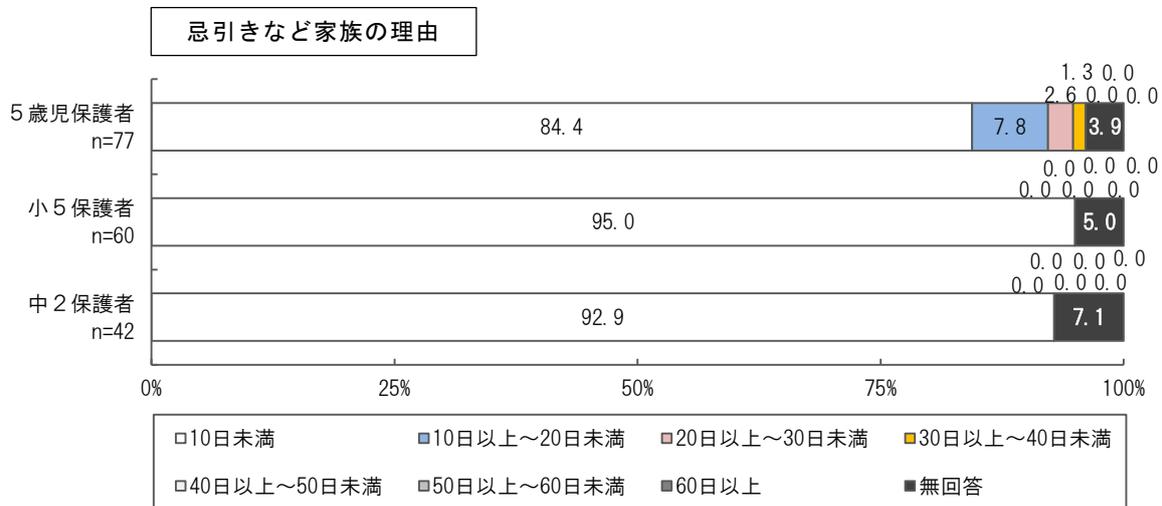
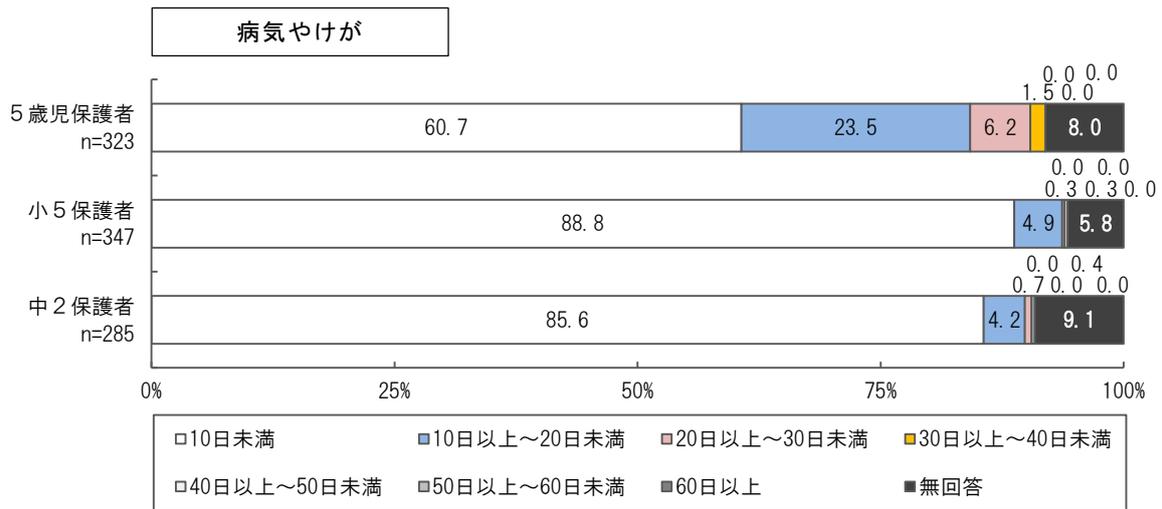


問22(2) 休んだ日数へ

○病気やけがが理由で学校・保育園・幼稚園を休んだ日数は、いずれの学年も「10日未満」(60.7~88.8%)が最も高く、次いで5歳児保護者は「10日以上~20日未満」(23.5%)となっています。

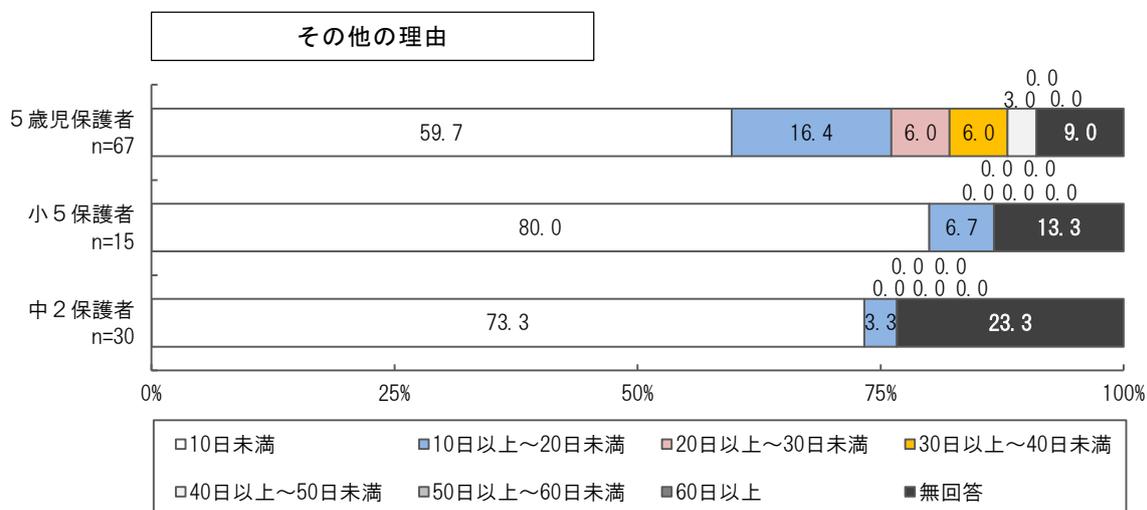
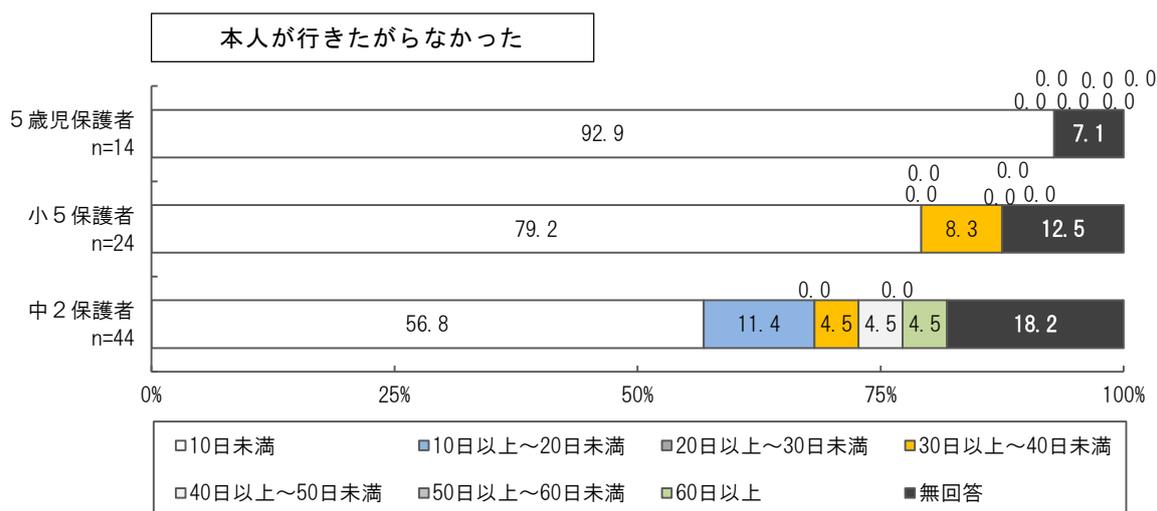
○忌引きなど家族の理由で学校・保育園・幼稚園を休んだ日数は、いずれの学年も「10日未満」(84.4~95.0%)が最も高く、次いで5歳児保護者は「10日以上~20日未満」(7.8%)となっています。

問22(2) 休んだ日数



○本人が行きたがらなかったという理由で学校・保育園・幼稚園を休んだ日数は、いずれの学年も「10日未満」(56.8~92.9%)が最も高く、次いで中2保護者は「10日以上~20日未満」(11.4%)となっており、学年が進むほど休みが長期化する傾向があります。

○その他の理由で学校・保育園・幼稚園を休んだ日数は、いずれの学年も「10日未満」(59.7~80.0%)が最も高く、次いで5歳児保護者は「10日以上~20日未満」(16.4%)となっており、学年が進むほど休みが長期化する傾向があります。

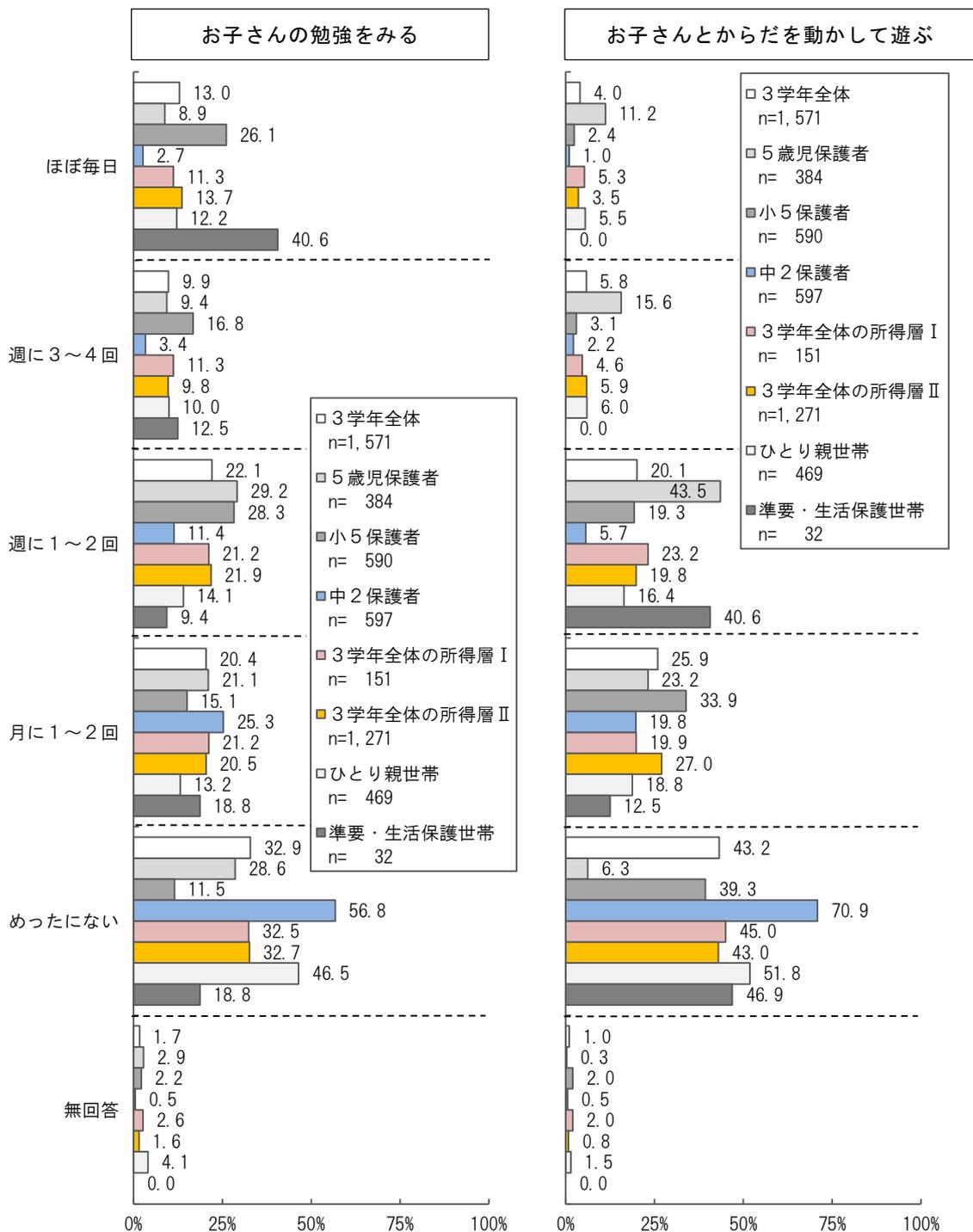


7 子どもとの関わりについて

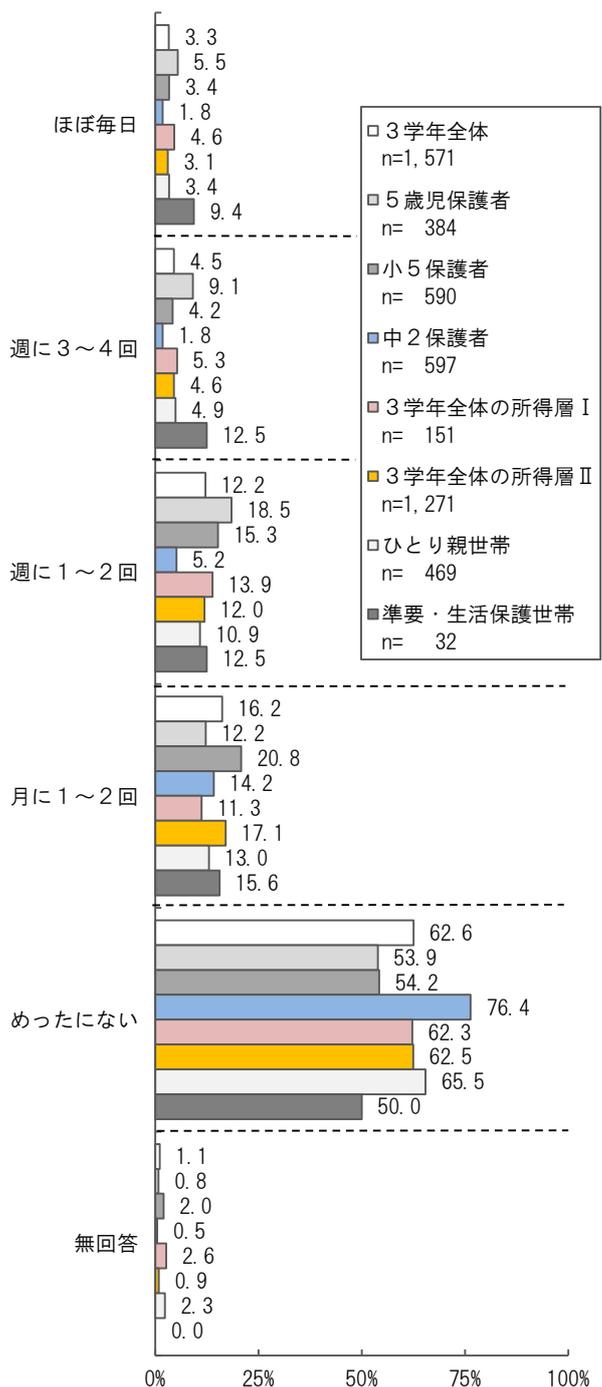
○家庭での子どもと関わる状況を学年別にみると、『お子さんの勉強をみる』『お子さんとからだを動かして遊ぶ』など一緒に何かをする項目では、「めったにない」と回答した割合が5歳児・小学5年生に比べ、中学2年生で高くなっています。一方で、『学校（保育所・幼稚園）の出来事の話をする』『友達のことについて話をする』などの会話によるコミュニケーションの項目では、「めったにない」と回答した割合の学年差はありません。

○また、ひとり親世帯では「めったにない」と回答した割合が、すべての項目で3学年全体の割合を上回っていることから、関わりが少ない状況がうかがえます。

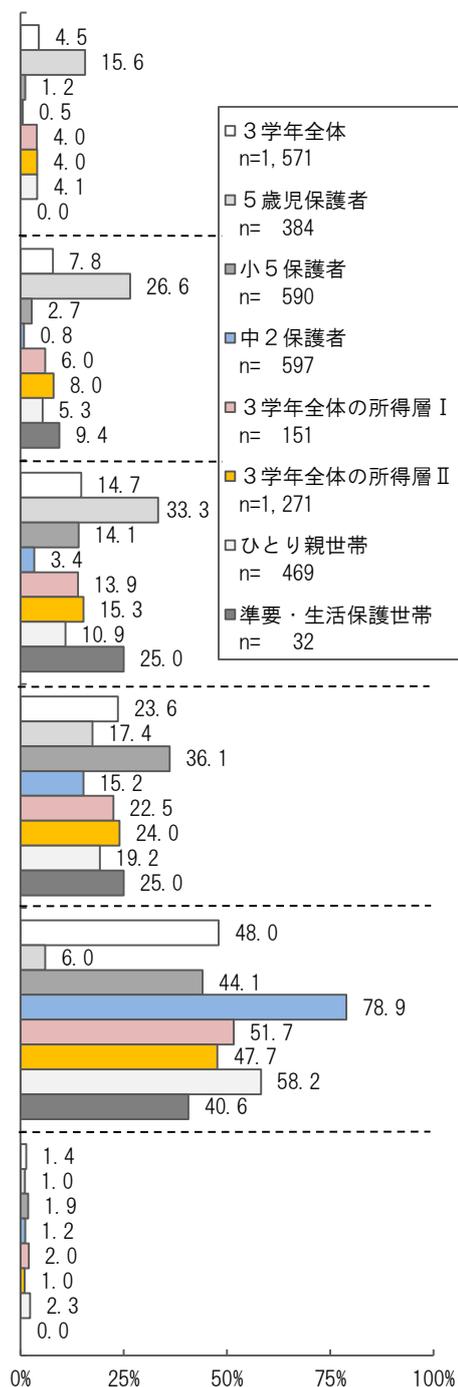
問23(1) 家庭で子どもと関わる頻度（調査対象者別）

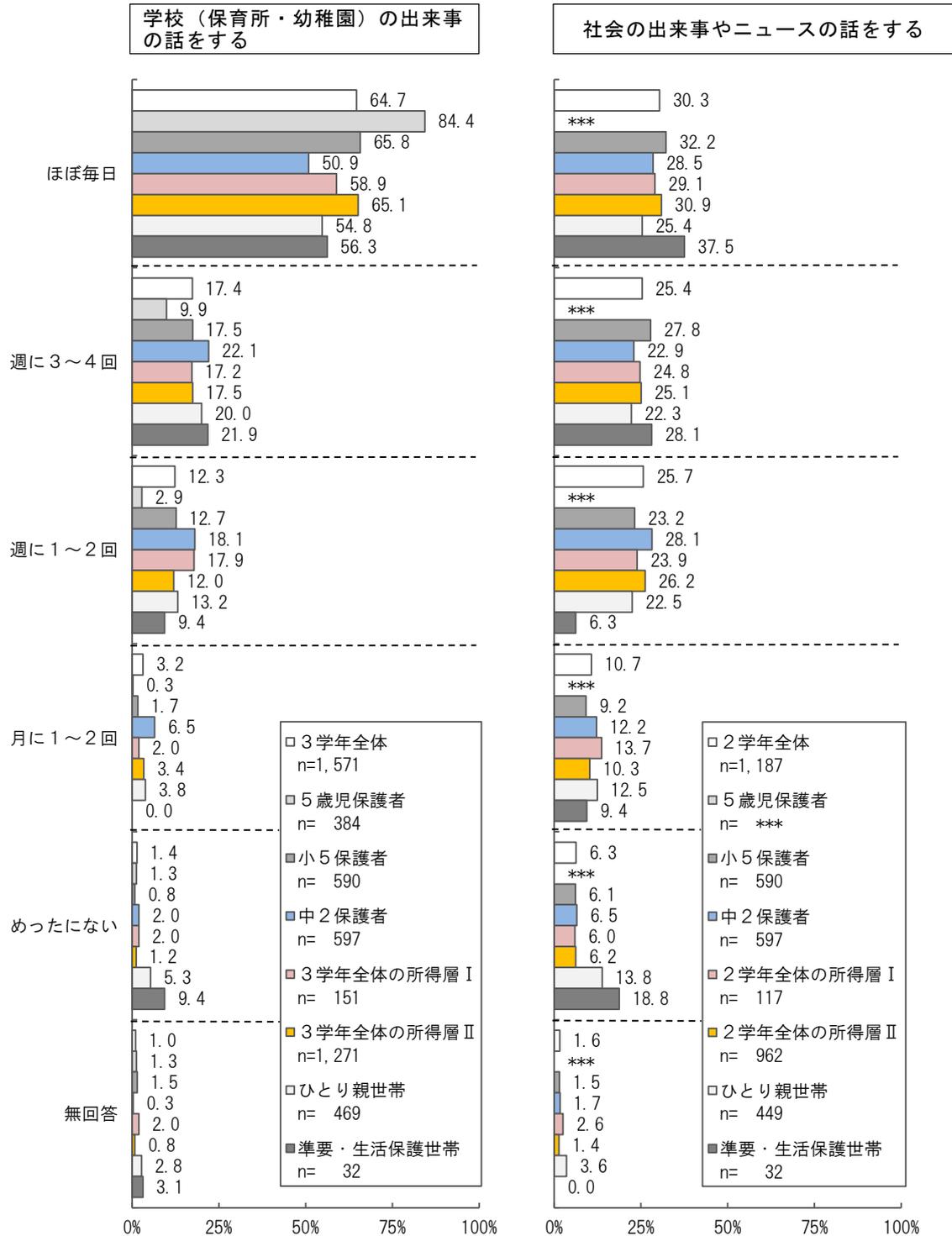


お子さんとコンピューターゲームで遊ぶ

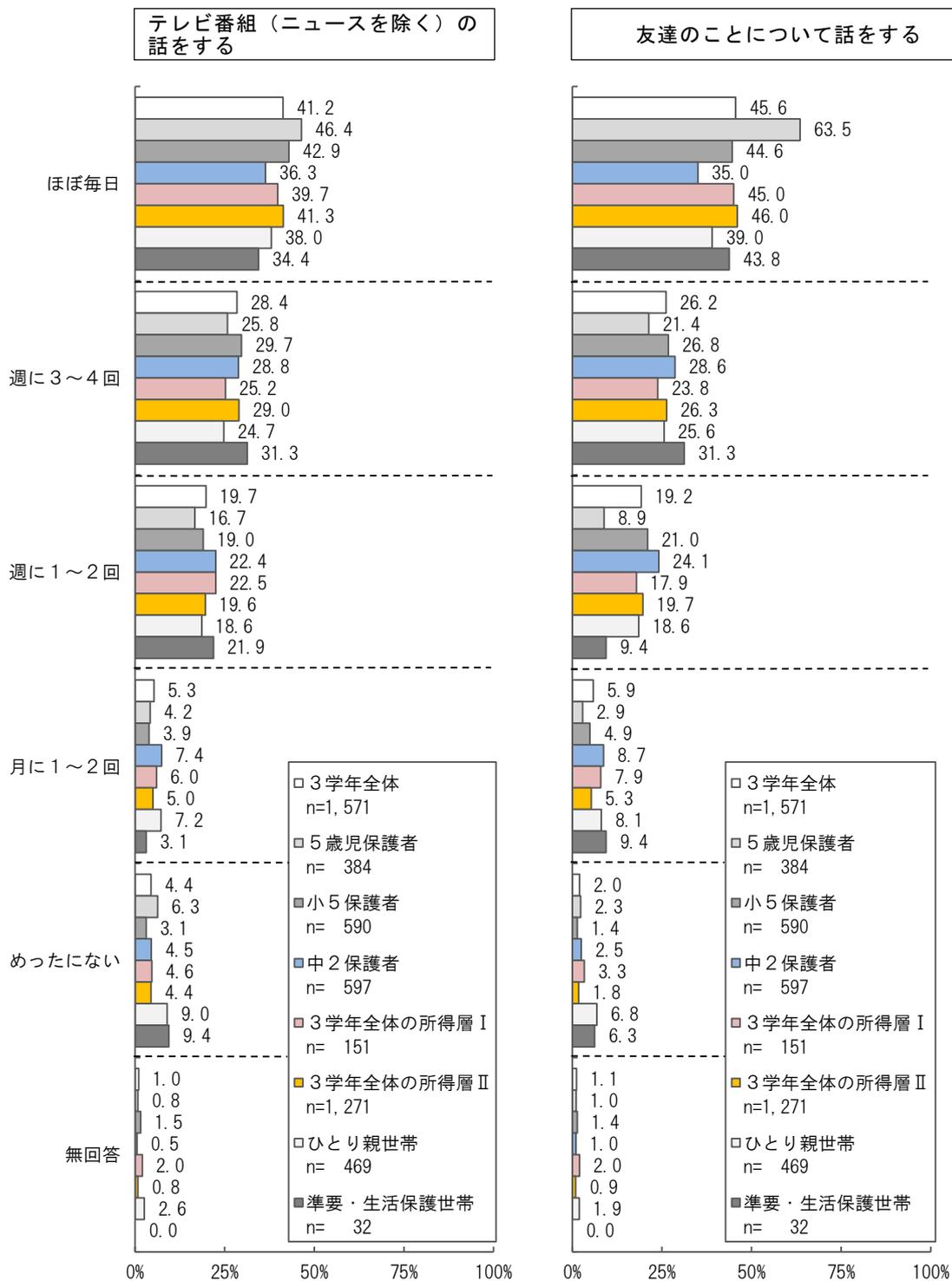


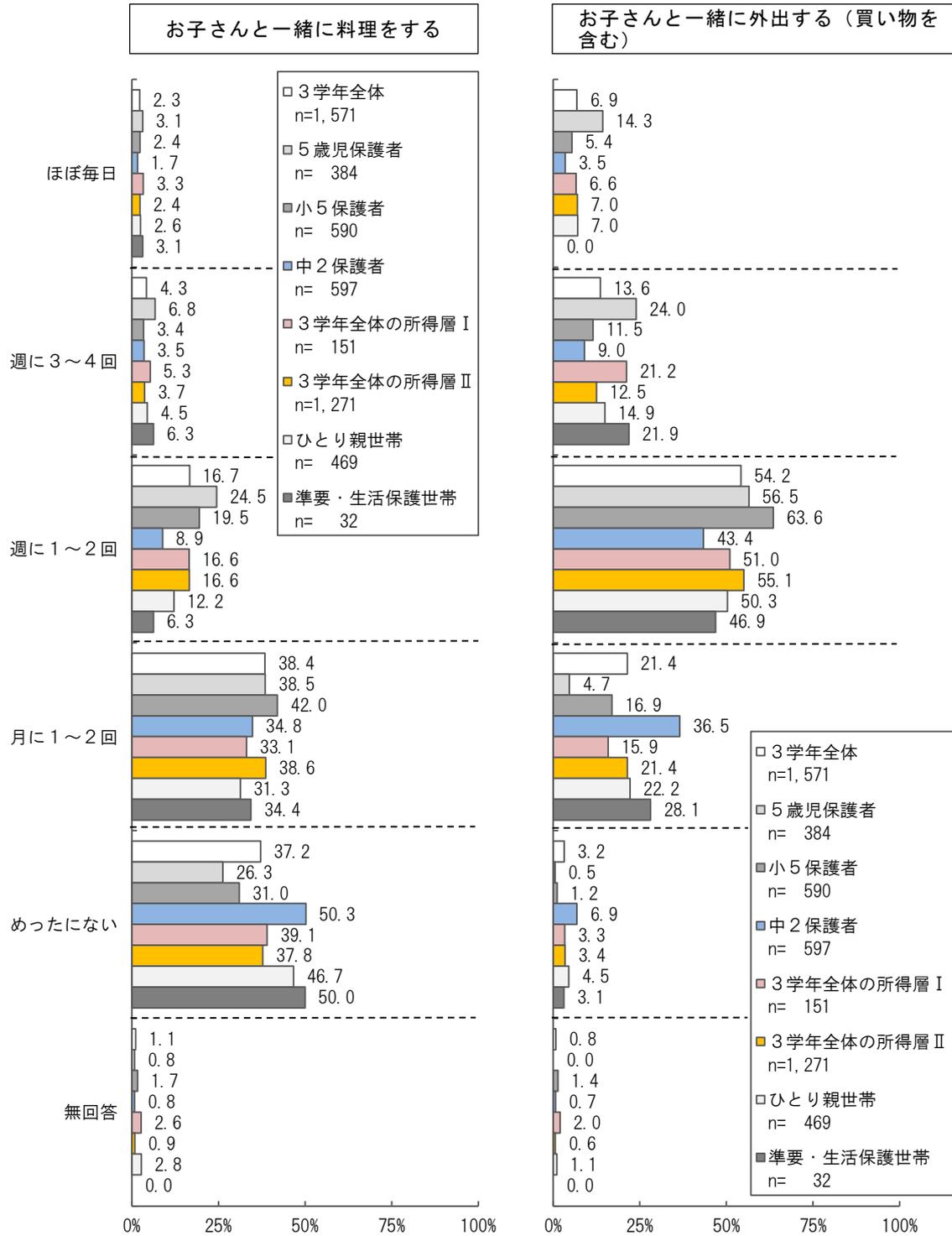
お子さんとカードゲーム、ごっこ遊びなどで遊ぶ





※5歳児保護者の設問に「社会の出来事やニュースの話をする」はありません。



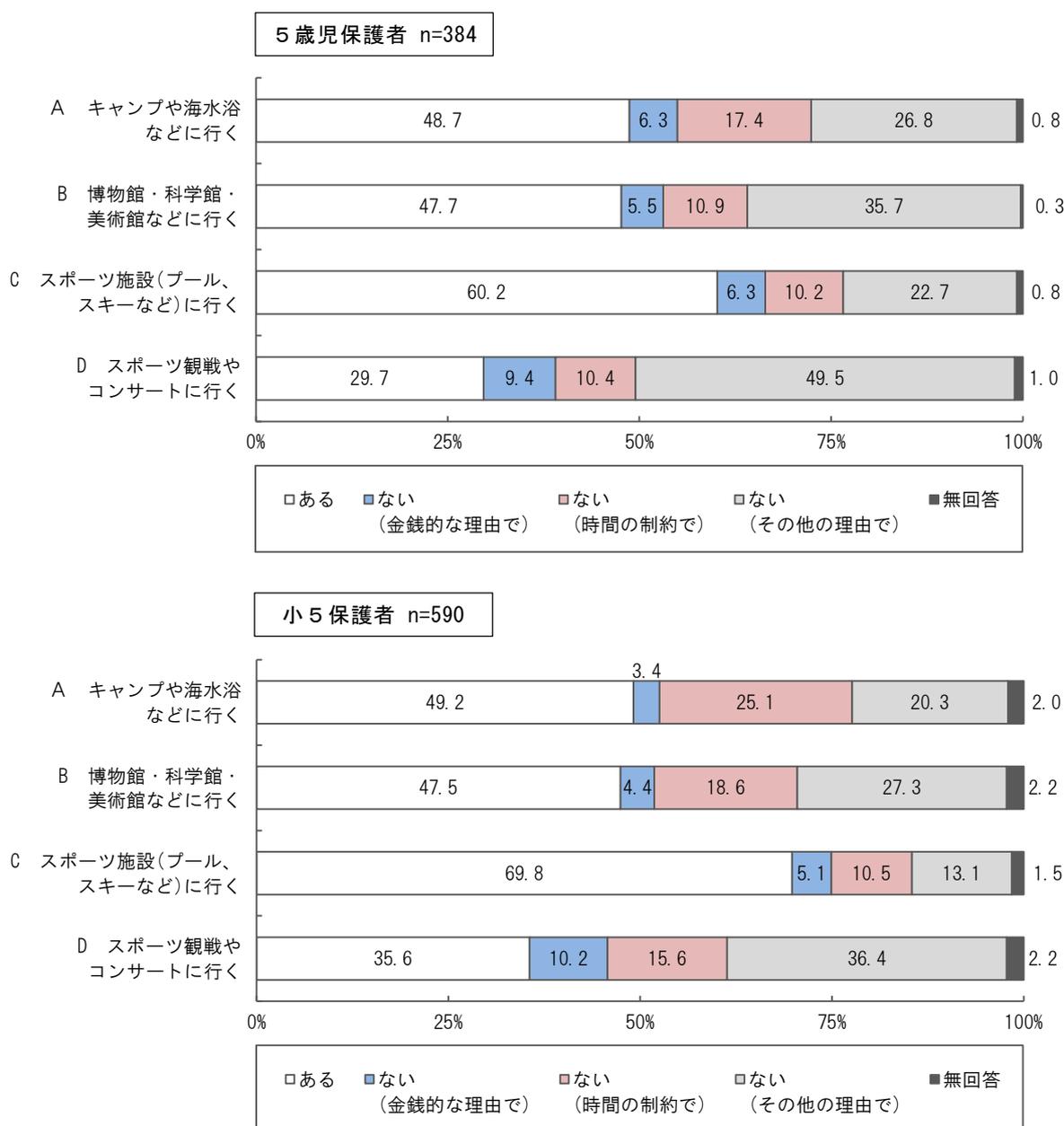


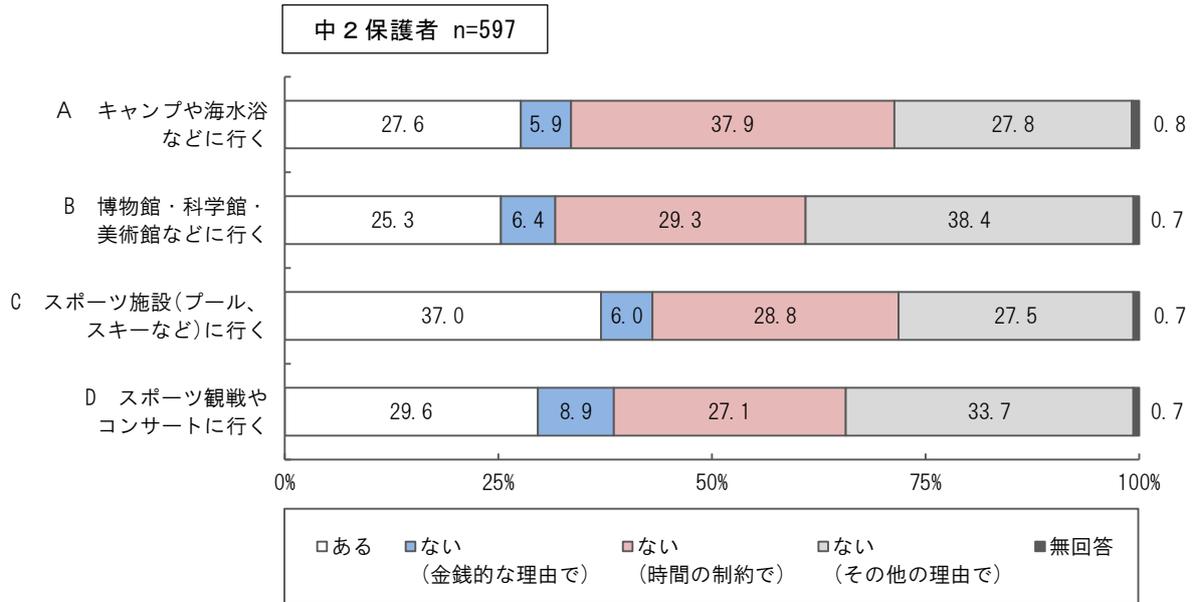
○子どもと体験することが「ない」と回答した5歳児保護者の割合は、『スポーツ観戦やコンサートに行く』(69.3%)が最も高く、次いで『博物館・科学館・美術館などに行く』(52.1%)、『キャンプや海水浴などに行く』(50.5%)となっています。

○小5保護者の割合は、『スポーツ観戦やコンサートに行く』(62.2%)が最も高く、次いで『博物館・科学館・美術館などに行く』(50.3%)、『キャンプや海水浴などに行く』(48.8%)となっています。

○子どもと体験することが「ない」と回答した中2保護者の割合は、『博物館・科学館・美術館などに行く』(74.1%)が最も高く、次いで『キャンプや海水浴などに行く』(71.6%)、『スポーツ観戦やコンサートに行く』(69.7%)となっています。

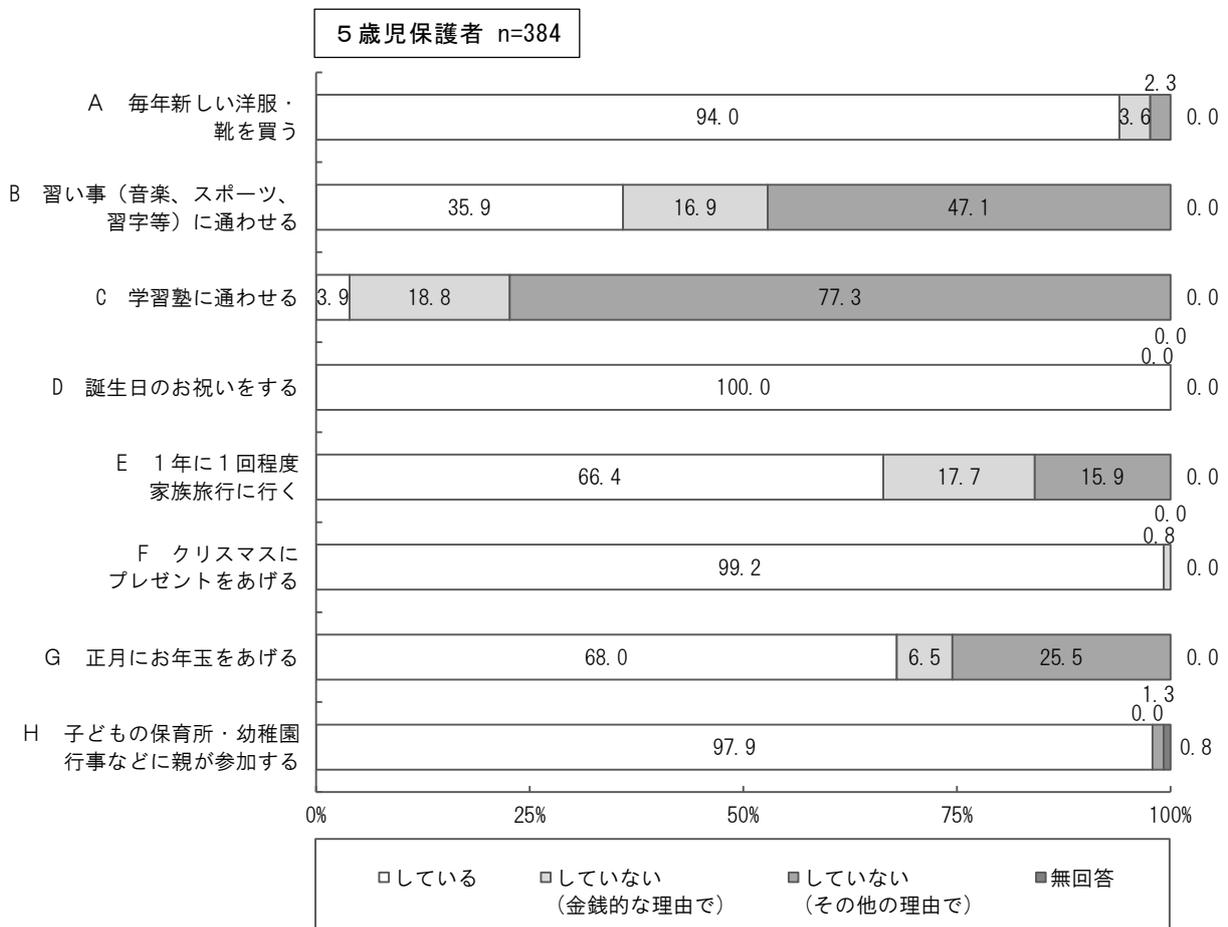
問23(2) 子どもと体験すること



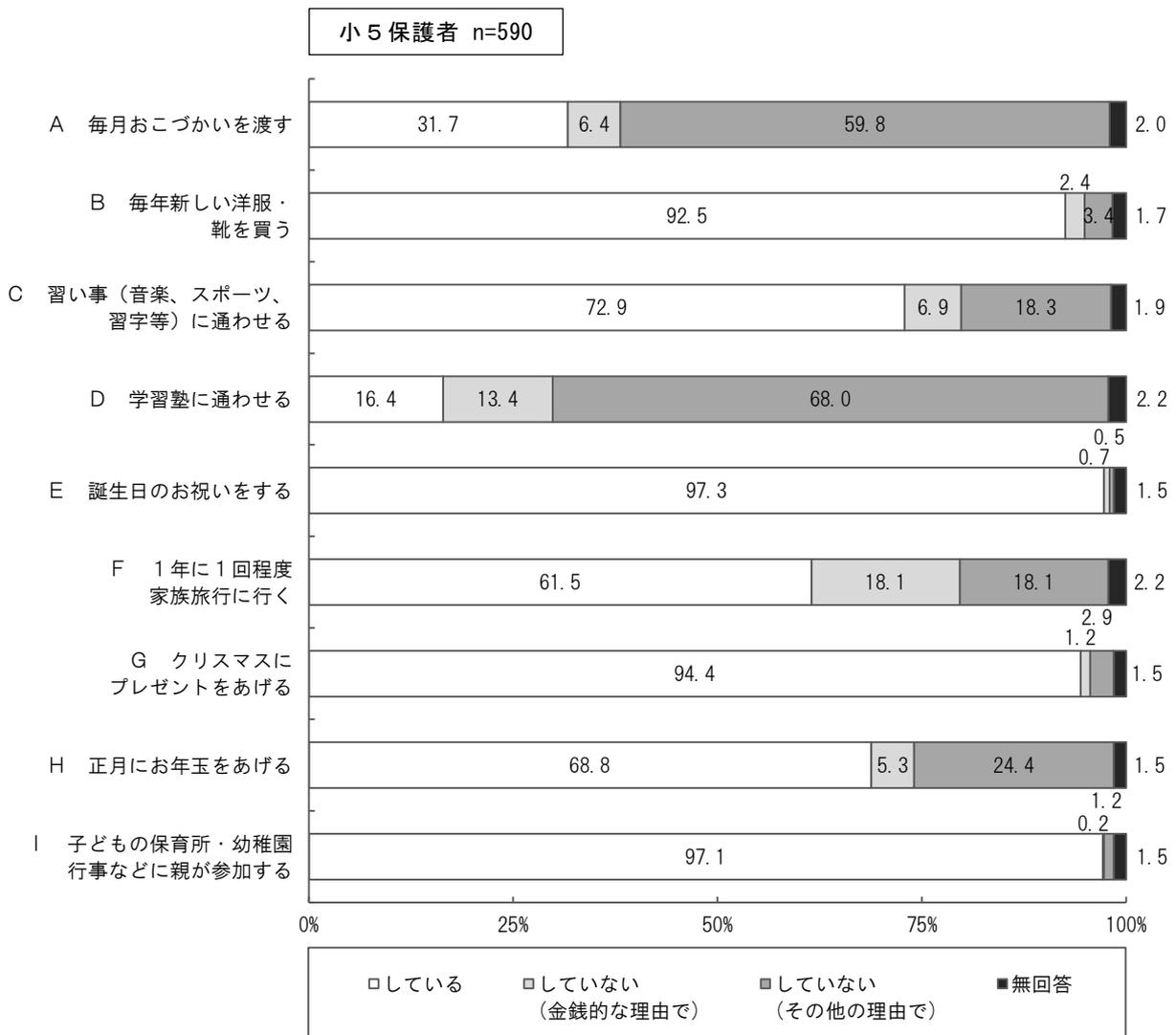


○家庭で子どもにしているかどうかについて、「していない」と回答した5歳児保護者の割合は、『学習塾に通わせる』(96.1%)が最も高く、次いで『習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる』(64.0%)となっています。

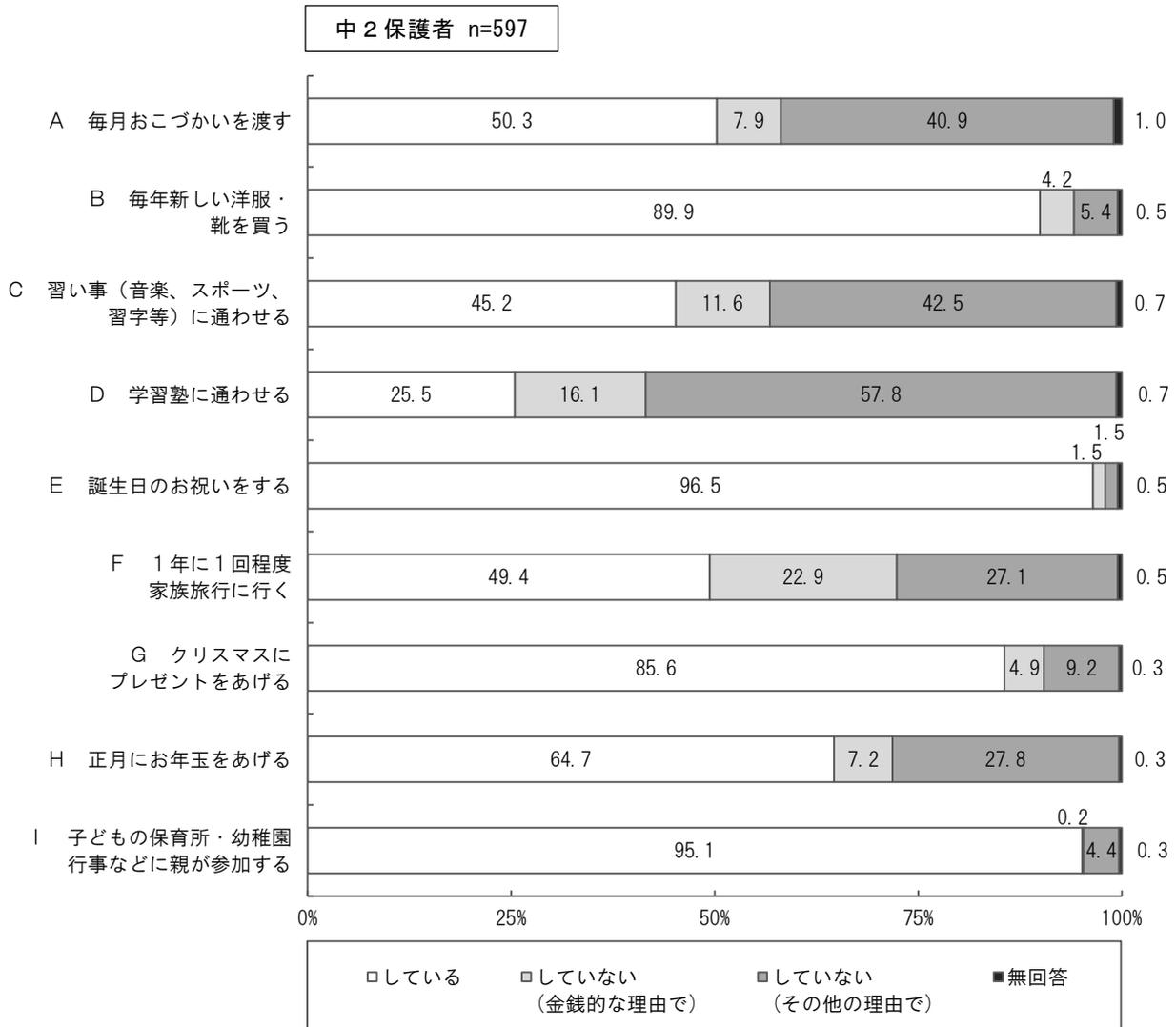
問24 家庭で子どもにしていること



○家庭で子どもにしているかどうかについて、「していない」と回答した小5保護者の割合は、『学習塾に通わせる』（81.4%）が最も高く、次いで『毎月おこづかいを渡す』（66.2%）となっています。



○家庭で子どもにしているかどうかについて、「していない」と回答した中2保護者の割合は、『学習塾に通わせる』（73.9%）が最も高く、次いで『習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる』（54.1%）、『毎月おこづかいを渡す』（48.8%）となっています。

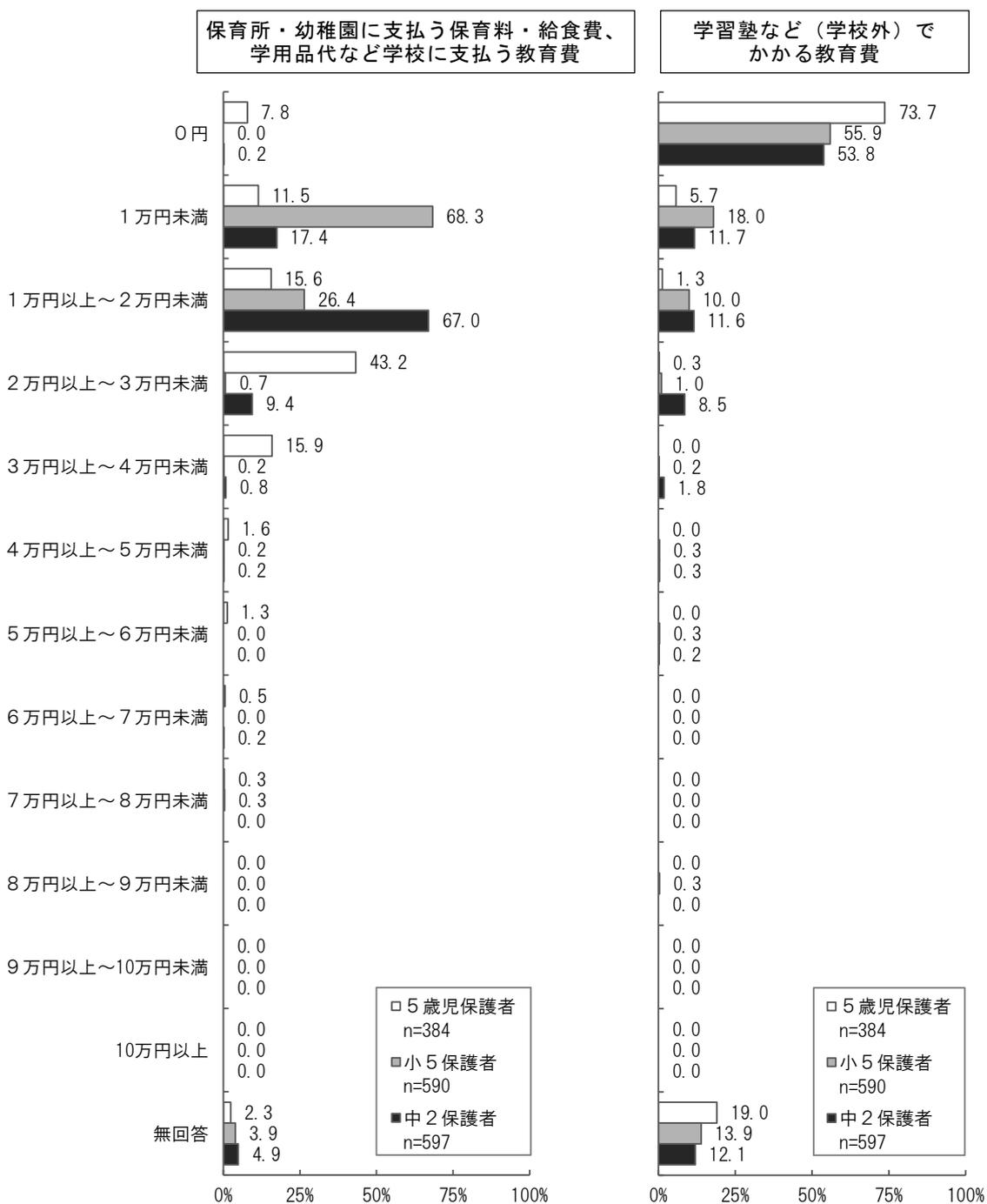


8 子育てにかかる費用について

○給食費、学用品代など学校に支払う教育費をみると、5歳児保護者は「2万円以上～3万円未満」（43.2%）、小5保護者は「1万円未満」（68.3%）、中2保護者は「1万円以上～2万円未満」（67.0%）が最も高くなっています。

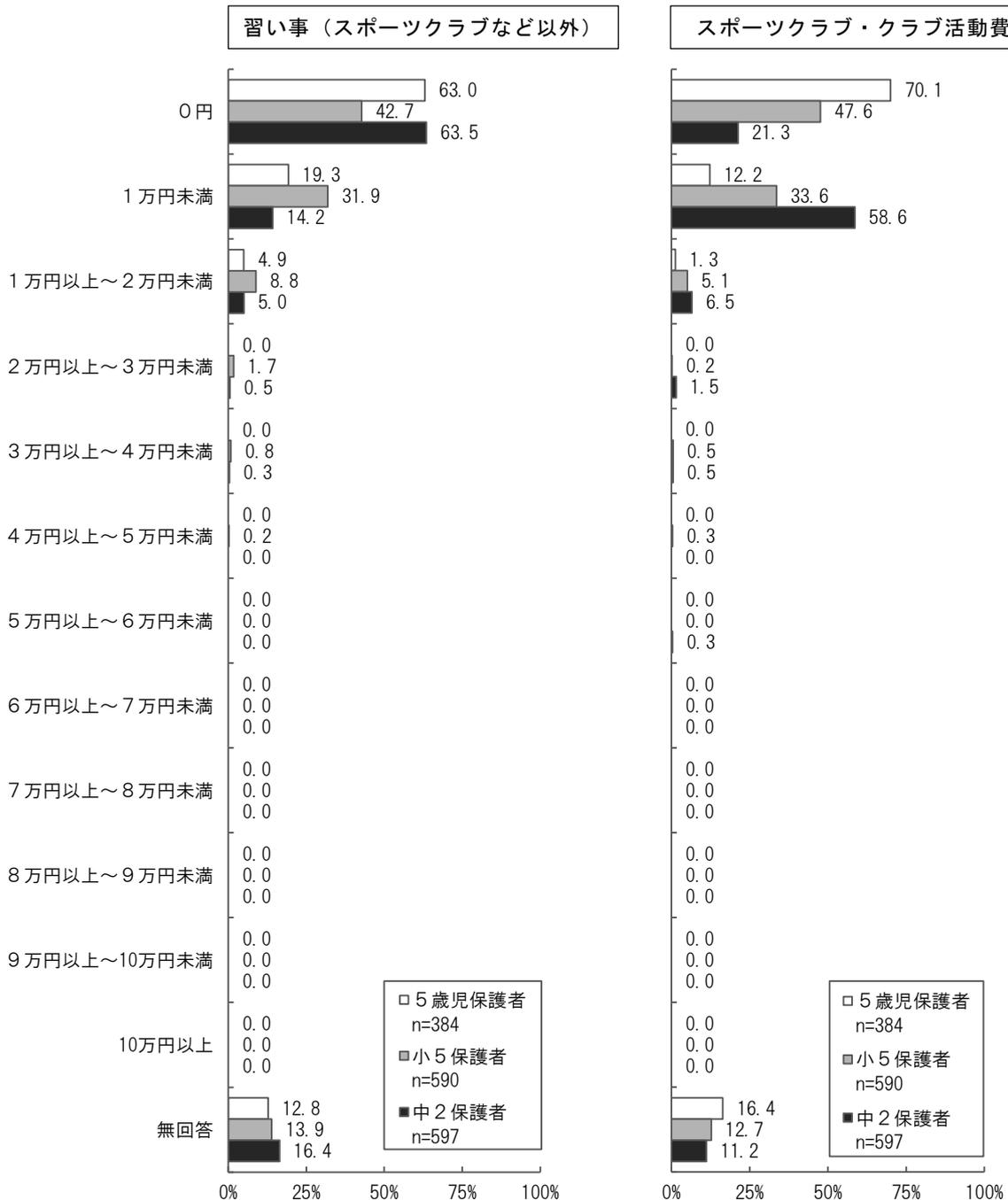
○学習塾など、学校外でかかる教育費をみると、いずれの学年も「0円」（73.7～53.8%）が最も高く、次いで小5保護者・中2保護者は「1万円未満」（18.0%・11.7%）となっています。

問25 子どもにかかる生活費（月額）



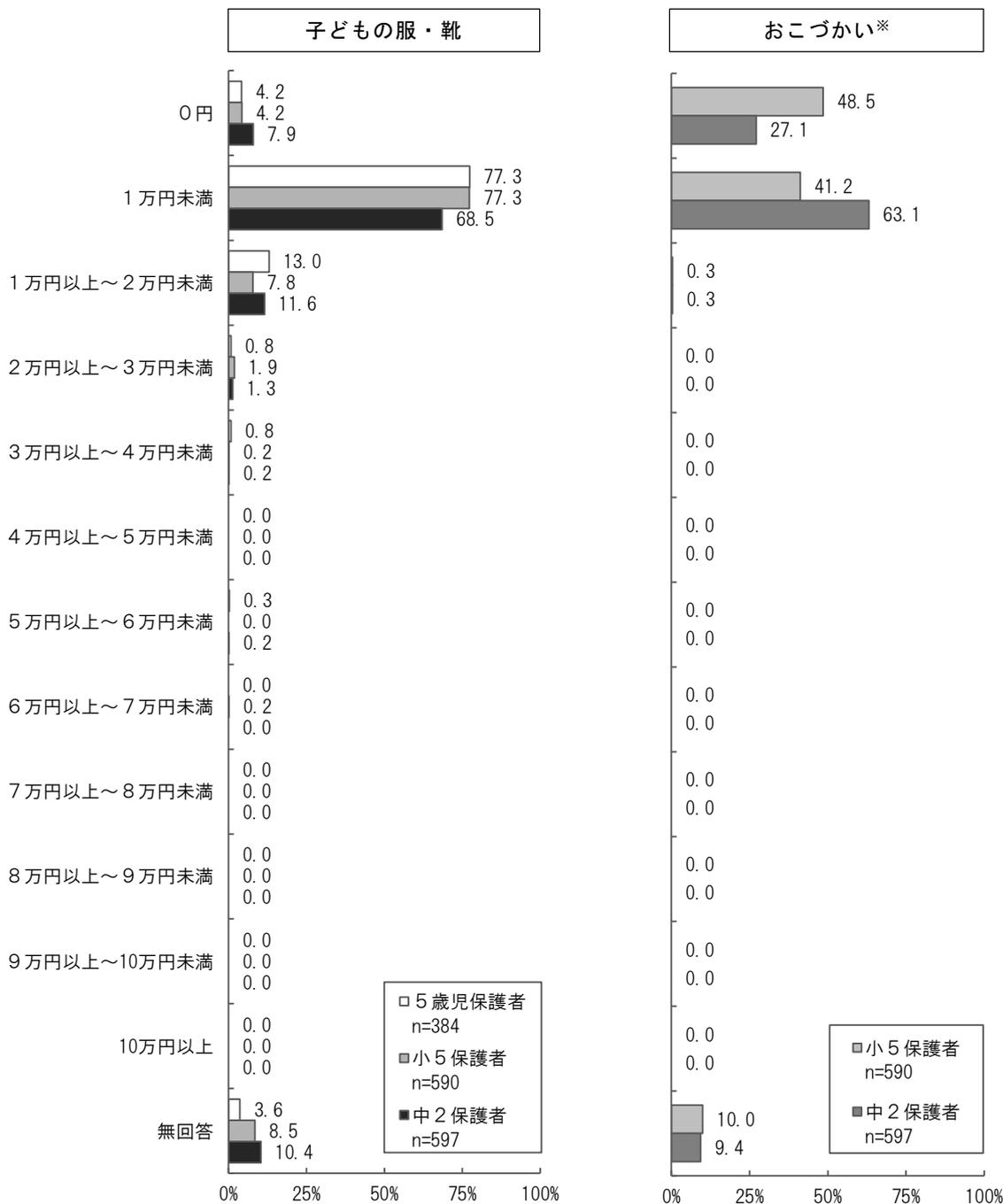
○習い事（スポーツクラブなど以外）に支払う教育費をみると、いずれの学年も「0円」（42.7～63.5%）が最も高く、次いで「1万円未満」（14.2～31.9%）となっています。

○スポーツクラブ・クラブ活動費をみると、5歳児保護者・小5保護者は「0円」（70.1%・47.6%）、中2保護者は「1万円未満」（58.6%）が最も高くなっています。



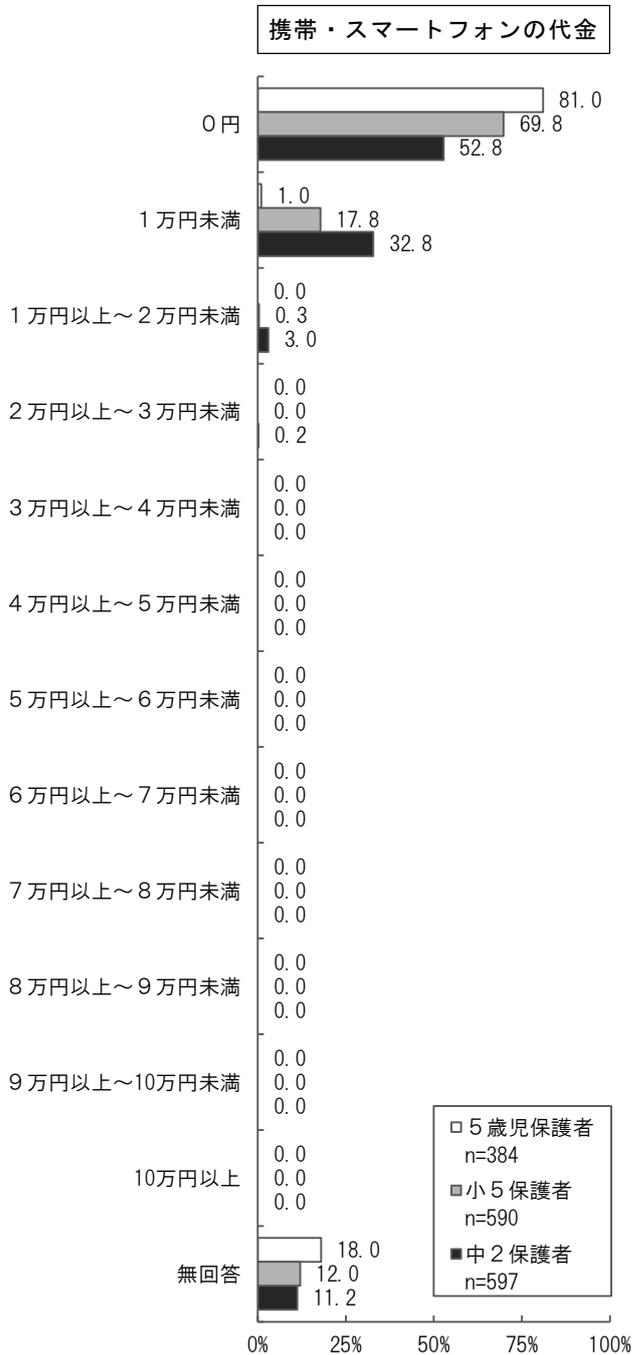
○子どもの服・靴に支払う生活費をみると、いずれの学年も「1万円未満」(68.5～77.3%)が最も高くなっています。

○おこづかいに支払う生活費をみると、小5保護者は「0円」(48.5%)、中2保護者は「1万円未満」(63.1%)が最も高くなっています。



※5歳児保護者の設問に「おこづかい」はありません。

○携帯・スマートフォンの代金をみると、いずれの学年も「0円」（52.8～81.0%）が最も高く、次いで小5保護者・中2保護者は「1万円未満」（17.8%・32.8%）となっています。

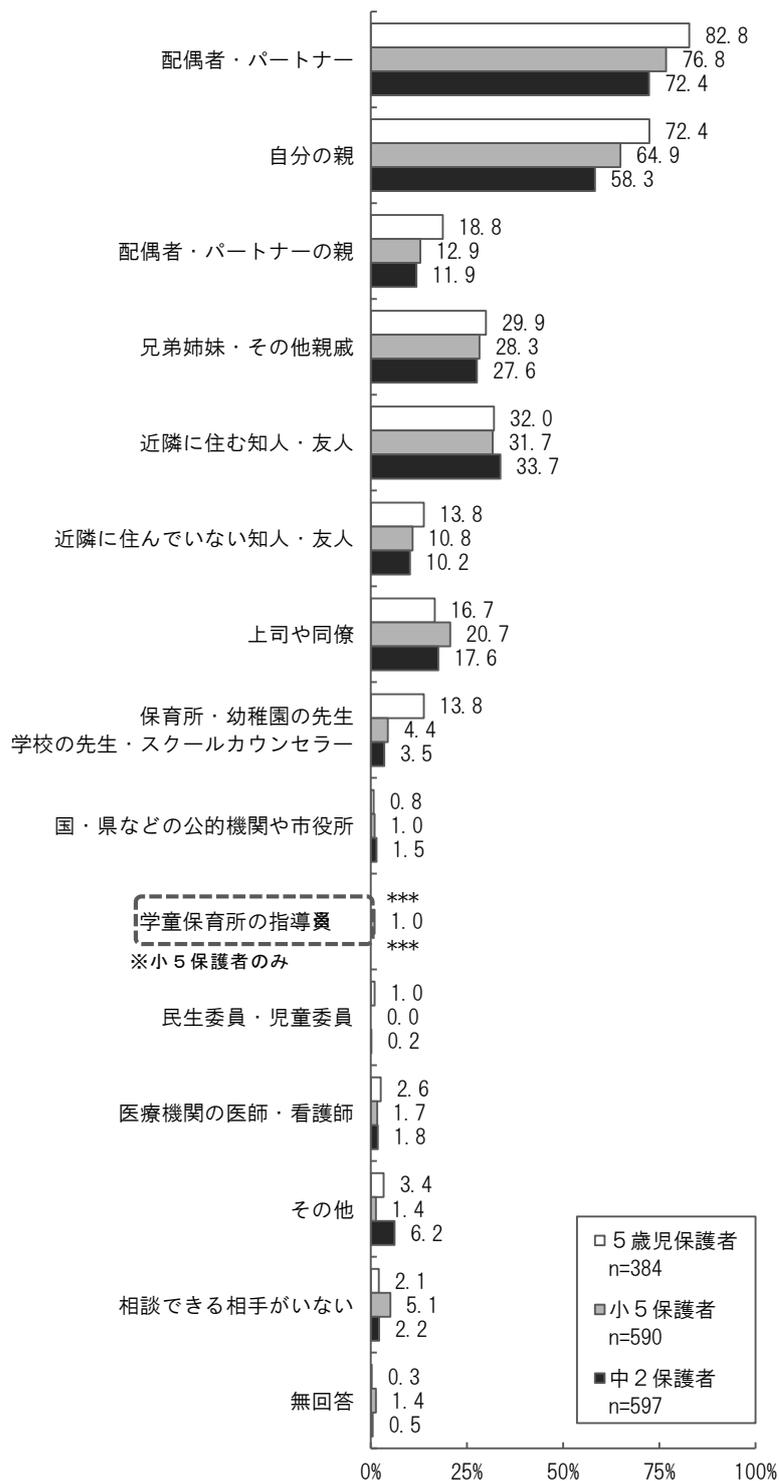


9 家庭での生活について

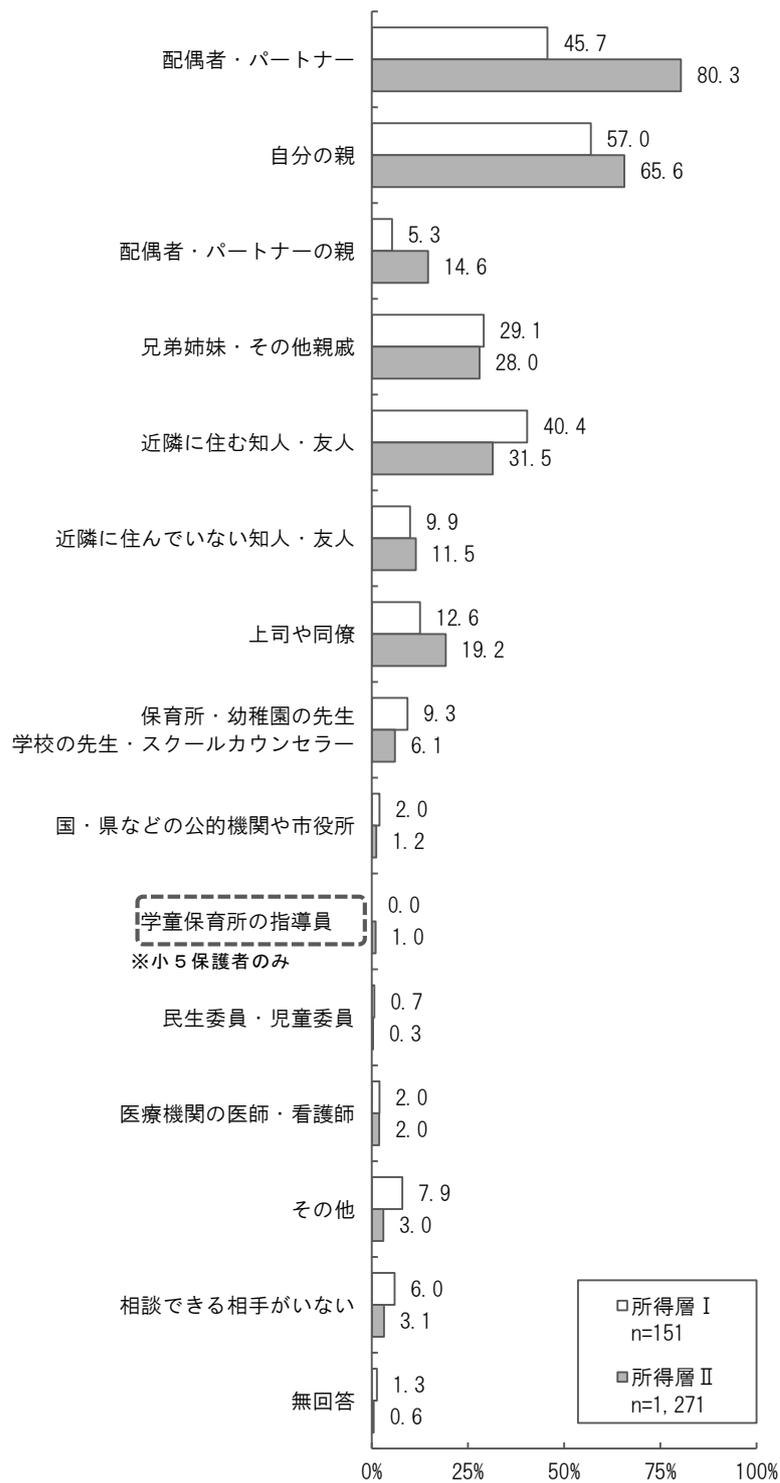
○困った時や悩みがあるときに相談できる相手をみると、いずれの学年も「配偶者・パートナー」(72.4~82.8%)が最も高く、次いで「自分の親」(58.3~72.4%)、「近隣に住む知人・友人」(31.7~33.7%)、「兄弟姉妹・その他親戚」(27.6~29.9%)となっています。

※ひとり親・保護世帯結果はP128参照

問26 本当に困ったときや悩みがあるときに相談できる相手

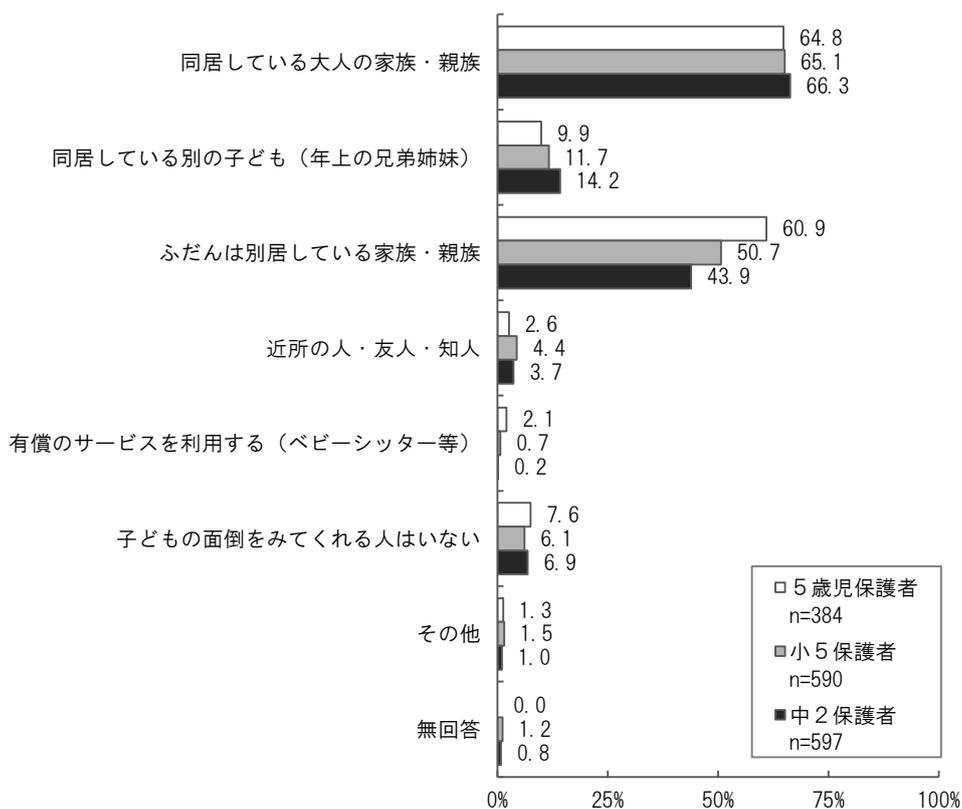


問26 本当に困ったときや悩みがあるときに相談できる相手（3学年全体の所得層別）



○保護者が病気や不在の時に、子どもを面倒みてくれる人は、いずれの学年も「同居している大人の家族・親族」(64.8~66.3%)が最も高く、次いで「ふだんは別居している家族・親族」(43.9~60.9%)となっています。

問27 病気や不在の時に、子どもを面倒みてくれる人



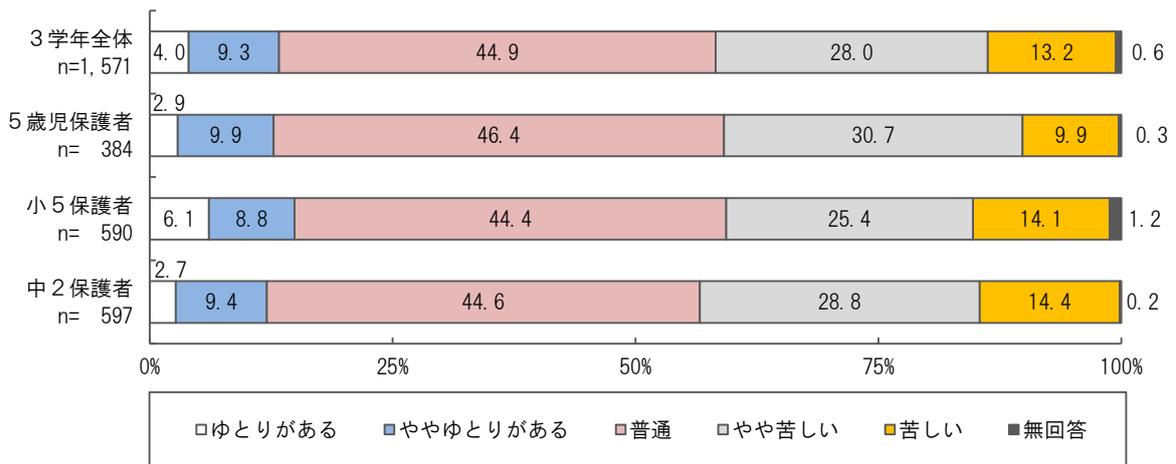
10 世帯の経済状況について

○現在の暮らしの状況を学年別にみると、いずれの学年でも「やや苦しい」と「苦しい」を合わせた割合が4割台となっています。

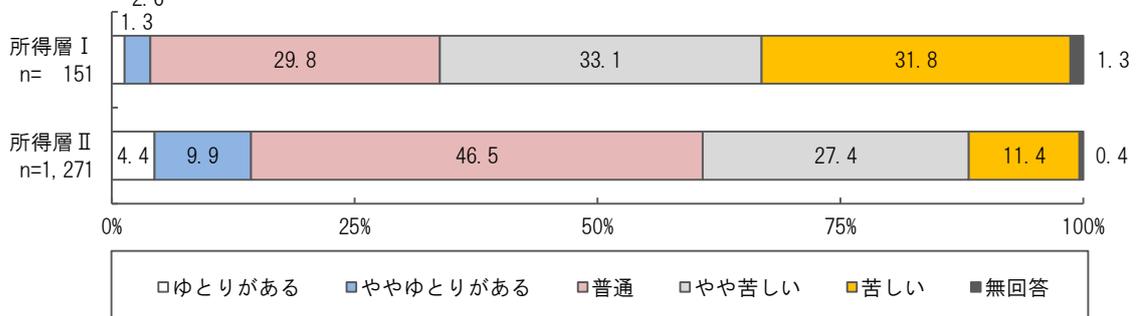
○所得層別にみると、「やや苦しい」と「苦しい」を合わせた割合は所得層Ⅱの38.8%に対し、所得層Ⅰでは64.9%と26.1^{ポイント}上回っています。

○3学年全体（41.2%）に比べ、ひとり親世帯では68.4%で、27.2^{ポイント}、準要保護・生活保護世帯では84.4%で、43.2^{ポイント}上回っています。

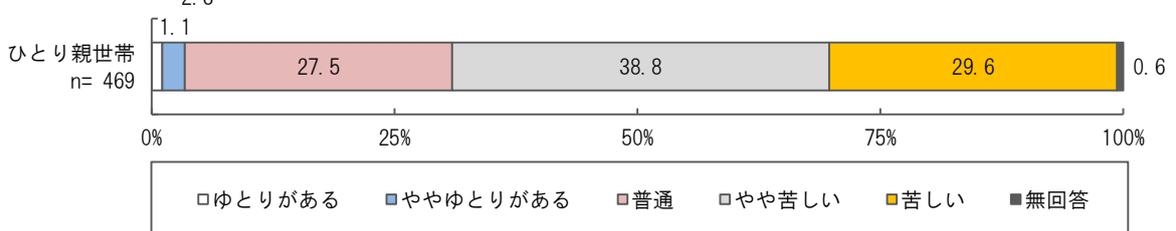
問28 現在の暮らしの状況（学年別）



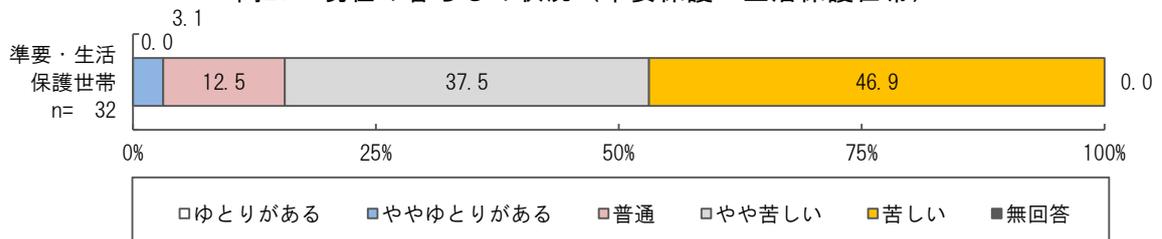
問28 現在の暮らしの状況（3学年全体の所得層別）



問28 現在の暮らしの状況（ひとり親世帯）



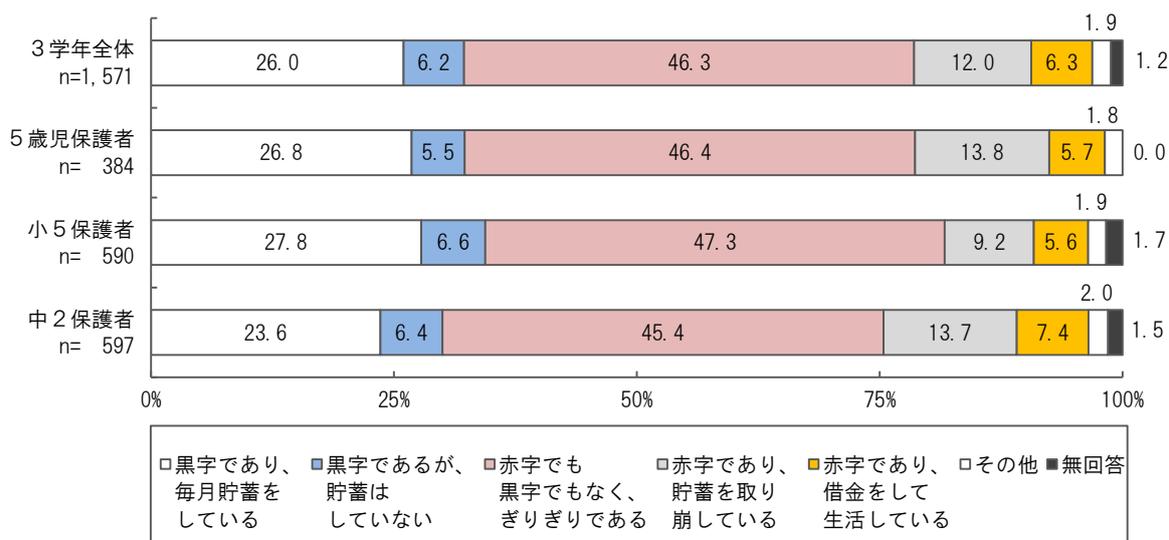
問28 現在の暮らしの状況（準要保護・生活保護世帯）



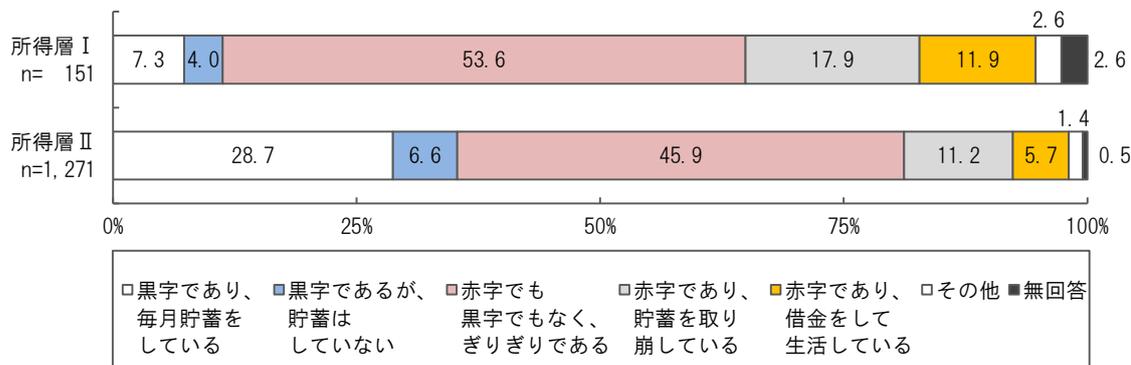
○家計の状況は、いずれの学年も「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」(45.4～47.3%)が最も高く、次いで「黒字であり、毎月貯蓄をしている」(23.6～27.8%)となっています。

○家計の状況を所得層別にみると、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」と「赤字であり、借金をして生活している」を合わせた割合は、所得層Ⅰが所得層Ⅱを上回っています。

問29 家計の状況（学年別）

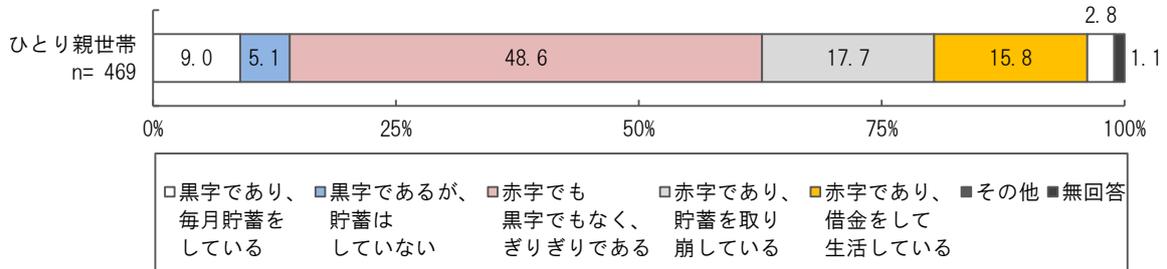


問29 家計の状況（3学年全体の所得層別）

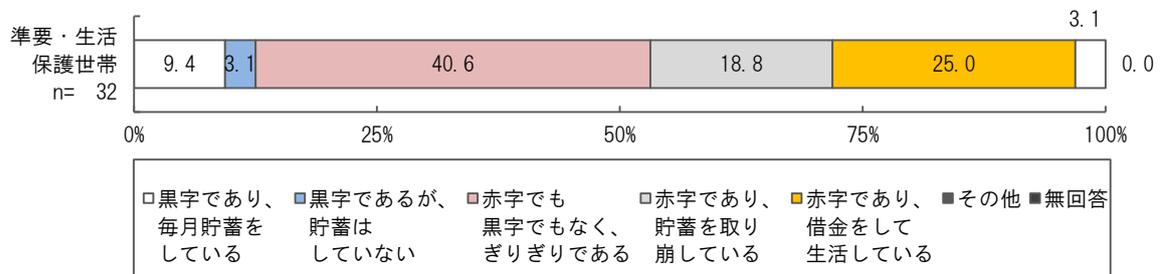


○ひとり親世帯と生活保護世帯の家計の状況をみると、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」と「赤字であり、借金をして生活している」を合わせた割合は、ひとり親世帯で33.5%、準要保護・生活保護世帯で43.8%となっています。

問29 家計の状況（ひとり親世帯）

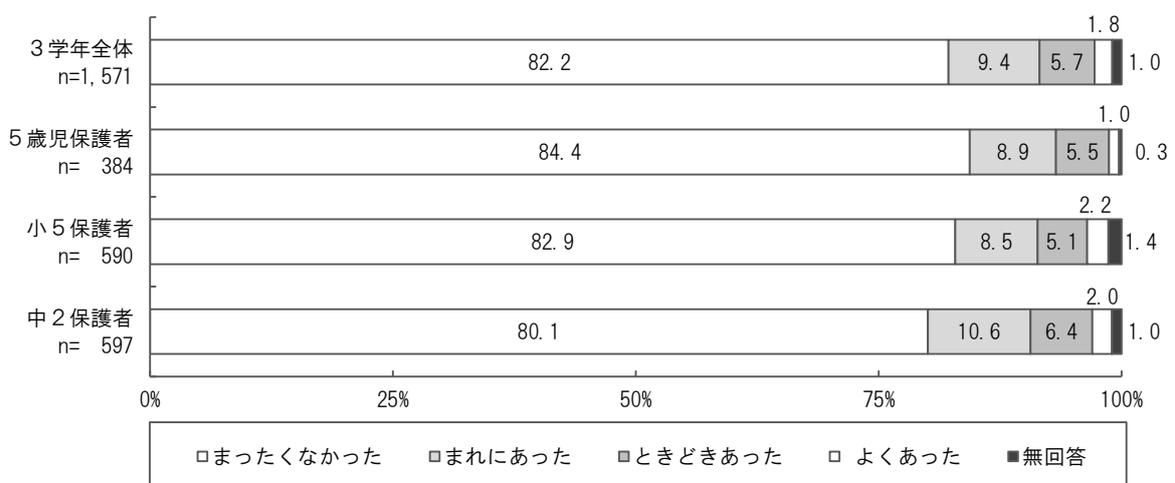


問29 家計の状況（準要保護・生活保護世帯）



○過去1年間に食料が買えなかった経験をみると、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は、いずれの学年も2割弱となっています。

問30 過去1年間に食料が買えなかった経験（学年別）

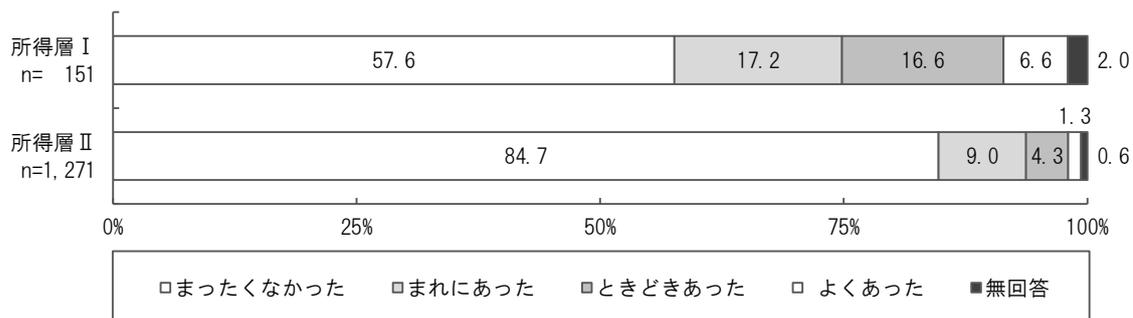


○所得層別の過去1年間に食料が買えなかった経験をみると、所得層Ⅰでは「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は40.4%となり、所得層Ⅱ（14.6%）を大きく上回っています。

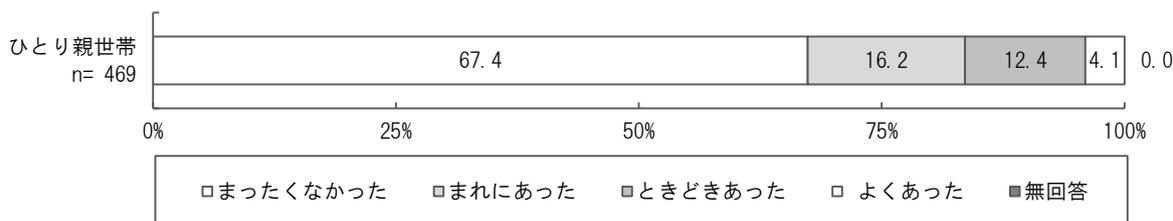
○ひとり親世帯では、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は32.7%となっています。

○準要保護・生活保護世帯では、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は50.0%となっています。

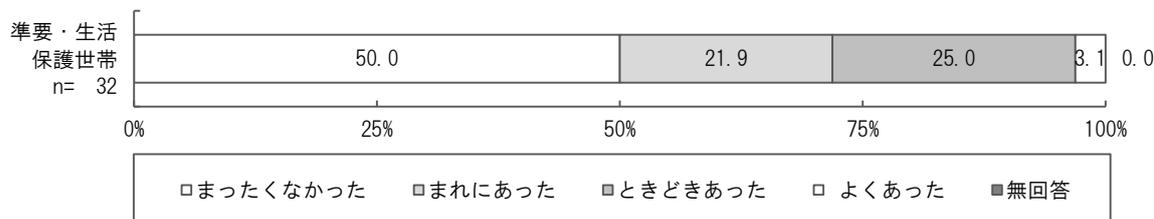
問30 過去1年間に食料が買えなかった経験（3学年全体の所得層別）



問30 過去1年間に食料が買えなかった経験（ひとり親世帯）

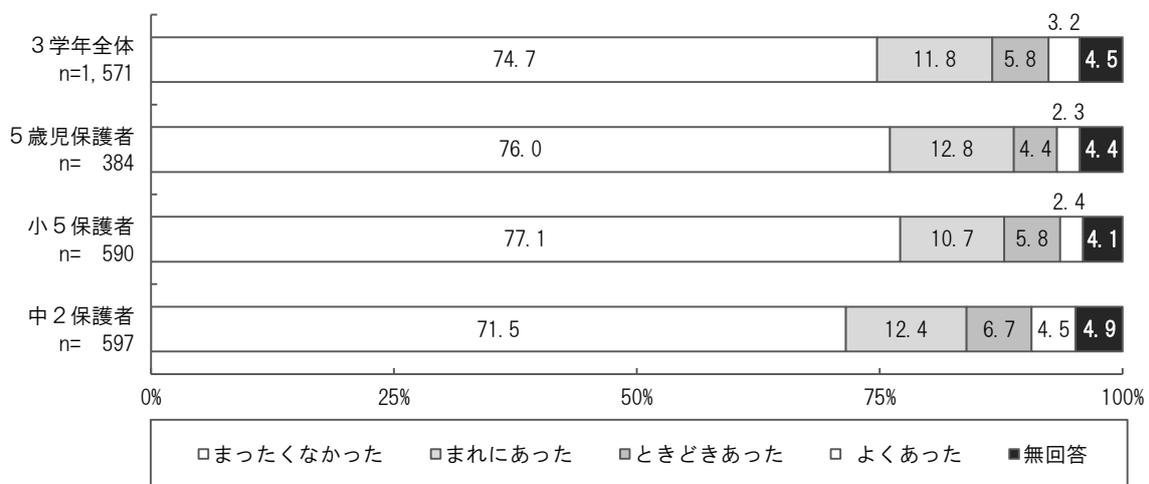


問30 過去1年間に食料が買えなかった経験（準要保護・生活保護世帯）

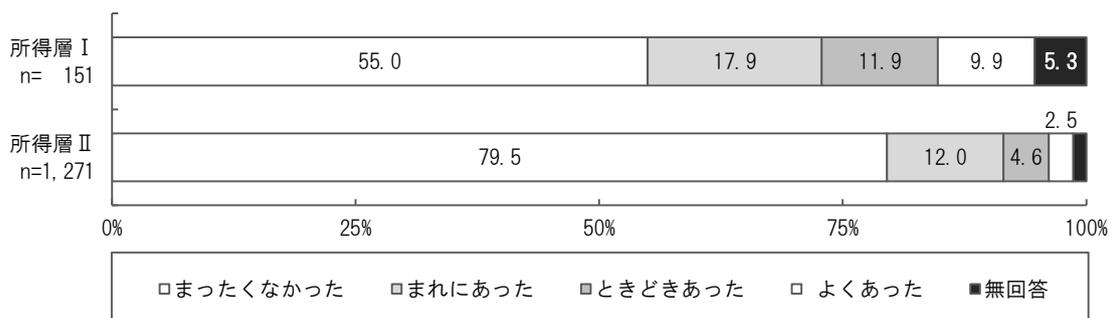


- 過去1年間に衣類が買えなかった経験をみると、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は、いずれの学年も2割前後となっています。
- 所得層別の過去1年間に衣類が買えなかった経験をみると、所得層Ⅰでは「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は39.7%となり、所得層Ⅱ（19.1%）を大きく上回っています。
- ひとり親世帯では、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は37.1%となっています。
- 準要保護・生活保護世帯では、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は53.2%となっています。

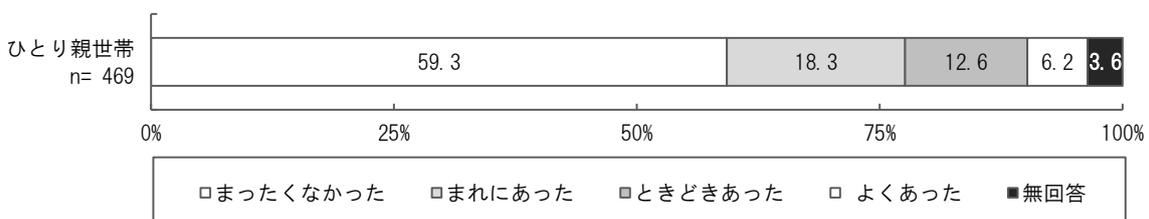
問31 過去1年間に衣類が買えなかった経験（学年別）



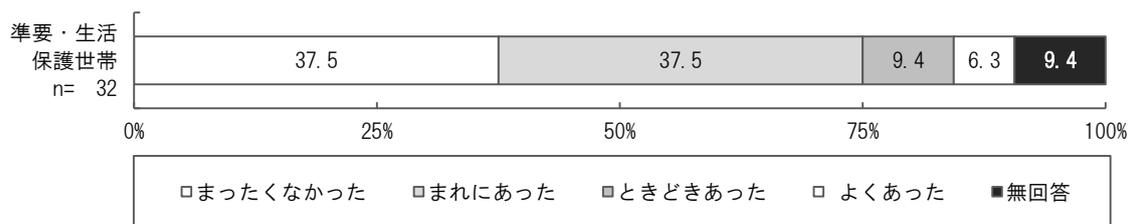
問31 過去1年間に衣類が買えなかった経験（3学年全体の所得層別）



問31 過去1年間に衣類が買えなかった経験（ひとり親世帯）

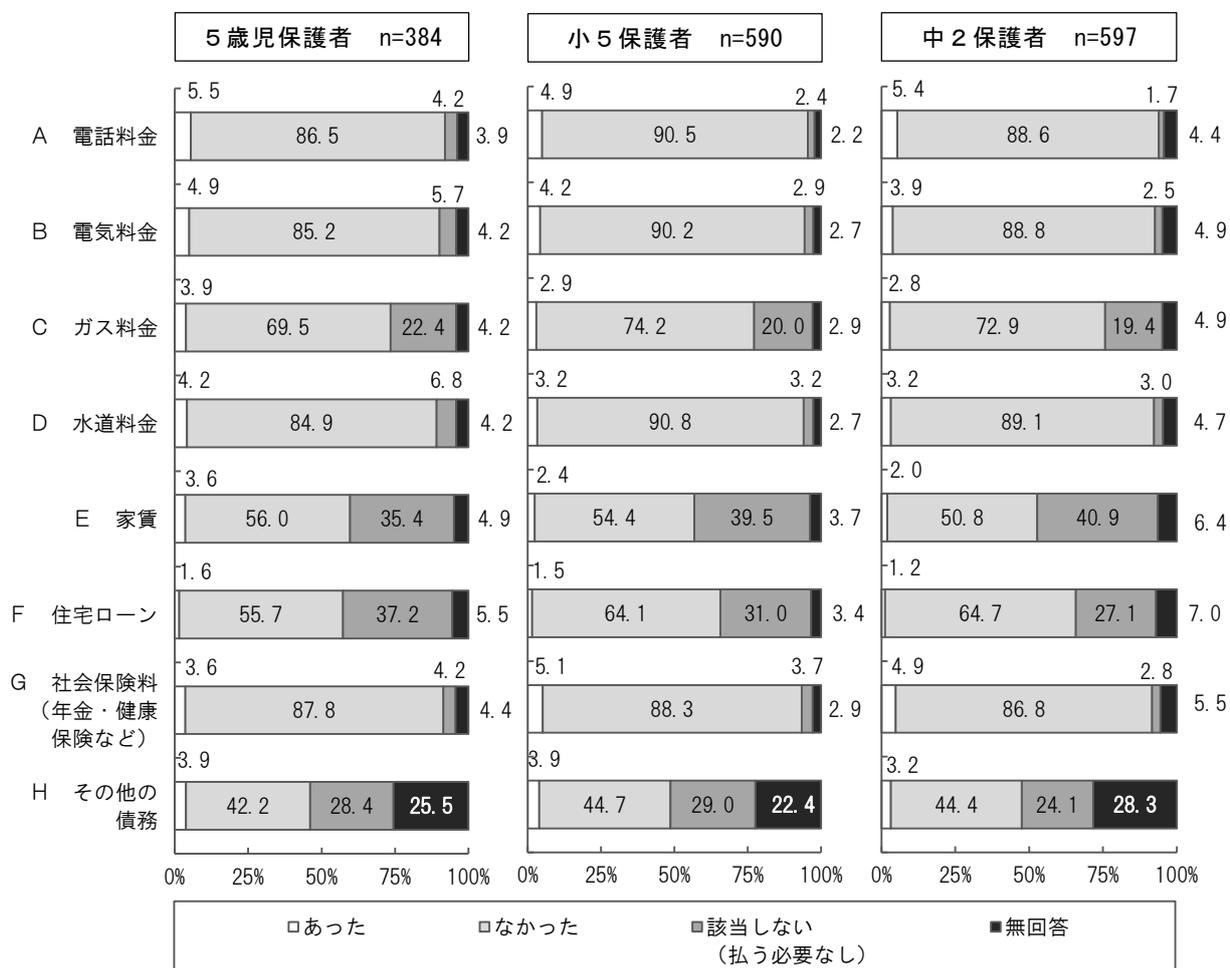


問31 過去1年間に衣類が買えなかった経験（準要保護・生活保護世帯）



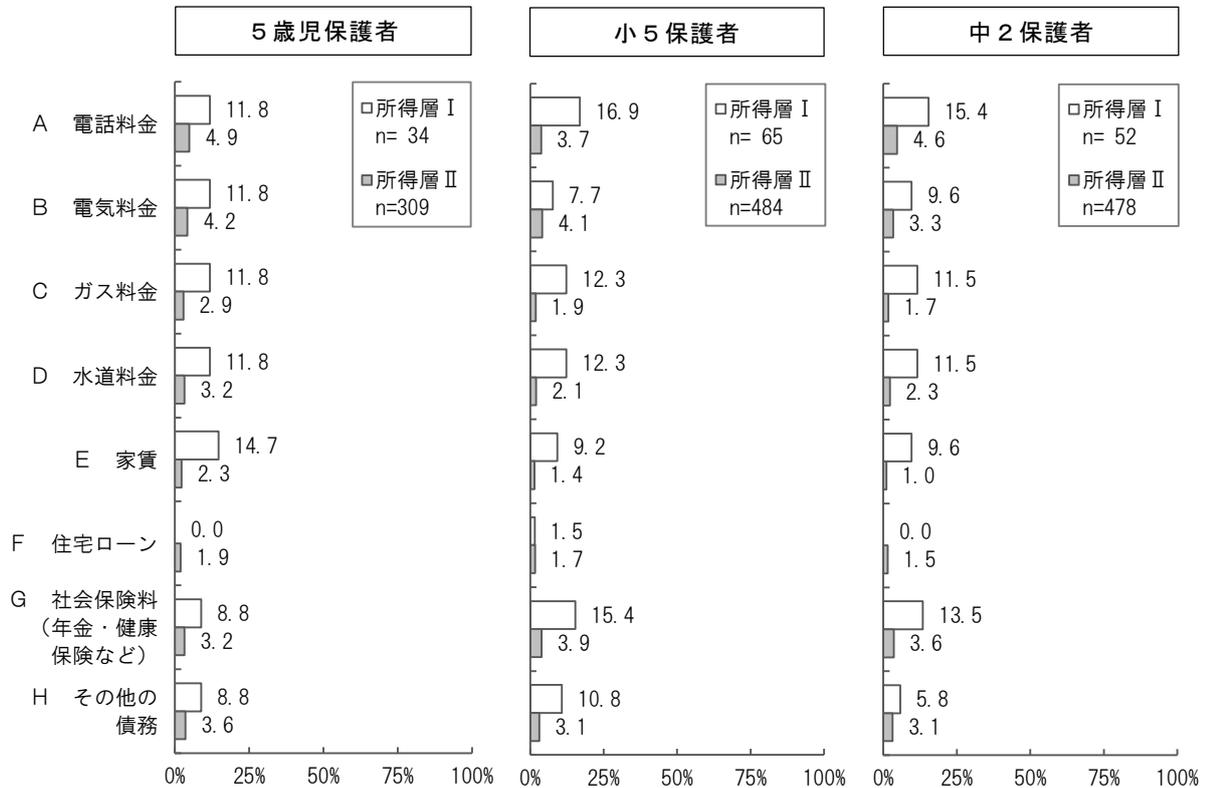
○過去1年間の未払い・滞納・債務不履行の経験の有無をみると、いずれの学年も「なかった」が最も高くなっており、「あった」と回答した方は1割未満となっています。

問32 過去1年間の未払い・滞納・債務不履行の経験の有無



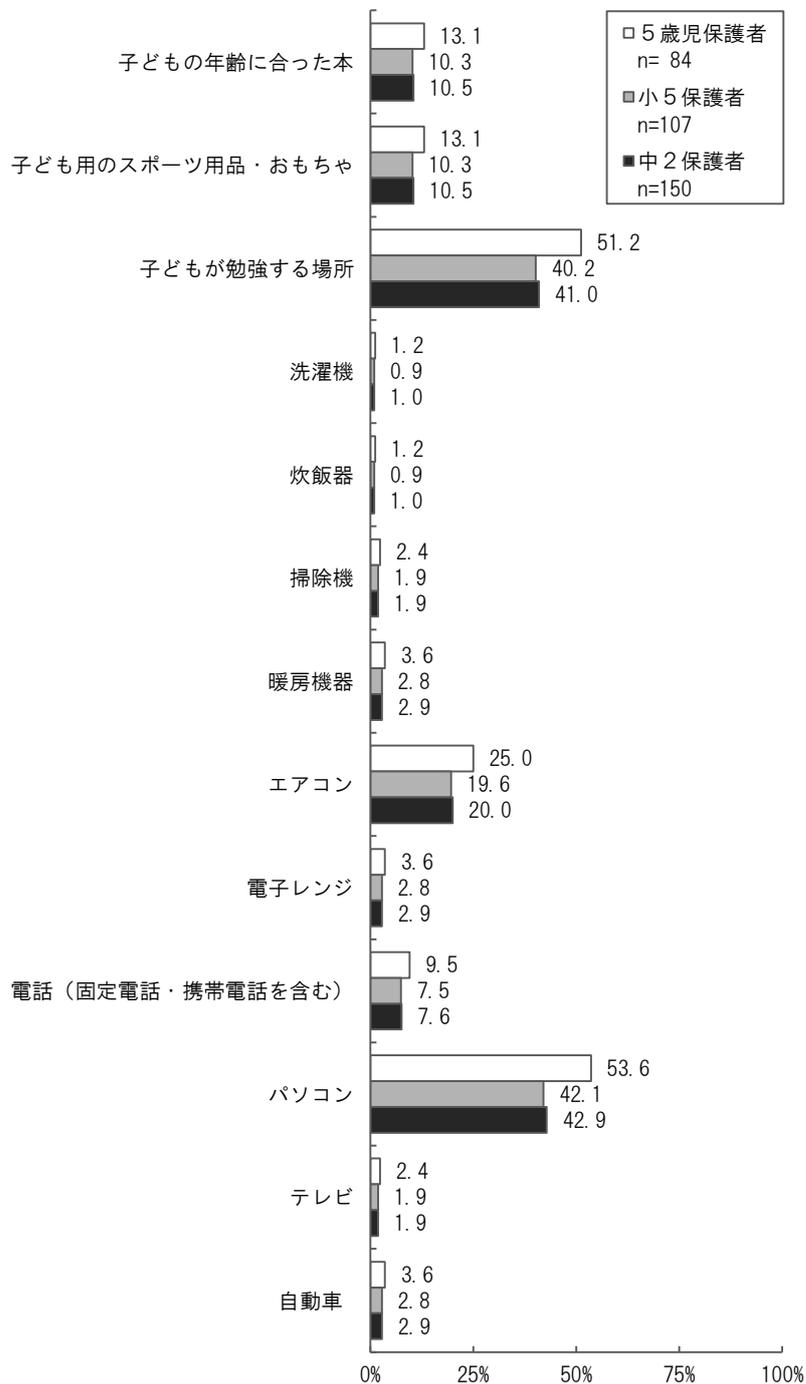
○所得層別に過去1年間の未払い・滞納・債務不履行の経験をみると、所得層Ⅰは所得層Ⅱよりも割合が高くなっており、5歳児保護者では「E 家賃の滞納」(14.7%)、小5保護者では「A 電話料金の未払い」(16.9%)、小5保護者・中2保護者では「A 電話料金の未払い」(16.9%・15.4%)が最も高くなっています。

問32 過去1年間の未払い・滞納・債務不履行の経験の有り(所得層別)



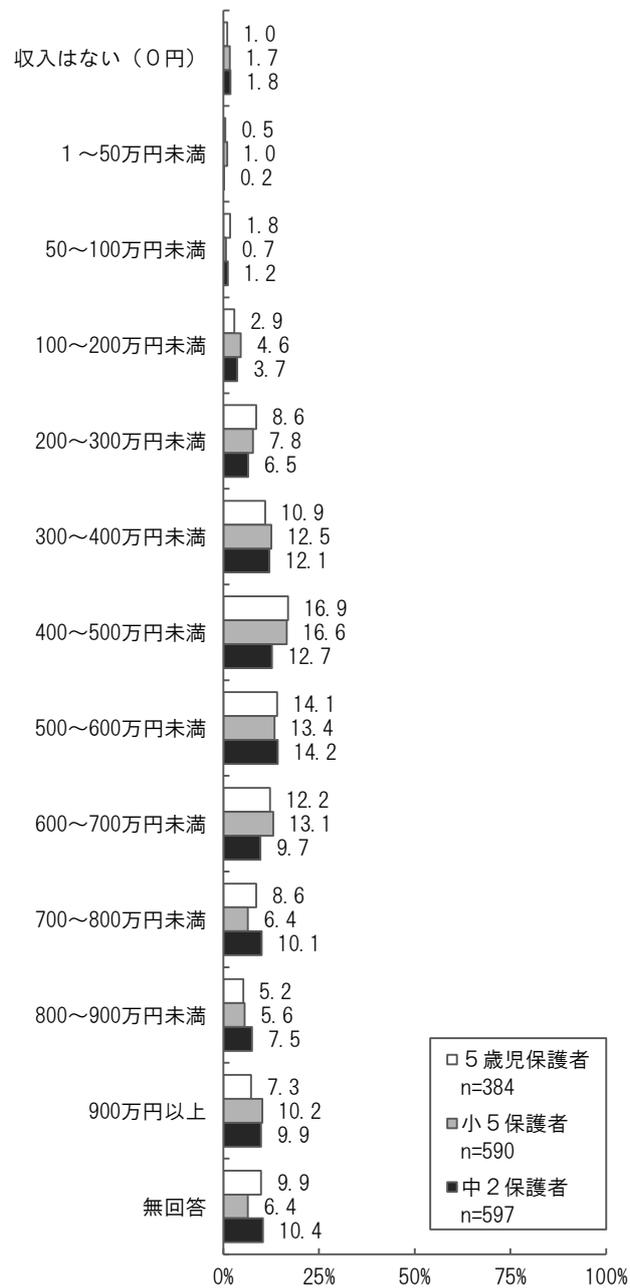
○経済的な理由のために世帯にないものをみると、いずれの学年も『ないものがある』と回答した方の4割以上が「パソコン」や「子供が勉強する場所」をあげています。

問33 経済的な理由のために世帯にないもの



○世帯全員の年間収入額は5歳児保護者・小5保護者で「400～500万円未満」（16.9%・16.6%）、中2保護者で「500～600万円未満」（14.2%）が最も高くなっています。

問35 世帯全員の年間収入額



11 これまでの経験について

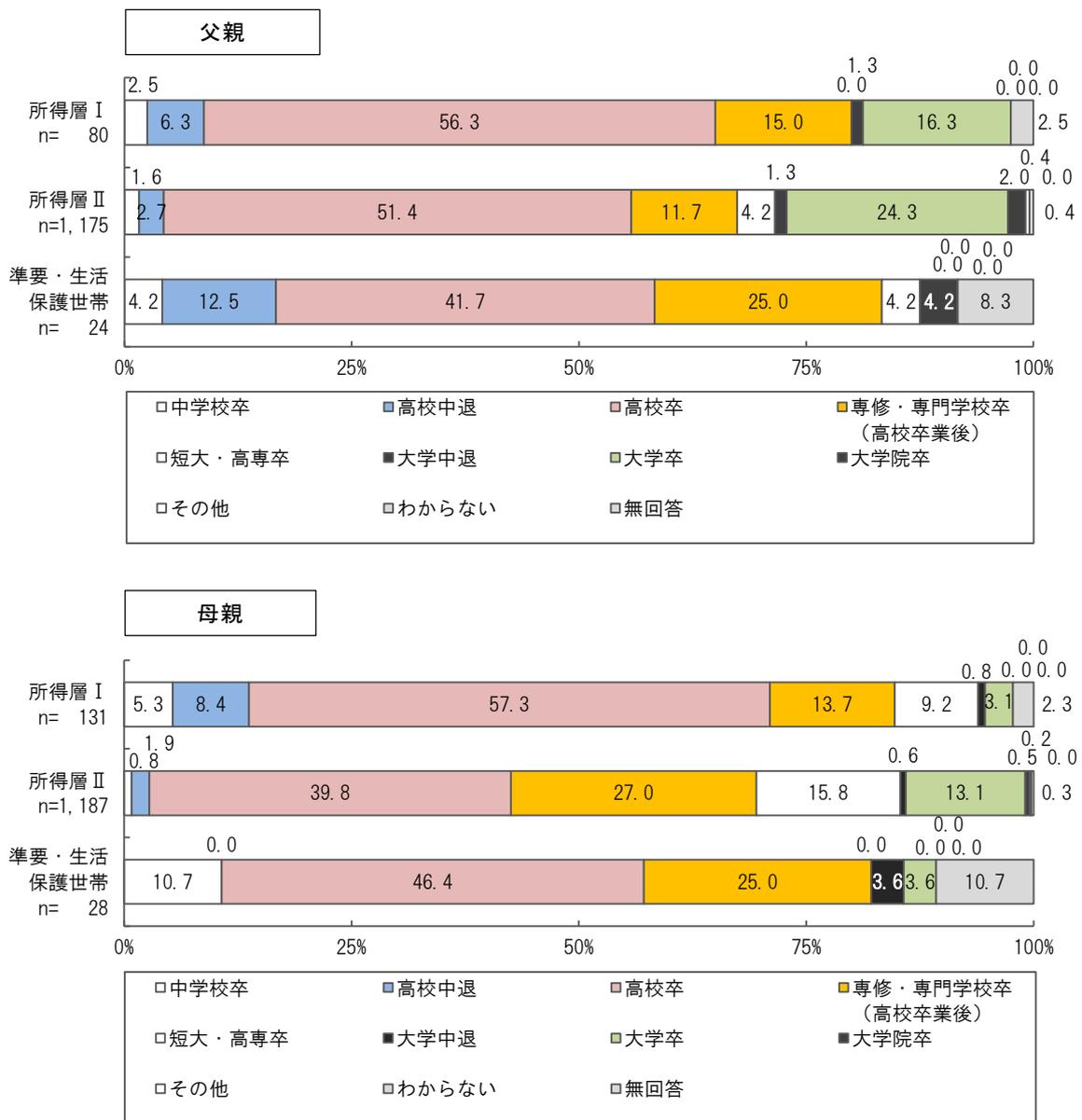
○父親の最終学歴を、3学年全体の所得層別でみると「短大・高専卒」、「大学卒」「大学院卒」の割合が所得層Ⅰと比べて所得層Ⅱで高くなっています。

○また、準要保護・生活保護世帯では、「高校卒」（41.7％）が最も高く、次いで「専修・専門学校卒（高校卒業後）」（25.0％）、「高校中退」（12.5％）となっています。

○同様に、母親の最終学歴をみると、「専修・専門学校卒（高校卒業後）」、「短大・高専卒」「大学卒」「大学院卒」の割合が所得層Ⅰと比べて所得層Ⅱで高くなっています。

○また、準要保護・生活保護世帯では、「高校卒」（46.4％）が最も高く、次いで「専修・専門学校卒（高校卒業後）」（25.0％）、「中学卒業」（10.7％）となっています。

問36 保護者の最終学歴（3学年全体の所得層別、準要保護・生活保護世帯別）

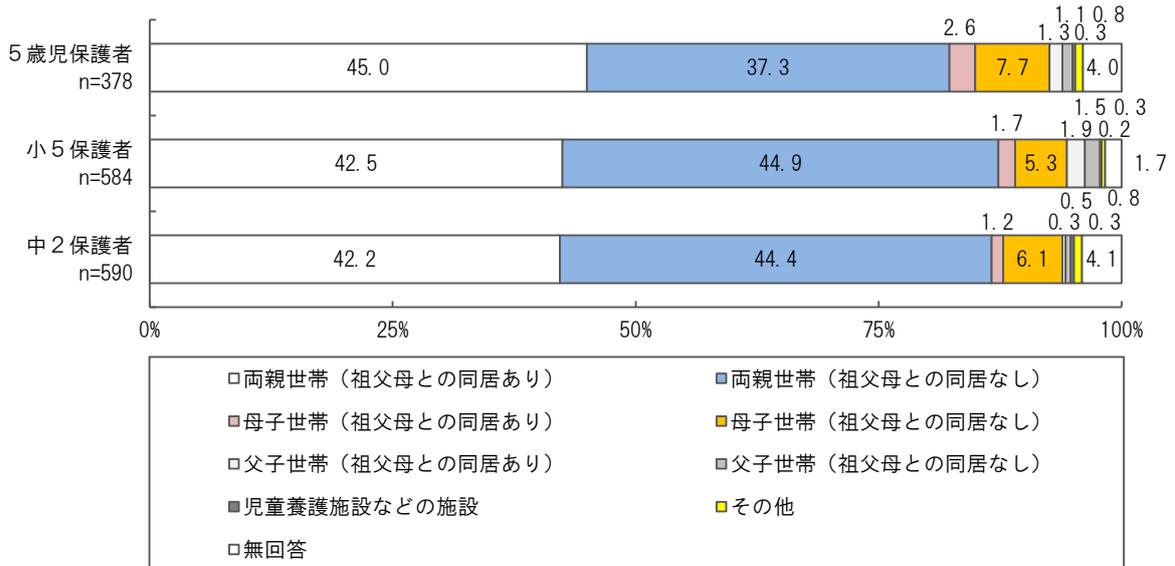


○保護者の中学3年生の頃の家庭の様子をみると、5歳児保護者は「両親世帯（祖父母との同居あり）」（45.0%）、小5保護者・中2保護者は「両親世帯（祖父母との同居なし）」（44.9%・44.4%）が最も高くなっています。

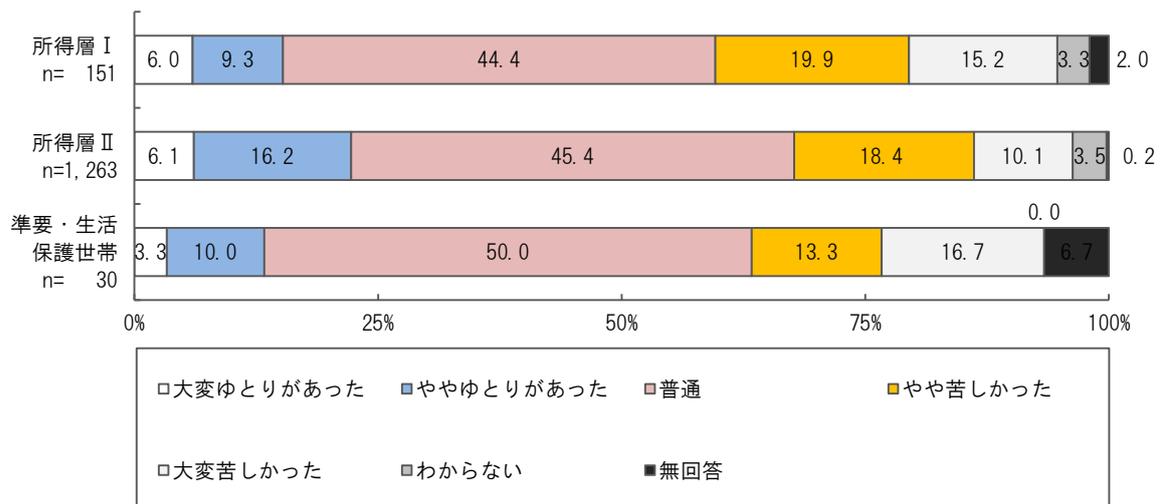
○同様に、3学年全体の所得層別でみると、「やや苦しかった」と「大変苦しかった」を合わせた割合は所得層Ⅰが所得層Ⅱよりも高くなっています。

○また、準要保護・生活保護世帯では、「やや苦しかった」と「大変苦しかった」を合わせた割合が30.0%となっています。

問37 中学3年生の頃の家庭の様子



問38 中学3年生の頃の暮らし向き（3学年全体の所得層別、準要保護・生活保護世帯別）

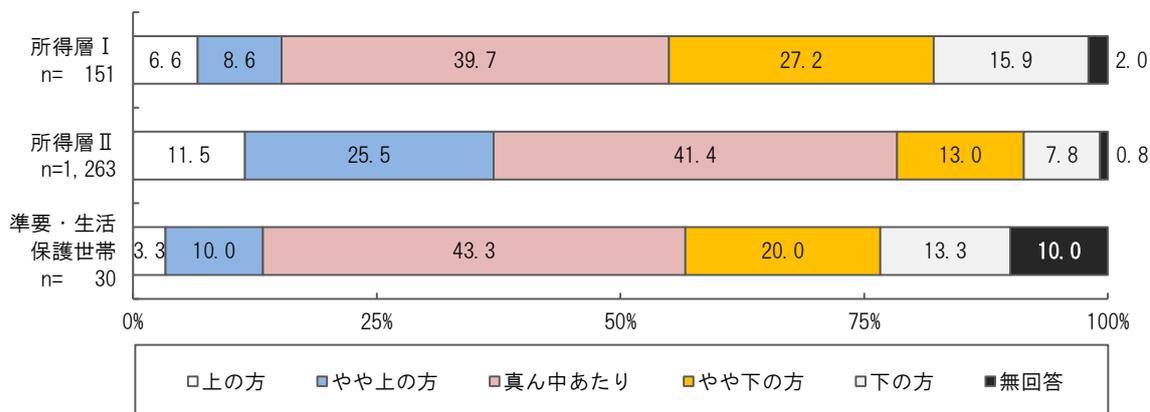


○保護者の中学3年生の頃の成績を3学年全体の所得層別で見ると、「やや下の方」と「下の方」を合わせた割合が所得層Ⅰにおいて所得層Ⅱよりも高く、その差は2倍となっています。

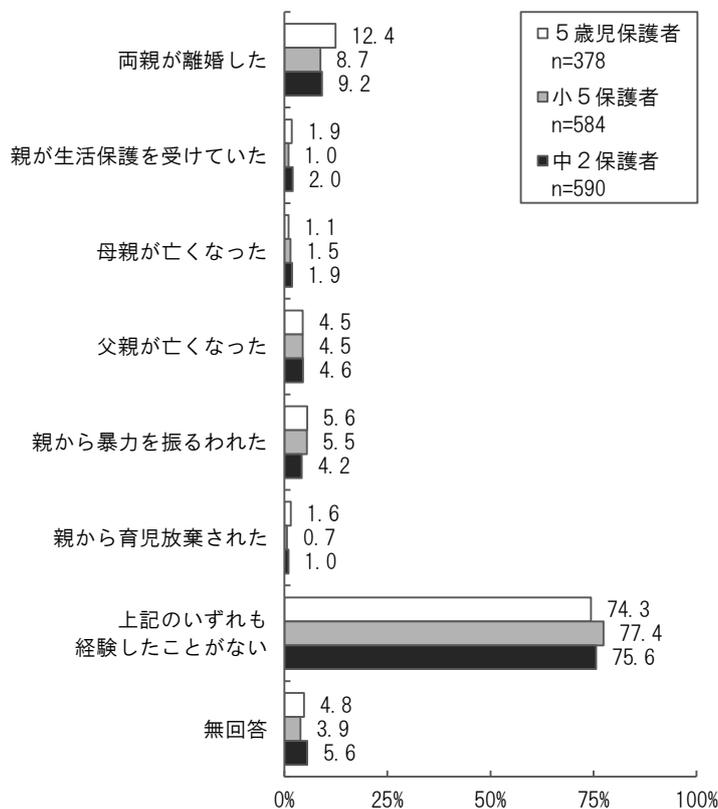
○また、準要保護・生活保護世帯では、「やや下の方」と「下の方」を合わせた割合が33.3%となっています。

○成人する前にあった出来事は、5歳児保護者で「両親が離婚した」(12.4%)が1割を超えており、小5保護者・中2保護者でもそれぞれ約1割と他の出来事と比べて高い割合となっています。

問39 中学3年生の頃の成績（3学年全体の所得層別、準要保護・生活保護世帯別）



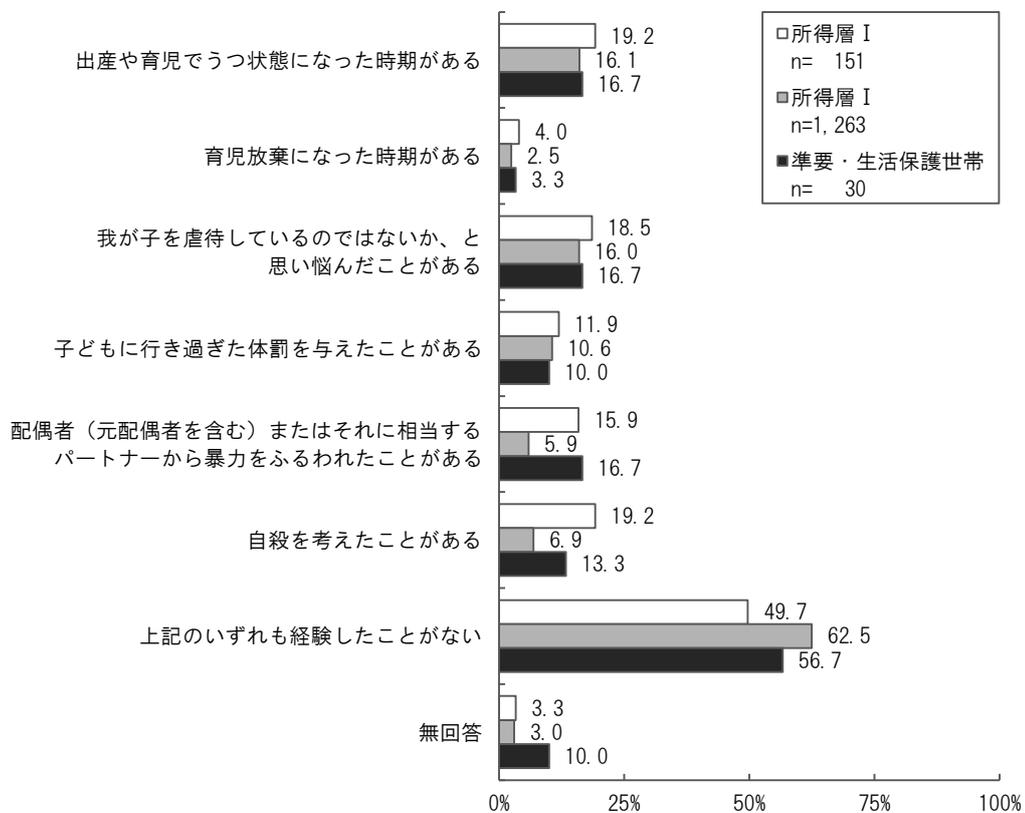
問40 成人する前に体験したこと



○子育てにかかわってから経験したことを3学年全体の所得層別で見ると、ともに最も割合の高い「上記のいずれも経験したことがない」(49.7%・62.5%)を除いては、所得層Ⅰの割合が所得層Ⅱを上回っています。

○また、準要保護・生活保護世帯では、「上記のいずれも経験したことがない」(56.7%)が最も高く、次いで「出産や育児でうつ状態になった時期がある」「我が子を虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある」「配偶者(元配偶者を含む)またはそれに相当するパートナーから暴力をふるわれたことがある」(各16.7%)となっています。

問41 子育てにかかわってから経験したこと
(3学年全体の所得層別、準要保護・生活保護世帯別)

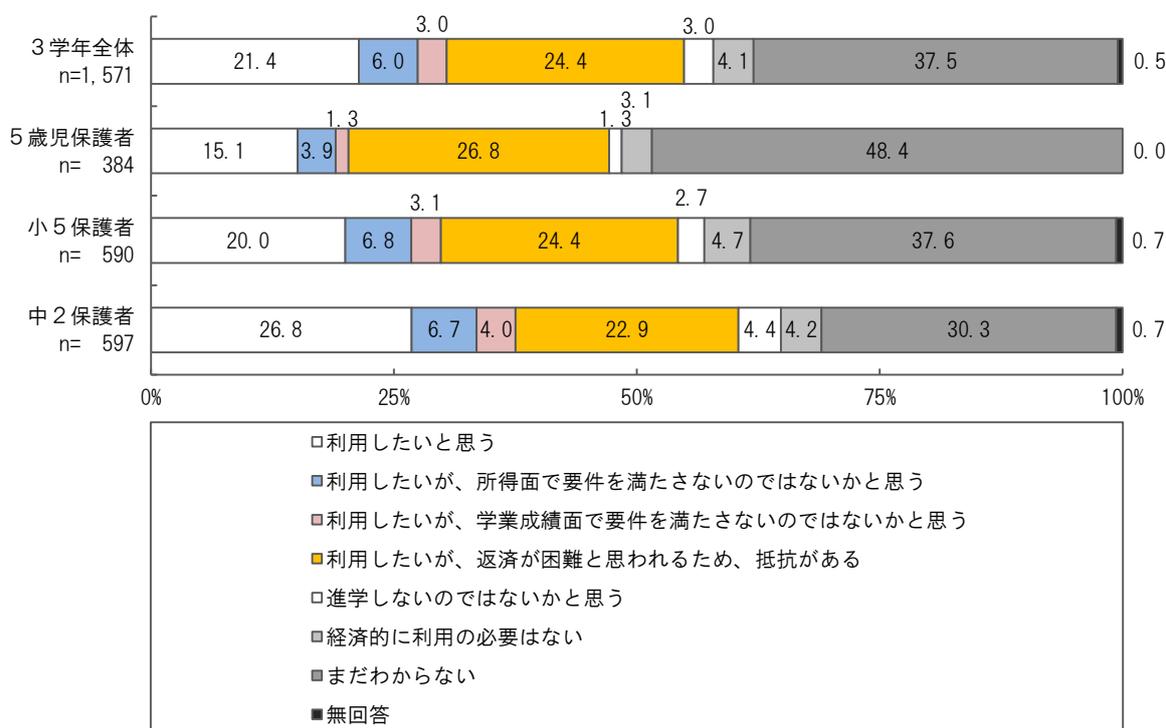


12 公的支援の利用状況について

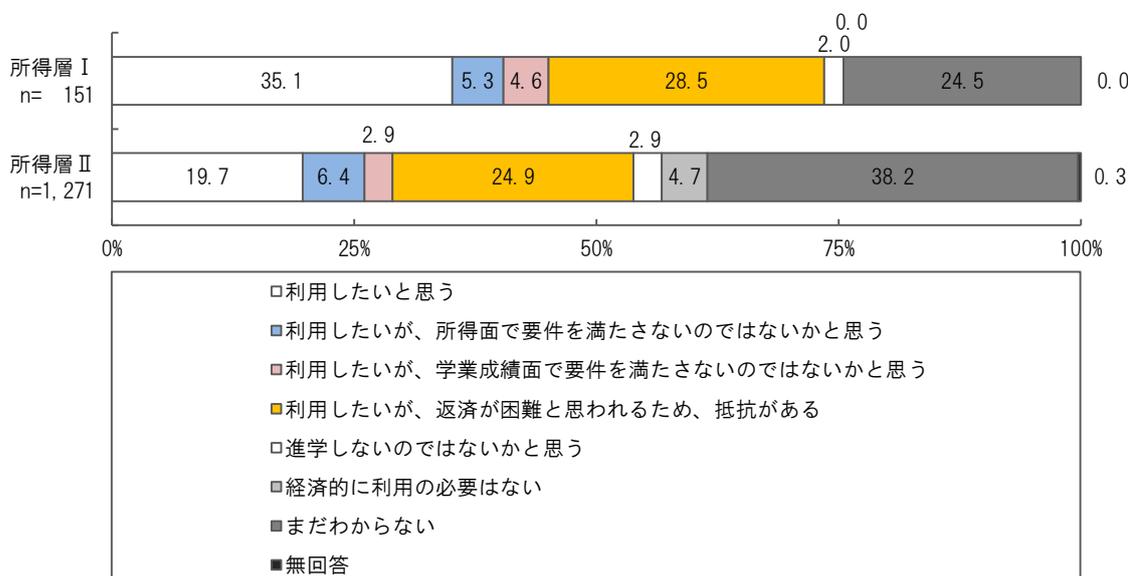
○子どもが進学する場合の奨学金利用希望をみると、5歳児保護者・小5保護者は「まだわからない」（48.4%・37.6%）が最も高く、次いで「利用したいが、返済が困難と思われるため、抵抗がある」（35.3%・30.8%）となっています。中2保護者では「まだわからない」（30.3%）が最も高く、次いで「利用したいと思う」（26.8%）となっています。

○進学時の奨学金の利用希望を所得層別でみると、「利用したいと思う」割合は所得層Ⅰが所得層Ⅱよりも高くなっています。

問42 進学時の奨学金の利用希望（学年別）



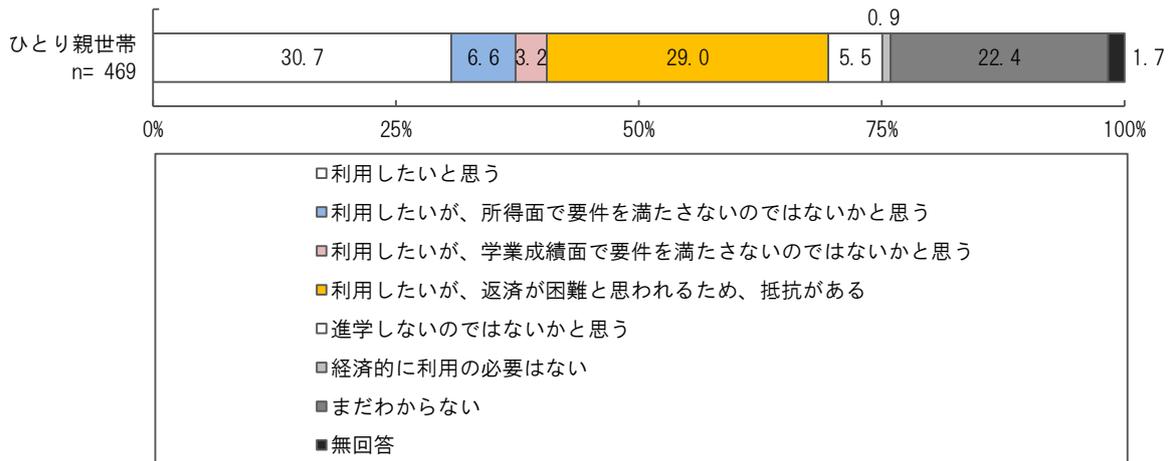
問42 進学時の奨学金の利用希望（3学年全体の所得層別）



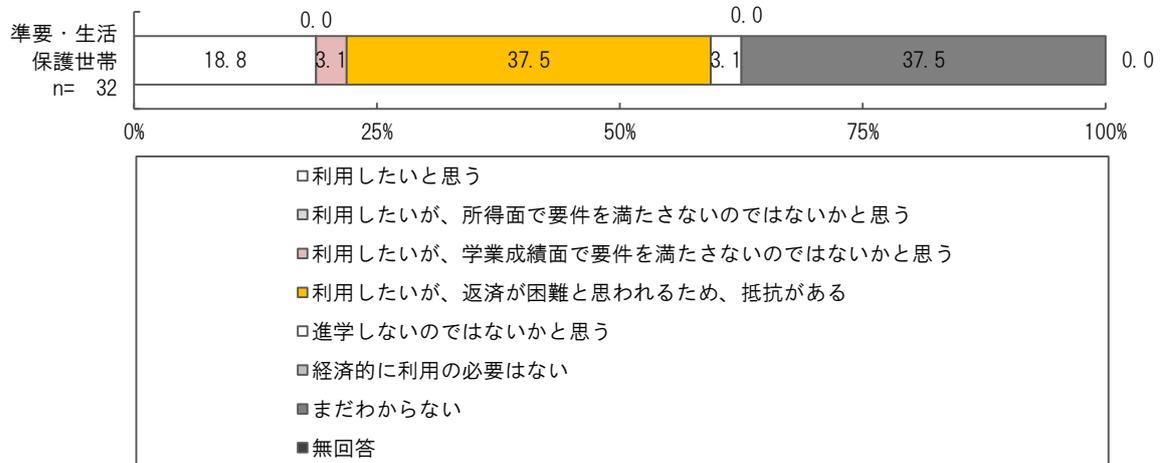
○ひとり親世帯の進学時の奨学金の利用希望は、「利用したいと思う」(30.7%)が最も高く、次いで「利用したいが、返済が困難と思われるため、抵抗がある」(29.0%)、「まだわからない」(22.4%)となっています。

○また、準要保護・生活保護世帯では、「利用したいが、返済が困難と思われるため、抵抗がある」「まだわからない」(各37.5%)が最も高く、次いで「利用したいと思う」(18.8%)となっています。

問42 進学時の奨学金の利用希望（ひとり親世帯）

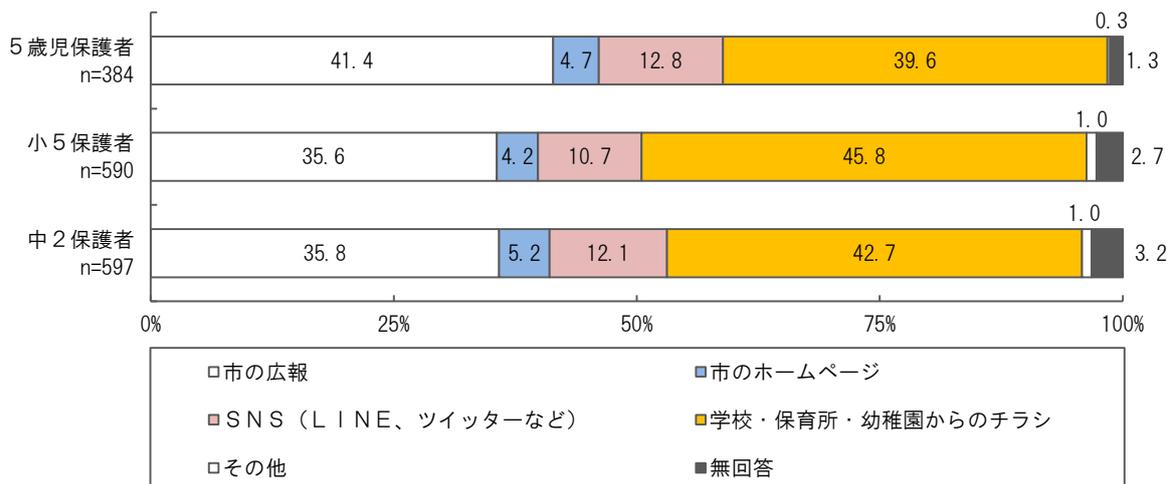


問42 進学時の奨学金の利用希望（準要保護・生活保護世帯）



○子どもに関する施策等の情報について希望する入手方法をみると、5歳児保護者は「市の広報」(41.4%)が最も高く、次いで「学校・保育所・幼稚園からのチラシ」(39.6%)となっています。小5保護者・中2保護者は「学校・保育所・幼稚園からのチラシ」(45.8%・42.7%)が最も高く、次いで「市の広報」(35.6%・35.8%)となっています。

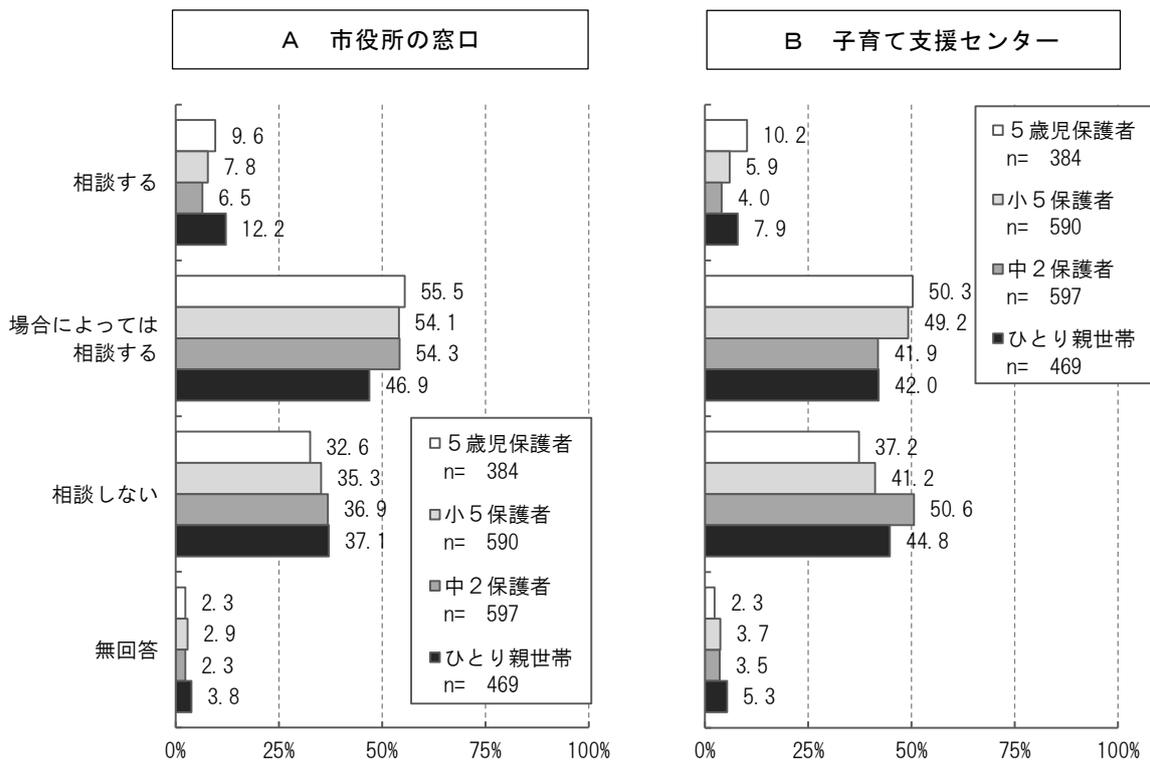
問43 子どもに関する施策等の情報について希望する入手方法



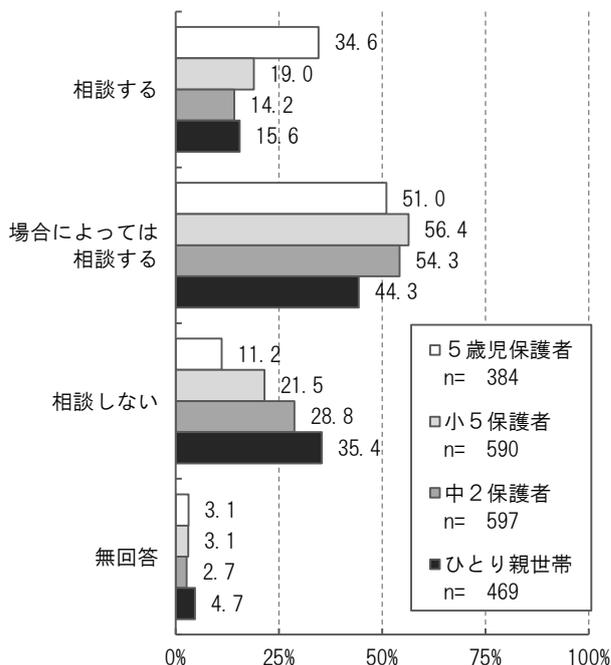
○困った時に相談する公的機関をみると、5歳児保護者では「相談する」と「場合によっては相談する」を合わせた割合は、『学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラー』（85.6%）が最も高く、次いで『市役所の窓口』（65.1%）、『子育て支援センター』（60.5%）となっています。

○また、ひとり親世帯をみると、「相談する」と「場合によっては相談する」を合わせた割合は、『学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラー』（59.9%）が最も高く、次いで『市役所の窓口』（59.1%）、『子育て支援センター』（49.9%）となっています。

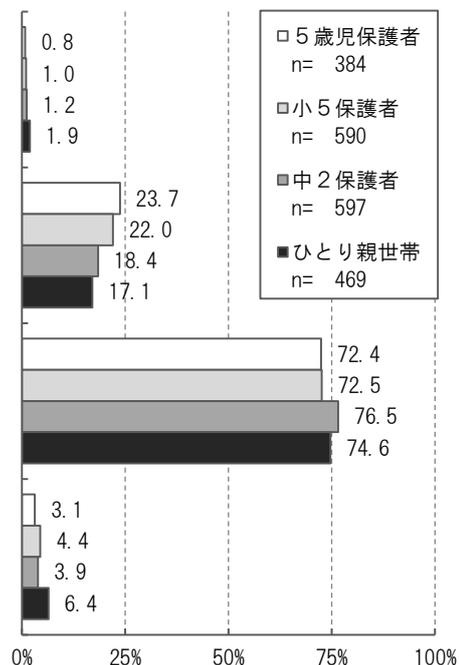
問44 困ったときに相談する公的機関



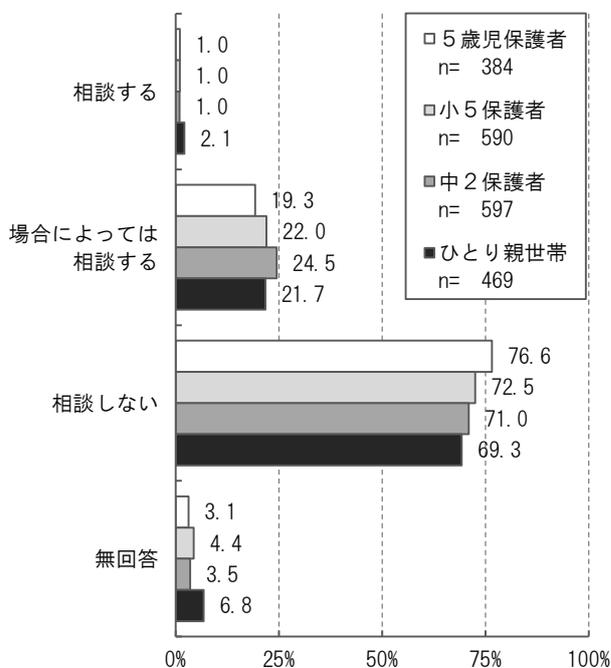
C 学校・保育所・幼稚園の先生、
スクールカウンセラー



D 民生委員・児童委員



E 社会福祉協議会



F ハローワーク員

